大野城市中心市街地活性化基本計画

平成 30 年 3 月

大野城市

はじめに

本市は、古くから博多と太宰府を結ぶ交通の要所として繁栄してきました。今も国道3号や九州自動車道、福岡都市高速道路が通り、福岡空港にも近く、また、ＪＲ鹿児島本線と西鉄天神大牟田線の２路線が通るなど、交通の便に大変恵まれた都市として発展し続けています。

中心市街地は商業施設や公共施設等の都市機能が集積し、市民の生活や活動の拠点として、重要な役割を担っています。

その中心市街地では、今回の計画の前身となる「大野城市中心市街地活性化基本計画」に基づいて、「まちやひと、文化をつなぐ　新しい〝まちづくりの軸〞の形成」をテーマとして、様々な事業に取り組んでまいりました。大野城トレイルの整備や西鉄天神大牟田線連続立体交差事業等を推進し、新しいまちづくりの軸が着実に形成されつつあり、それに伴い中心市街地の姿も大きく変わってきています。

一方では、少子高齢化や商業環境の変化、住民間交流の希薄化といった社会情勢の変化によって、中心市街地に求められる役割も多様化しています。これらの変化に対応しつつ、新たなまちづくりの軸を生かしたにぎわいを創出するため、中心市街地活性化基本計画の全面的な見直しを行いました。

本計画は、「便利なまち」「やさしいまち」「にぎわうまち」の３つの視点をテーマとして掲げ、市民と行政が一体となって中心市街地のにぎわいを創っていくための指針となるものです。市内外のあらゆる世代の人々に、「知ってもらう、来てもらう、好きになってもらう、住んでもらう」、魅力にあふれたまちづくりを目指し中心市街地の活性化に向けて取り組んでまいります。

最後に、本計画の改訂にあたり、本計画策定委員会の委員各位をはじめ、貴重なご意見・ご提言をいただきました皆様に心よりお礼申しあげますとともに、今後、本計画の推進に向けて、さらなるご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

平成３０年３月

大野城市長　井本宗司

目次

Ⅰ　計画策定の背景と目的…… p.1
1.背景と目的
2.計画の位置づけ
3.中心市街地の区域
4.計画の策定体制
5.計画期間

Ⅱ　中心市街地の現状把握と課題整理…… p.5
1.中心市街地の現状把握
（1）上位計画における中心市街地
（2）前回計画の概要と分析
（3）中心市街地の現状と課題

Ⅲ　中心市街地活性化の目標…… p.30
1.基本的な考え方
2.目標

Ⅳ　中心市街地活性化の方針…… p.32
1.便利なまち
2.やさしいまち
3.にぎわうまち

Ⅴ　中心市街地活性化の取り組み…… p.36
1.「便利なまち」に向けた取り組み
（1）西鉄高架事業と連動した市街地整備の推進
（2）駅を中心とした交通結節機能の強化
（3）駅周辺の利便性の向上
2.「やさしいまち」に向けた取り組み
（1）公共施設における機能の集約と強化による市民にやさしい環境の充実
（2）多世代にやさしい市街地環境の充実
3.「にぎわうまち」に向けた取り組み
（1）公共施設における機能の集約と強化によるにぎわいづくり
（2）商店街のにぎわいづくり
（3）高架下のにぎわいづくり
（4）歩いて楽しいにぎわいをつなぐトレイルの充実

Ⅵ　今後の展開…… p.47
1.PDCAサイクルの実践
2.目標の達成状況を確認する指標
3.目標の達成状況を確認する指標の目標値
4.目標の達成状況の公開・分析

参考資料…… p.50
［1］前回計画の概要
［2］上位・関連計画
［3］大野城市の概要
［4］中心市街地の成り立ち
［5］各商店街の概況
［6］市民意向
［7］中心市街地活性化基本計画策定委員会の名簿
［8］委員会の開催日時と主な議題

Ⅰ　計画策定の背景と目的

1.背景と目的

本市は、平成12年3月に『大野城市中心市街地活性化基本計画』（以下、前回計画）を策定しました。

前回計画は、『第４次大野城市総合計画』と『大野城市都市計画マスタープラン』を上位計画とし、本市の中心市街地の活性化の方向性を検討する個別計画として位置づけられ、西鉄天神大牟田線連続立体交差事業（以下、西鉄高架事業）、都市計画道路等の都市基盤整備を一体的に進めていくための整備方針等を定めるものとして策定したものです。

中心市街地には２本の鉄道が南北に縦貫し、加えて市の東側には九州自動車道、福岡都市高速道路、国道３号が位置し、前回計画に位置づけられた都市基盤整備の進捗により、これらと中心市街地が結ばれ、交通の利便性が高まりました。こうした中、市民の消費動向は福岡市都心部や郊外の大型小売店等へ移り、中心市街地における集客は減少傾向となっており、商店街の活気が徐々に失われつつあります。

西鉄高架事業や各種都市基盤整備事業の進捗により中心市街地の状況は変化し、また時間の経過とともに市民ニーズが多様化する中で、上位計画の見直しや中心市街地に関連する計画が策定され、新たな事業等も計画、実施されています。

これら計画の策定状況や関連事業の実施状況等を踏まえると、中心市街地の活性化に向けた方針や取り組みについても見直す時期を迎えていると言えます。

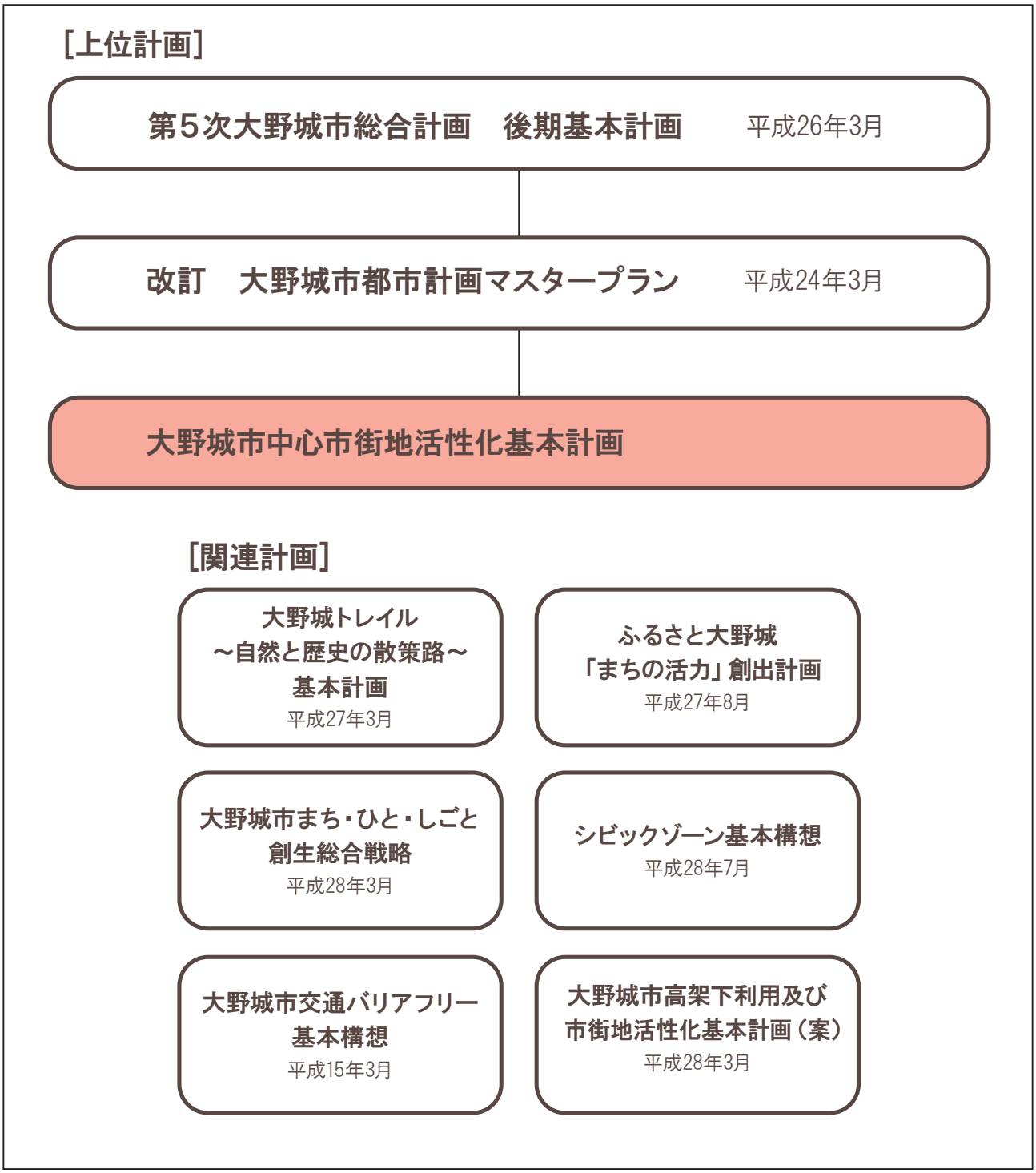
今回の計画では、中心市街地の現状や市民意向を踏まえ、今後の目標、方針、取り組み等を明確に示し、中心市街地のにぎわいの創出を推進することを目的とします。

2.計画の位置づけ

本計画は、『第５次大野城市総合計画』と『改訂大野城市都市計画マスタープラン』を上位計画とし、中心市街地の活性化に向けた計画として位置づけます。

本計画に基づき、関連計画との整合を図り、中心市街地の活性化に向けた取り組みを推進していきます。

図：計画の位置づけ



3.中心市街地の区域

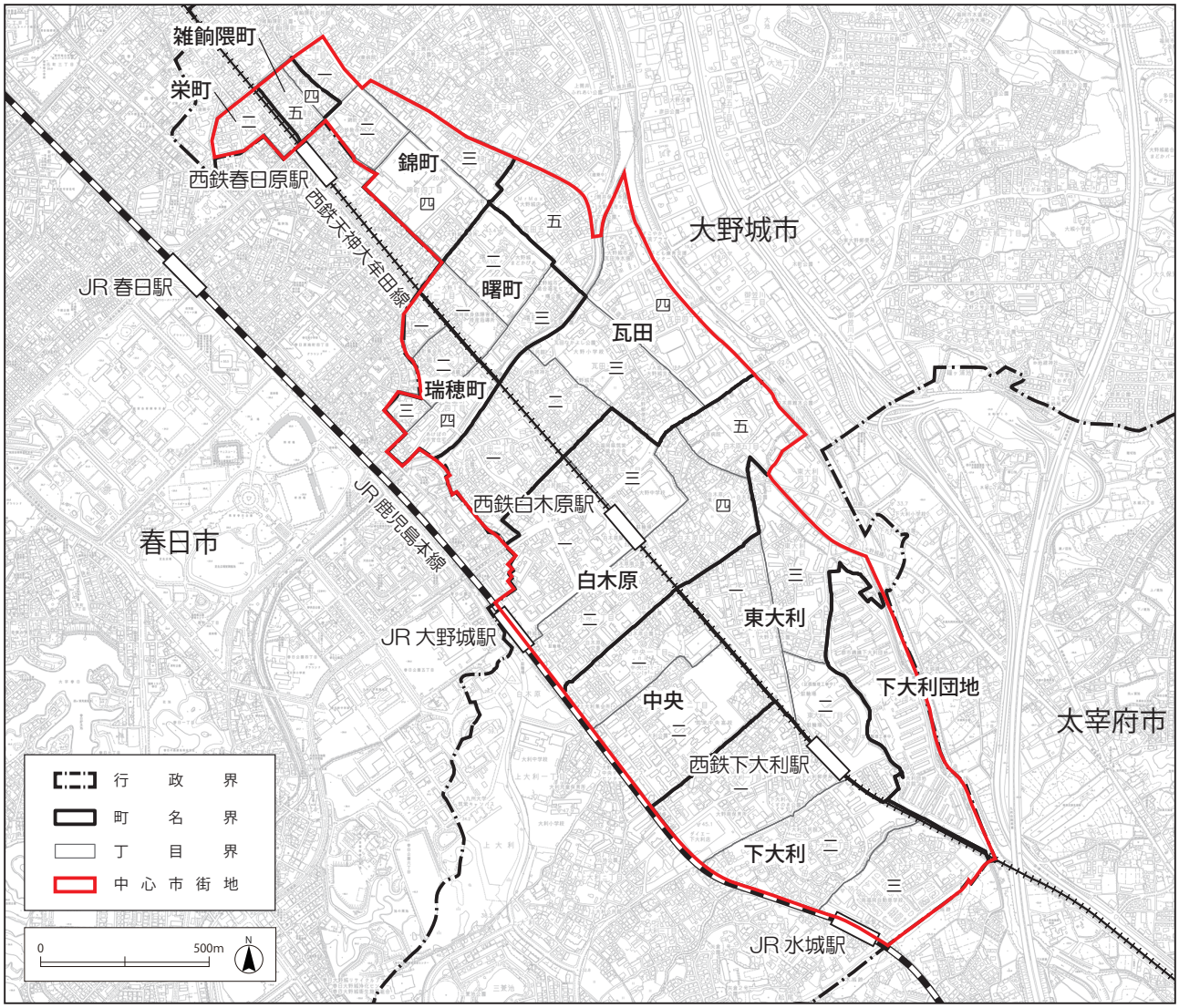
本計画では、市役所等の公共施設、西鉄天神大牟田線の各駅（春日原駅･白木原駅･下大利駅）とJR鹿児島本線の各駅（大野城駅･水城駅）、各駅前の商店街、各駅の徒歩圏等に配慮し、複合的な都市機能が集積する中心市街地の区域（約228ｈａ）を以下に設定します。

＜区域内の町丁名＞

- 雑餉隈町四･五丁目
- 栄町二丁目
- 錦町一丁目～四丁目
- 曙町一丁目～三丁目
- 瑞穂町一丁目～四丁目
- 瓦田一丁目～五丁目
- 白木原一丁目～五丁目
- 中央一･二丁目
- 東大利一丁目～三丁目
- 下大利団地
- 下大利一丁目～三丁目

図：中心市街地の位置

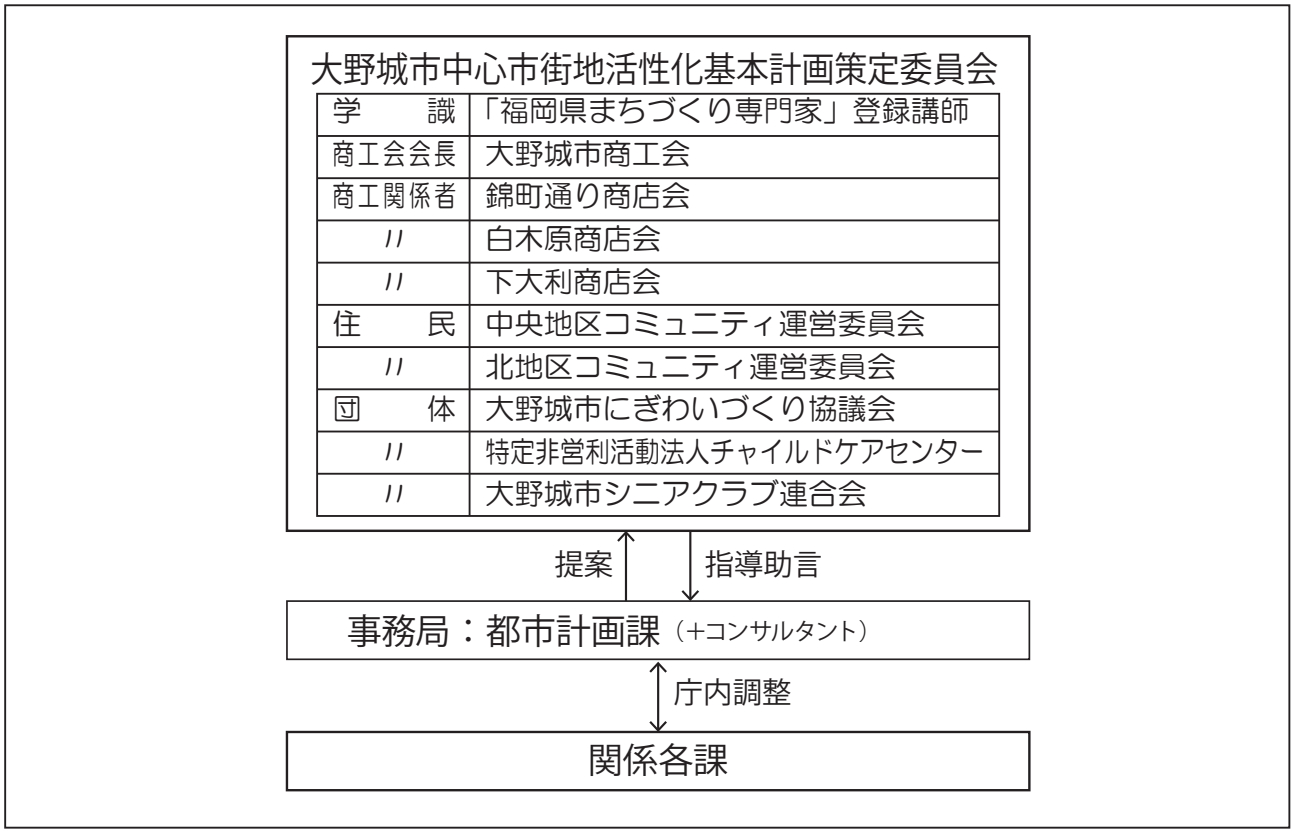
図：中心市街地の区域



4.計画の策定体制

本計画の策定体制は以下のとおりです。

図：計画の策定体制



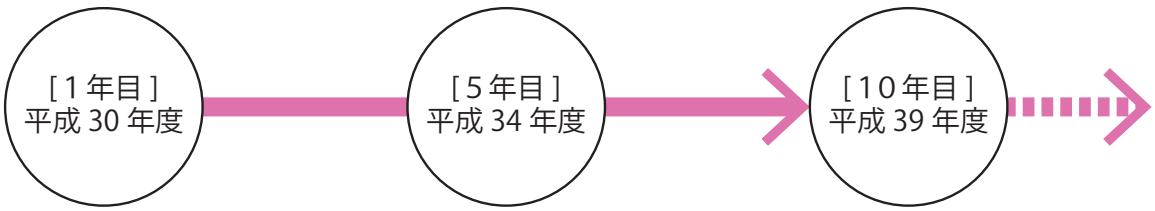
5.計画期間

本計画の計画期間は、平成30（2018）年度を初年度とし、平成39（2027）年度までの10年間を基本とします。

5年目の平成34年度には、目標の達成状況の確認を行います。

なお、本計画は、中心市街地活性化に関連する法の改正状況、上位関連計画の策定や改訂状況、中心市街地の状況等を踏まえ、必要に応じて改訂を行います。

図：計画期間



Ⅱ　中心市街地の現状把握と課題整理

1.中心市街地の現状把握

(1) 上位計画における中心市街地

1) 第5次大野城市総合計画 後期基本計画（平成26～30年度）

『第5次大野城市総合計画』における中心市街地は、以下のとおり定められています。

図：総合計画における中心市街地（資料：『第5次大野城市総合計画　後期基本計画』）

第１章後期基本計画の策定にあたって
④土地利用
１ 中心市街地地域
鉄道駅を核として、商業・サービス施設や中高層の共同住宅が集積する市街地と、旧集落を含む既成市街地が共存する地域です。
西鉄の高架事業など都市基盤整備事業を推進しながら既成市街地の良好な住環境とも調和のとれた地域とします。
第３章　分野別プラン
⑥自然と共生する便利で快適なまち
１ 機能的で潤いのある都市空間の創出
③中心市街地のにぎわい創出
【基本方針】高質な歩行空間・ネットワークの確保を推進することで、人通りの増加を図り、沿道のにぎわい創出を図ります。
【主な取り組み】１）中心市街地活性化基本計画に基づいた重点地区の整備促進と検証・見直しの実施

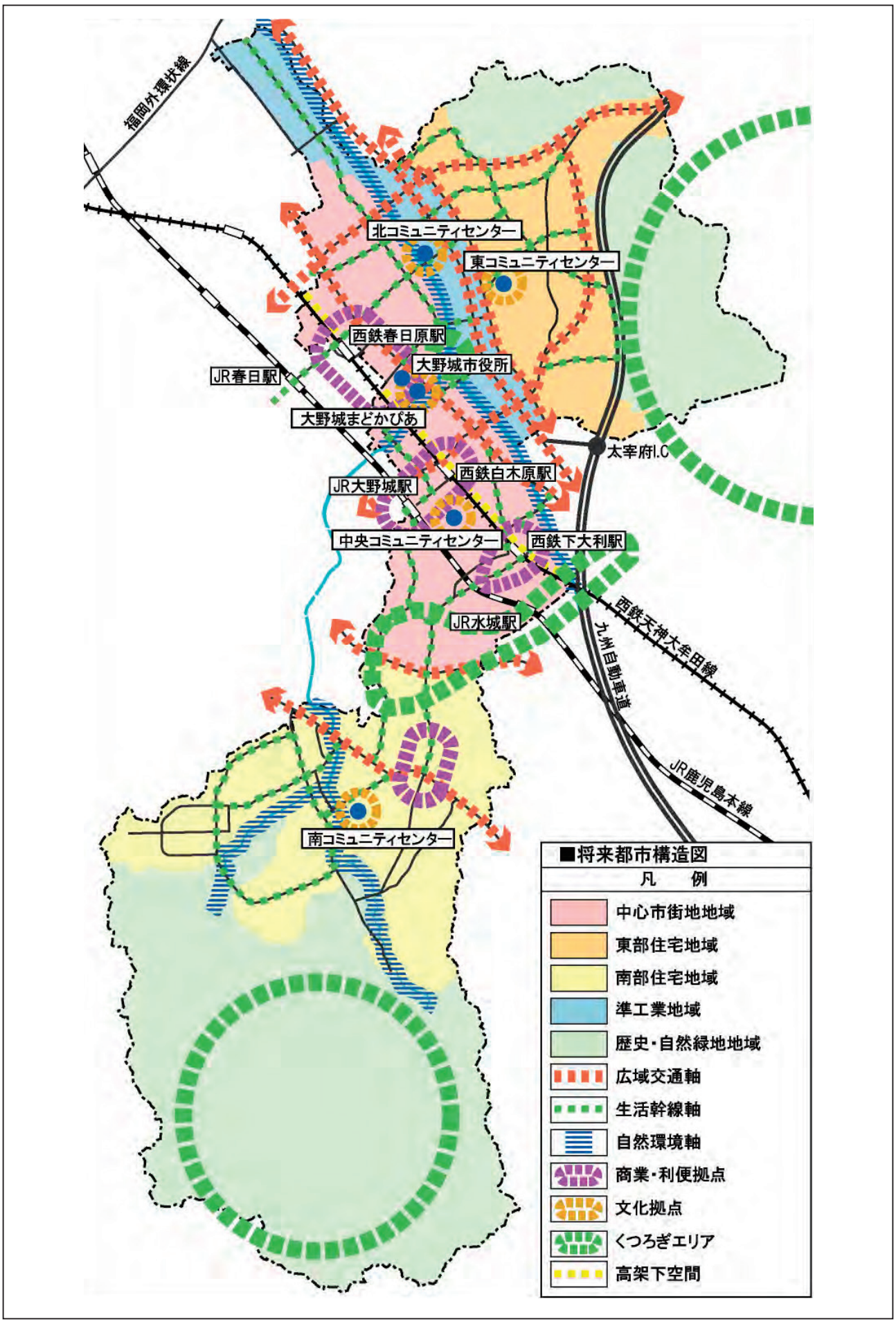
2) 改訂大野城市都市計画マスタープラン（平成24～33年度）

『改訂大野城市都市計画マスタープラン』における中心市街地については、以下のとおり定められています。

図：都市計画マスタープランにおける中心市街地（資料：『改訂大野城市都市計画マスタープラン』）

Ⅱ章大野城市の将来像
３．将来の都市構造（骨格プラン）
■地域
●中心市街地域
・鉄道駅を核として、商業・業務サービス施設や中高層の共同住宅が集積する市街地と旧集落を含む既成市街地が共存する地域です。
・商業・業務施設の集積等により市民生活の利便性を高めるとともに、無秩序な建物の高層化を抑制し、既成市街地の良好な住環境を維持できるよう調和のとれた地域とします。

図：将来の都市構造（骨格プラン）（資料：『改訂大野城市都市計画マスタープラン』）



（2）前回計画の概要と分析

1）前回計画の概要

前回計画の概要は、以下のとおりです。

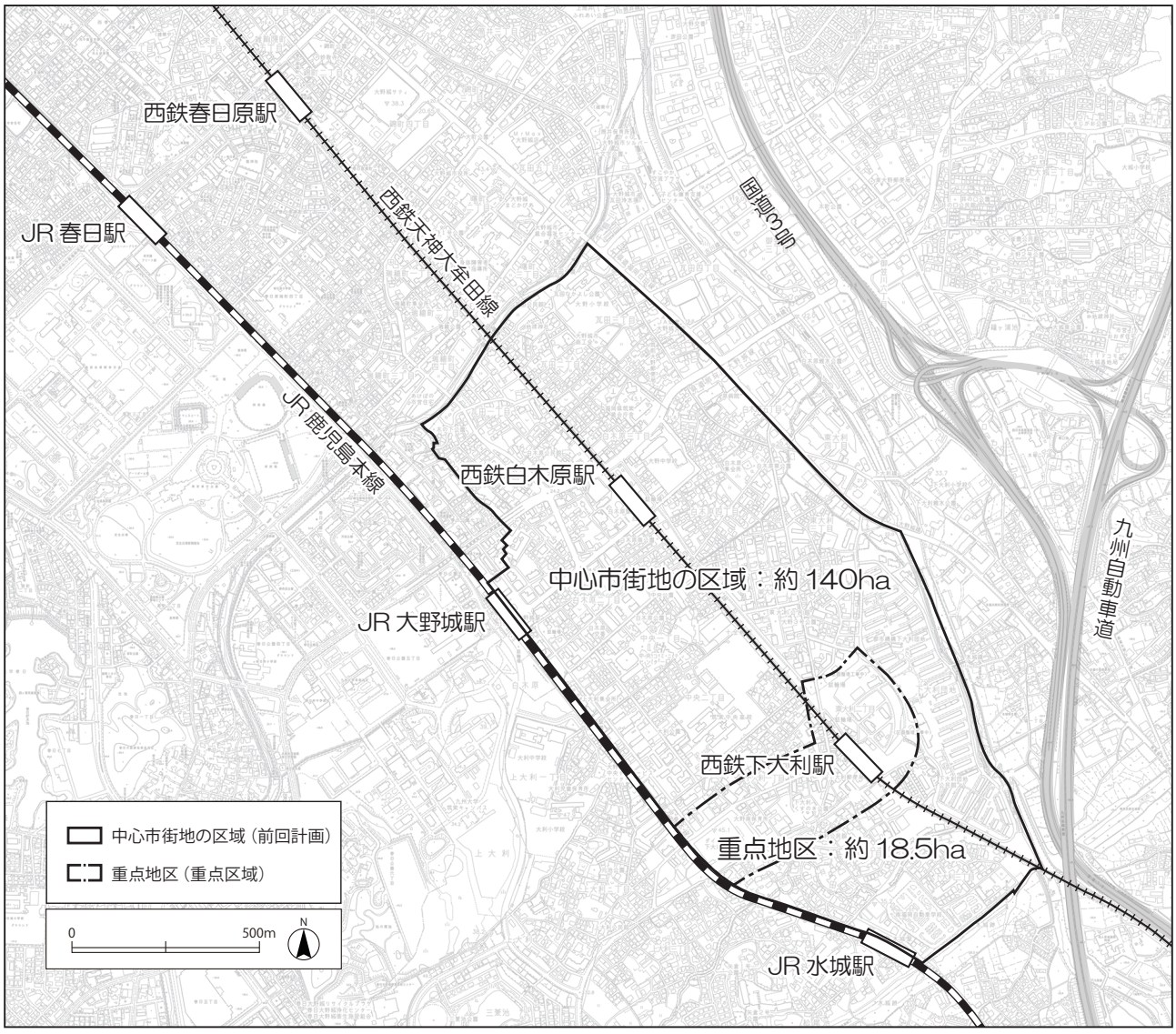
①目的

- 中心市街地の交通、駅周辺等の環境の改善、都市機能の更新と経済活力の向上、良好な商業と都市型居住空間の創出を市民との共働作業で進めていくこと

②対象区域

- 中心市街地の区域：西鉄白木原駅･西鉄下大利駅周辺
- 重点地区：西鉄下大利駅周辺

図：前回計画における中心市街地の区域、重点地区



③中心市街地の活性化の方針

- 中心市街地に設定した西鉄白木原駅･西鉄下大利駅周辺について、活性化を図るための目標･テーマ･基本方針･中心市街地の整備方針を設定

（1）目標

①2つの拠点を持つにぎわいのまちづくり

②うるおいでつなぐ交流のまちづくり

③まちを育てる参加のまちづくり

（2）テーマ

まちやひと、文化をつなぐ　新しい“まちづくり軸”の形成

（3）中心市街地の活性化の基本方針

①風景軸としてのまちづくり軸の形成

②西鉄大牟田線の高架化に連動した交通ネットワークの形成による駅周辺のにぎわいの創出

③2つの駅周辺の中心拠点の個性を活かした役割分担による活性化の推進

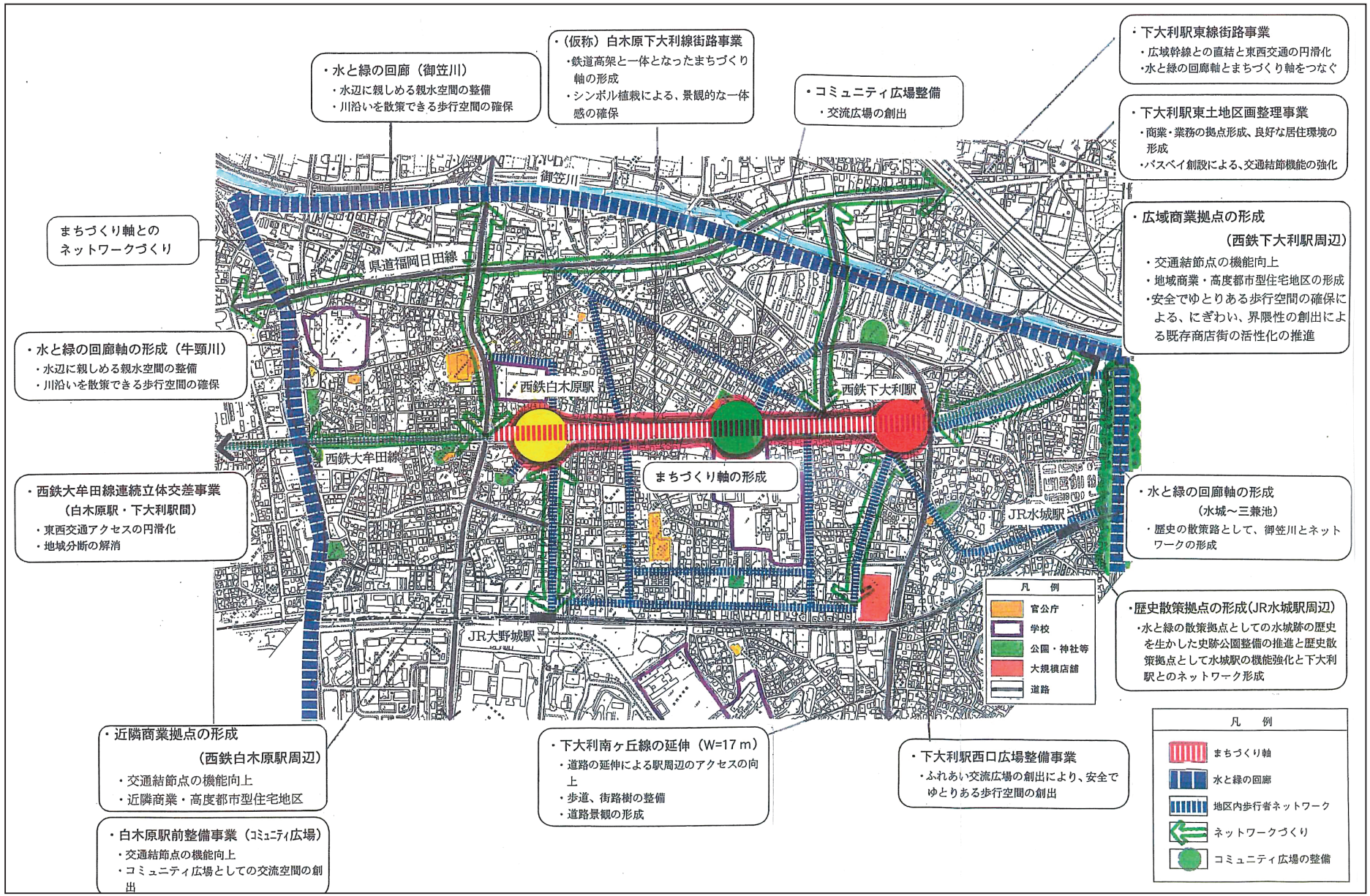
④多様な市街地が共存する質の高い居住環境づくり

⑤歩いて回れる中心市街地のコンパクトさを活かした歩行者ネットワークづくり

⑥多様な生活様式を持った市民が交流できる空間の創出

⑦市民参加の機会の創出によるまちづくりの推進

図：中心市街地の整備方針



（資料：大野城市中心市街地活性化基本計画／平成 12 年 3 月策定）

④重点地区の活性化の方針

・重点地区に設定した西鉄下大利駅周辺ついて、活性化のテーマ·活性化の基本方針·整備方針を設定

（1）テーマ

まちなかを緑とゆとりと安心でつなぐ、暮らし創造の都市空間づくり

「かいわい、にぎわい、ワイワイみんなのまちづくり」

（2）重点地区の活性化の基本方針

①アクセス機能の強化と駅東西の機能分担

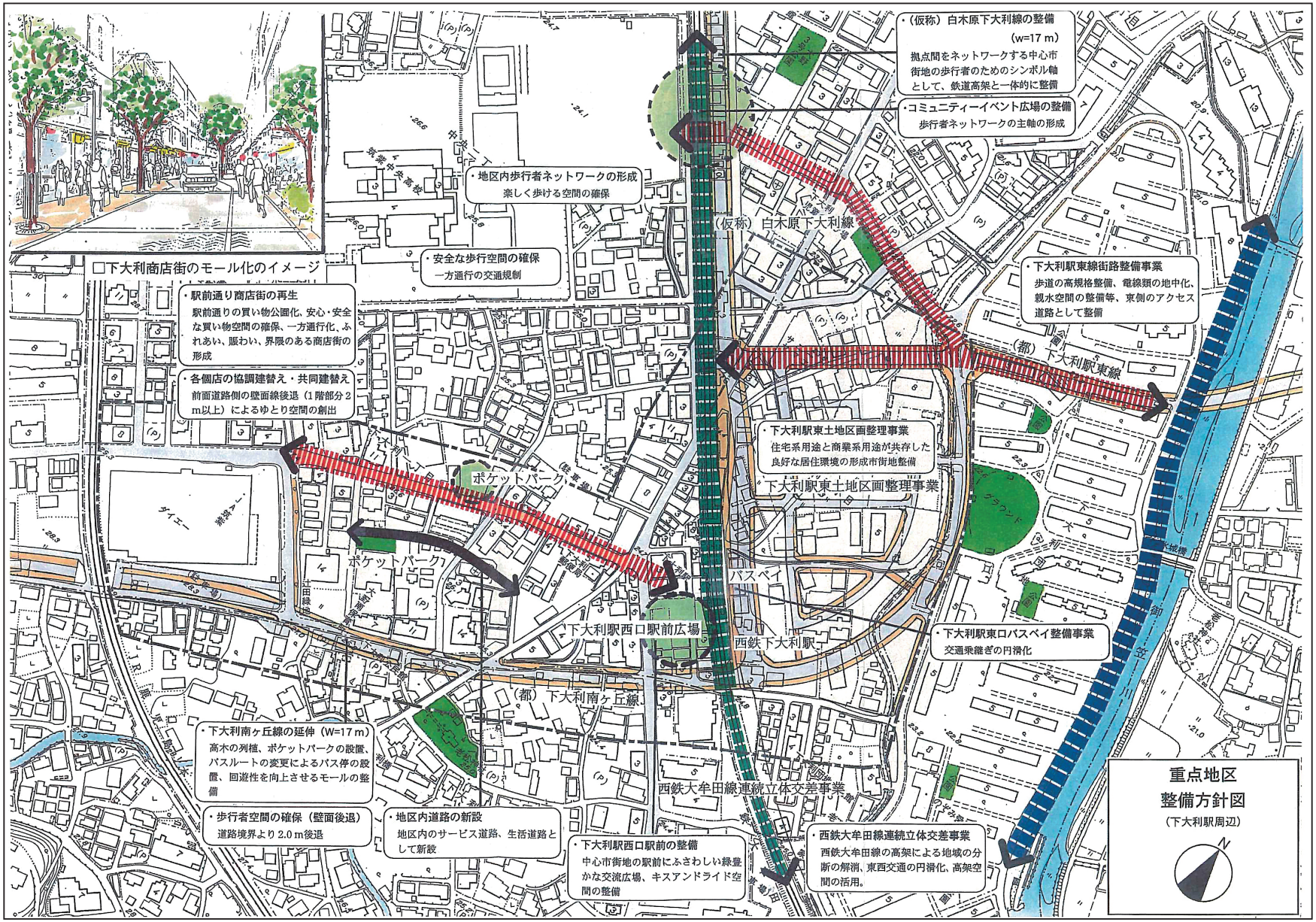
②安全な歩行者空間の創出と散策ネットワークの形成によるにぎわい·界隈性の創出

③良好な居住環境を創出する面整備事業の実施

④電線の地中化、緑化等による駅周辺の景観の向上

⑤まちづくりのプロセスに関わる市民参加機会の創出

図：重点地区の整備方針



（資料：大野城市中心市街地活性化基本計画／平成12年3月策定）

2）前回計画の分析

①前回計画の進捗状況

＜次頁表❶～❻の進捗状況＞

前回計画では整備方針に加えて、具体的な整備プログラムを明記していました。

❶・❷・❹・❺は、実施中であり、整備の推進を図っています。

❸・❻は、今後、西鉄高架事業の進捗とあわせた工事着手を予定しています。

＜❼～⓯の進捗状況＞

前回計画に整備方針を明記していました。

関連計画を策定し、それぞれ整備の推進を図っています。

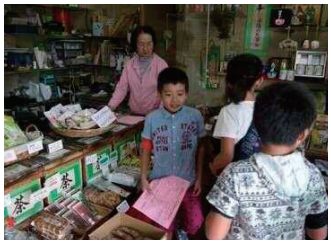
＜市民参加の進捗状況＞

前回計画には、市民参加のまちづくりに関する目標や基本方針を定めていました。

本市は、市民参加の機会の創出によるまちづくりの推進に向けて、計画の策定や事業の実施にあたっては適宜、市民参加のワークショップ、市民意見の募集等に取り組んでいます。また、計画の推進に関しても市民参加型のイベント開催等に取り組んでいます。

市民参加のワークショップ

市民意見の募集



市民参加イベントの開催

②前回計画の分析

前回計画の目的を踏まえると、中心市街地の交通、駅周辺等の環境の改善については、西鉄高架事業や関連する道路や駅前広場整備等の施設整備が実施中あるいは整備予定であり、計画的な完了が求められています。

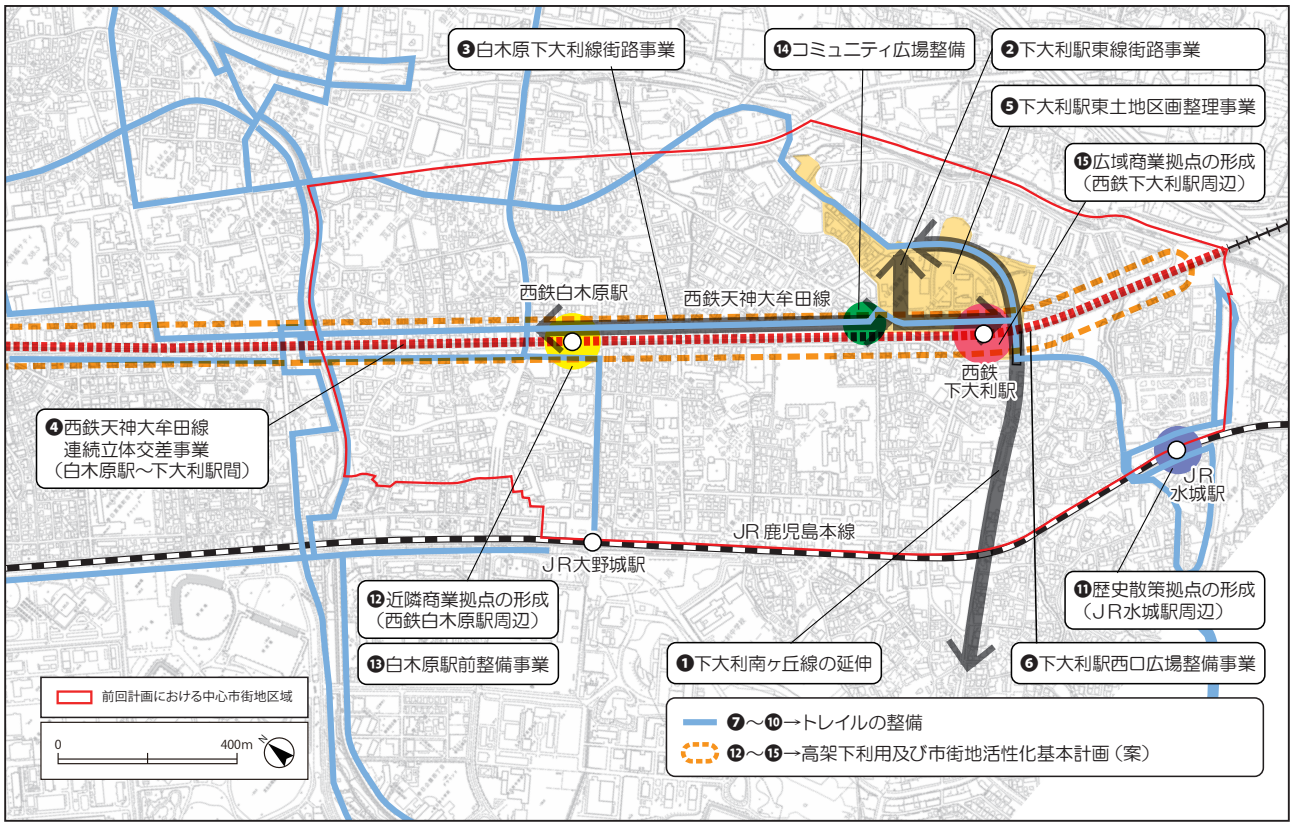
市民との共働による都市機能の更新と経済活力の向上、良好な商業と都市型居住空間の創出については、市民参加による取り組みのさらなる推進に期待が寄せられています。

表：前回計画に定めた中心市街地の整備方針の進捗状況

番号	整備方針	計画実施年度	進捗状況	実施主体
❶	下大利南ヶ丘線の延伸（W＝17ｍ）	H14～H35	・実施中	市
❷	下大利駅東線街路事業	H12～	・実施中（区画整理地内含む）	市
❸	白木原下大利線街路事業	H33～	・実施中	市
❹	西鉄天神大牟田線連続立体交差事業（白木原駅～下大利駅間）	H15～H33	・実施中	県
❺	下大利駅東土地区画整理事業	H12～H35	・実施中	市
❻	下大利駅西口広場整備事業	H14～H35	・実施中	市
❼	水と緑の回廊（御笠川）	H26～H29	・「大野城トレイル」（※）として、市内全域を網羅する7ルートを整備完了	県・市
❽	水と緑の回廊軸の形成（牛頸川）	H26～H29		県・市
❾	水と緑の回廊軸の形成（水城～三兼池）	H26～H29		市
❿	まちづくり軸とのネットワークづくり	H26～H29		市
⓫	歴史散策拠点の形成（JR水城駅周辺）	―	・ふるさと水城跡公園を整備 ・大野城トレイル関連のサイン設置、マップ作成を完了	市
⓬	近隣商業拠点の形成（西鉄白木原駅周辺）	―	・市民参加の下、「高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）」をとりまとめた ・同計画の策定を経て、整備の推進に取り組む予定	市民・市
⓭	白木原駅前整備事業（コミュニティ広場）	―		市
⓮	コミュニティ広場整備	―		市
⓯	広域商業拠点の形成（西鉄下大利駅周辺）	―		市民・市

※「大野城トレイル（以下、トレイル）」とは、ふるさと大野城を巡る自然と歴史の散策路です。本市は、「大野城トレイル～自然と歴史の散策路～基本計画」に基づき、「大野城トレイルマップ」を作成・配布するとともに、ルート沿いには解説サインや誘導サイン等を設置しています。

図：前回計画に定めた中心市街地の整備方針の進捗状況



（3）中心市街地の現状と課題

1）人口

①現状

中心市街地の人口は、平成23年～平成28年において、市の人口とともに、増加傾向を維持しています。

中心市街地における65歳以上の人口は増加傾向、19歳未満の人口は減少傾向であり、少子高齢化が進行しています。

19歳未満の人口の割合は、市全体の割合よりも中心市街地の割合が低く、中心市街地の少子化が進んでいます。

②市民意向

子育て世代への支援、高齢者が元気に安心して暮らすことができる環境の充実が望まれています。

③課題

青少年世代が魅力を感じるまち、また乳幼児から青少年世代までの子どもを持つ親世代が子育てしやすい環境をつくることが求められます。

高齢者が元気に安心して暮らすことができるよう健康･福祉サービスの充実が求められます。

表：大野城市（上）と中心市街地（下）の人口の推移（資料：『住民基本台帳』各年度 3 月 31 日現在）

（人）

人口（3区分）		H23	H24	H25	H26	H27	H28
市	19歳未満	19,642	19,942	19,849	19,923	19,942	19,971
	19歳以上～65歳未満	59,932	60,034	59,689	59,313	58,818	58,754
	65歳以上	16,403	17,317	18,225	19,127	19,921	20,437
	計	95,977	97,293	97,763	98,363	98,681	99,162
中心市街地	19歳未満	5,682	5,680	5,639	5,643	5,542	5,466
	19歳以上～65歳未満	19,038	18,823	19,209	19,166	18,976	18,963
	65歳以上	4,027	4,294	4,600	4,840	5,089	5,256
	計	28,747	28,797	29,448	29,649	29,607	29,685

表：大野城市（上）と中心市街地（下）の人口構成（3区分）の割合（資料：『住民基本台帳』各年度 3 月 31 日現在）

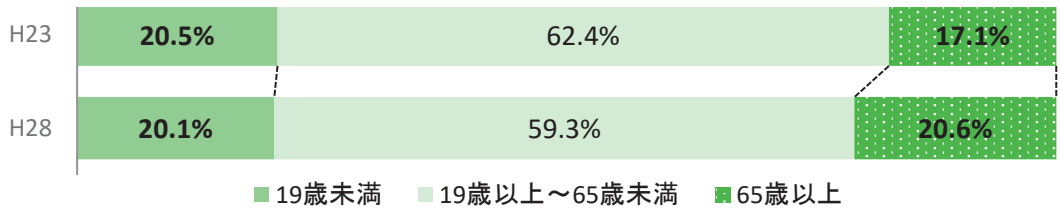
（%）

人口構成の割合（3区分）		H23	H24	H25	H26	H27	H28
市	19歳未満	20.5%	20.5%	20.3%	20.3%	20.2%	20.1%
	19歳以上～65歳未満	62.4%	61.7%	61.1%	60.3%	59.6%	59.3%
	65歳以上	17.1%	17.8%	18.6%	19.4%	20.2%	20.6%
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%
中心市街地	19歳未満	19.8%	19.7%	19.1%	19.0%	18.7%	18.4%
	19歳以上～65歳未満	66.2%	65.4%	65.2%	64.6%	64.1%	63.9%
	65歳以上	14.0%	14.9%	15.6%	16.3%	17.2%	17.7%
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

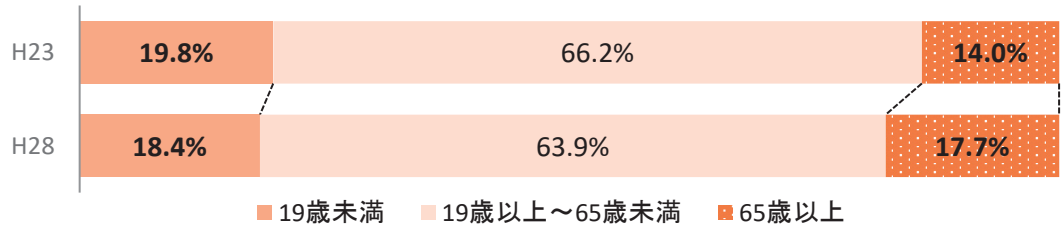
大野城市に関するデータ

中心市街地に関するデータ

図：大野城市の人口構成（3区分）の割合の推移（資料：『住民基本台帳』各年度 3 月 31 日現在）



図：中心市街地の人口構成（3区分）の割合の推移（資料：『住民基本台帳』各年度 3 月 31 日現在）



2）土地・建物利用

①現状

＜用途地域の指定状況＞

西鉄春日原駅･西鉄白木原駅･西鉄下大利駅･JR大野城駅の周辺に商業系の用途地域を指定しています。

中心市街地の広い範囲に住宅系の用途地域を指定しています。

県道福岡日田線沿道とその東側に工業系の用途地域を指定しています。

＜建物利用の現状＞

西鉄春日原駅･西鉄白木原駅･西鉄下大利駅とJR大野城駅の周辺と県道福岡日田線の沿道に商業系の建物が立地しています。

中心市街地の広い範囲に戸建住宅･中高層の共同住宅が立地しています。

県道福岡日田線の東側に工業系の建物が立地しています。

②市民意向

良好な市街地環境の維持･保全が望まれています。

安全で安心して暮らせる環境の維持のため、西鉄天神大牟田線の駅周辺に交番の適正配置が望まれています。

③課題

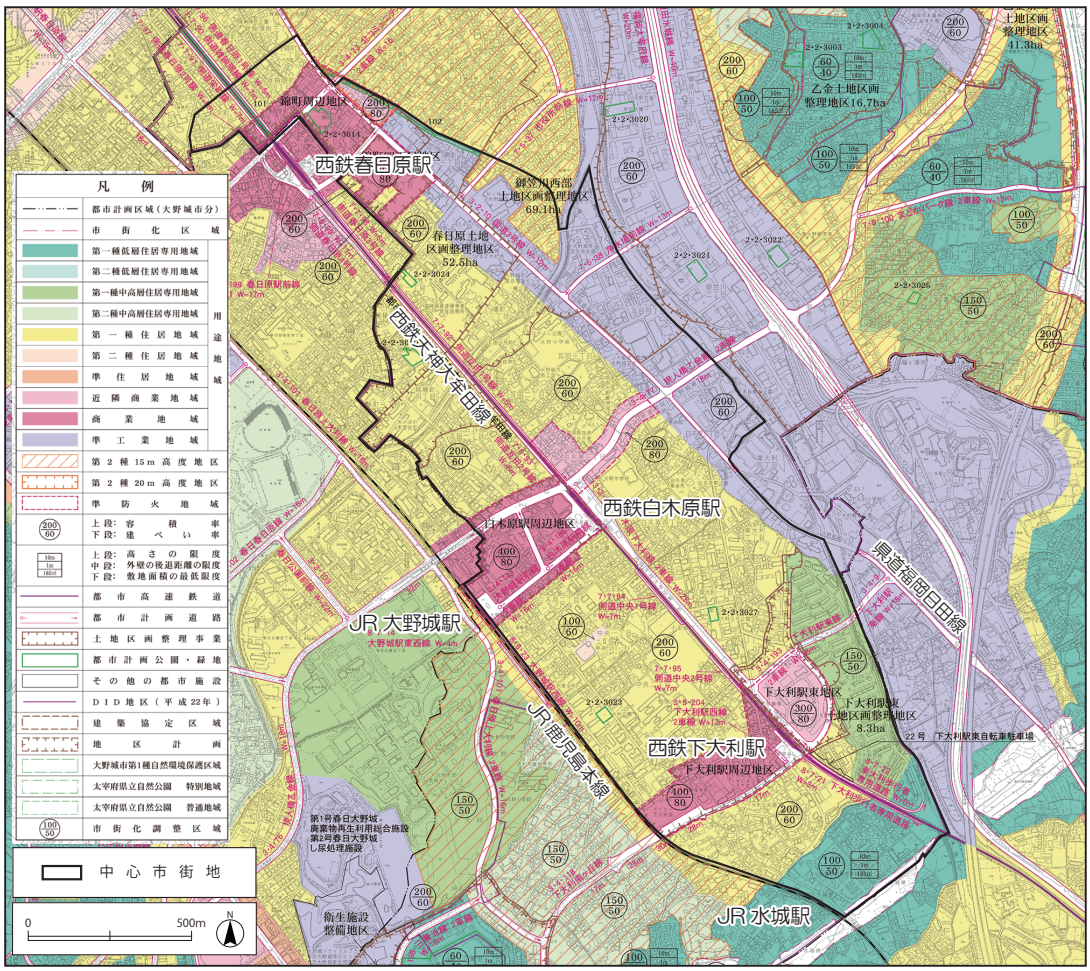
中高層の共同住宅の建設が進行し、人口の増加が見込まれる中、計画的な土地・建物利用の誘導により、住宅街等の閑静な空間とにぎわいを創出する空間の住み分けを図ることが求められます。

犯罪の抑止や治安の維持のための施策が求められます。

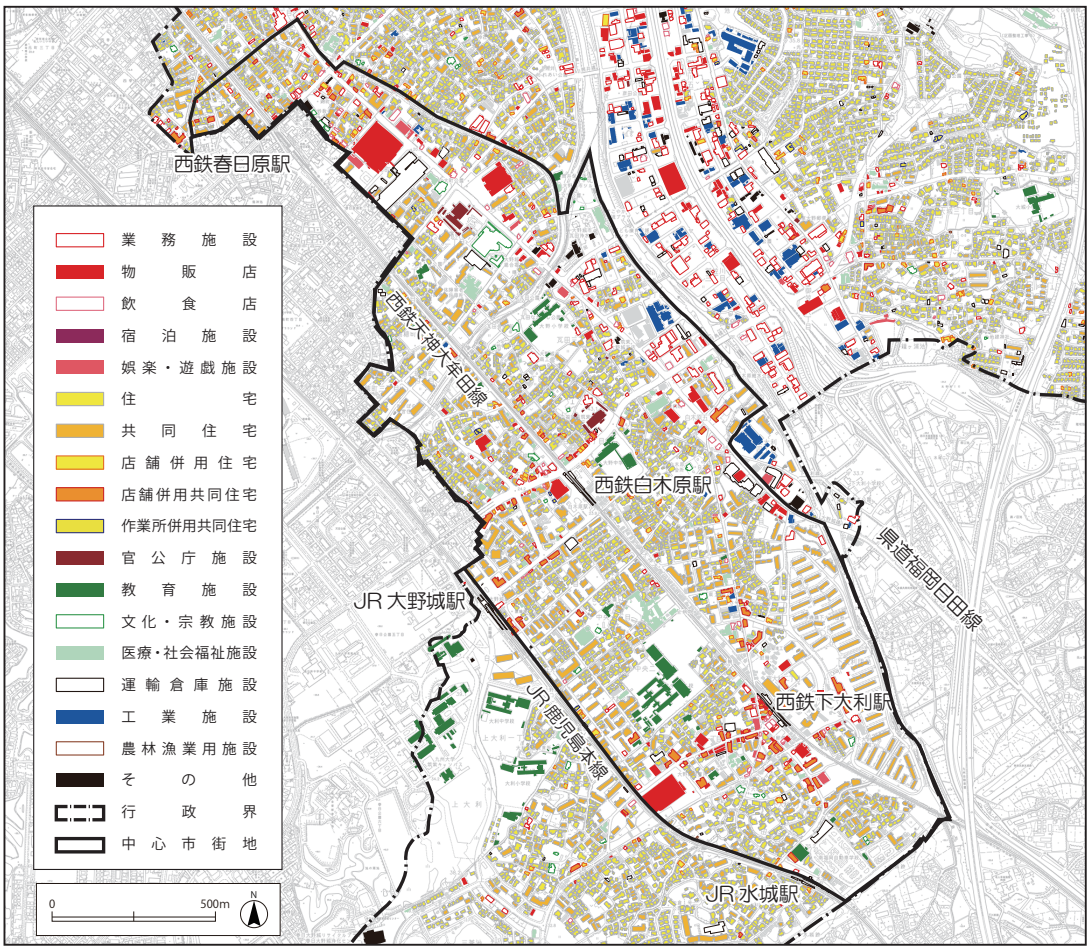
写真：建ち並ぶ中高層の共同住宅

写真：人通りの少ない駅周辺

図：用途地域の
指定状況



図：建物利用の現状
（資料：『12 都市計画
基礎調査』
／平成 25 年 3 月）



3) 公共施設等

①現状

中心市街地には、官庁施設、文化施設、コミュニティ施設、教育施設、健康・福祉施設が点在しています。

市役所周辺に公共施設が集中しています。さらに、ふるさと大野城をまるごと体感できる施設として「大野城心のふるさと館」を整備しています。

公共施設が集まる市役所周辺では、秋に「おおの山城大文字まつり」や「まどかフェスティバル」が開催され、多くの人でにぎわいます。

②市民意向

子どもや高齢者等が利用しやすい、交流できる文化施設等の充実や施設間の連携が望まれています。

ふるさと大野城の歴史や文化等を情報発信する施設が望まれています。

③課題

子育て支援施設や高齢者が集いやすい健康･福祉施設等の充実が求められます。

公共施設や医療機関等の日常利用施設の配置や集約を検討し、生活の利便性やまちの安全性の確保と魅力の向上を図ることが求められます。

市民活動と市内外への情報発信の拠点施設として、「大野城心のふるさと館」や「大野城まどかぴあ」の有効活用が求められます。

写真：大野城市役所

建設：昭和 54 年
階数：地下 1 階　地上 5 階
住所：曙町二丁目 2－1
機能：行政

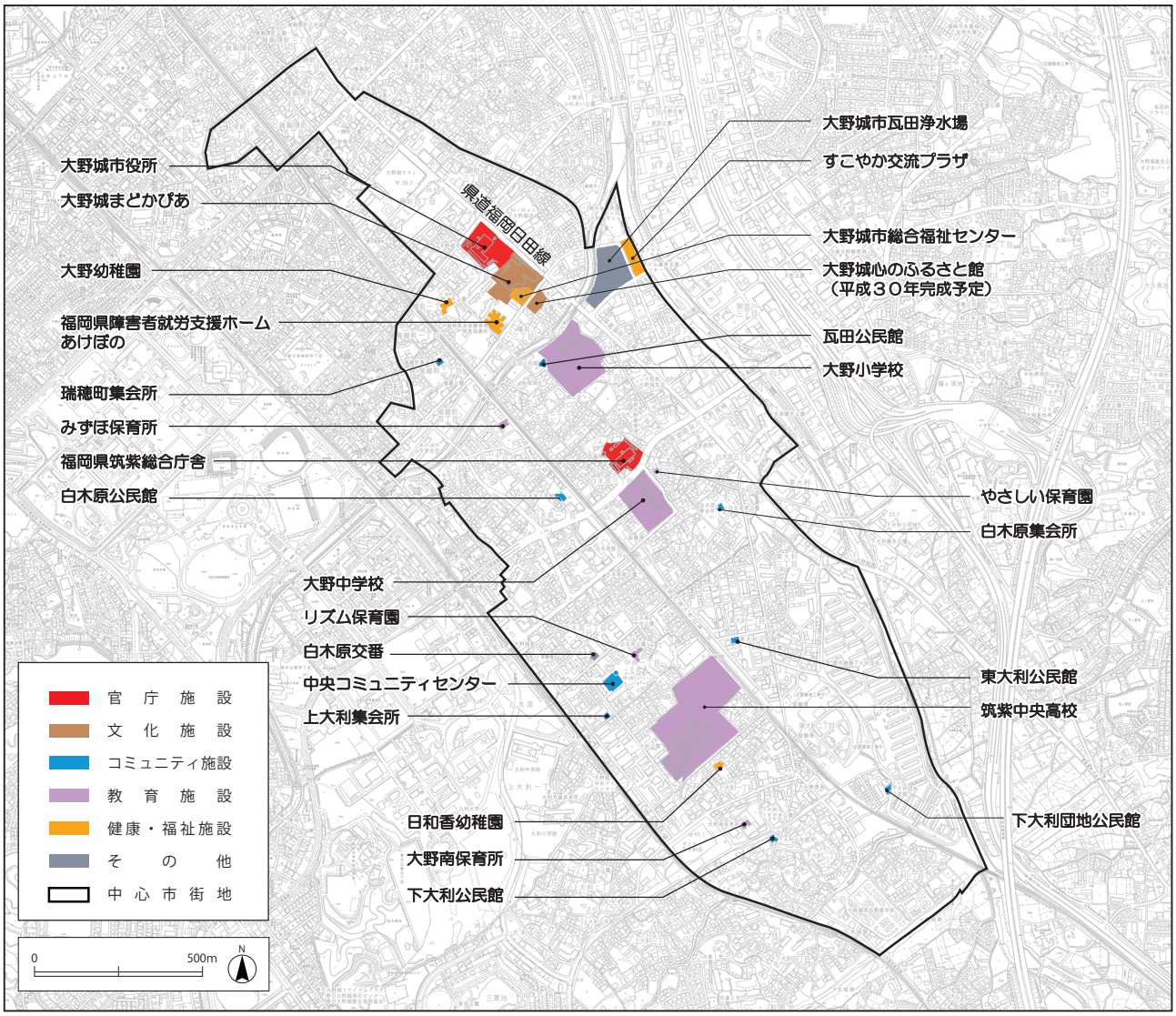
写真：大野城まどかぴあ

建設：平成 8 年
階数：地下 1 階　地上 5 階
住所：曙町二丁目 3－1
機能：文化・芸術振興

写真：総合福祉センター

建設：昭和 56 年
階数：地上 3 階
住所：曙町二丁目 3－2
機能：福祉、ボランティアセンター

図：公共施設等



写真：すこやか交流プラザ

建設：平成 9 年
階数：地上 3 階
住所：瓦田四丁目 2 － 1
機能：健康増進・子育て支援、
　　高齢者支援

パース図：大野城心のふるさと館（イメージ）

建設：平成 30 年完成予定
階数：地下 1 階　地上 3 階
住所：曙町三丁目 22 － 1
機能：歴史・文化

写真：「まどかﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ」のにぎわい

会場となった市役所駐車場、
奥が大野城まどかぴあ

4) 公園･緑地

①現状

15箇所の街区公園（※）、2箇所の緑地が整備されています。

しかし、市の中央地区において、近隣公園以上の大規模な公園がなく、1人あたりの公園面積が著しく不足しています。

②市民意向

子どもが安全で安心して遊べるような公園の充実が望まれています。

③課題

西鉄高架下を有効に活用し、屋根付公園として利用できるようなスペースの確保が求められます。

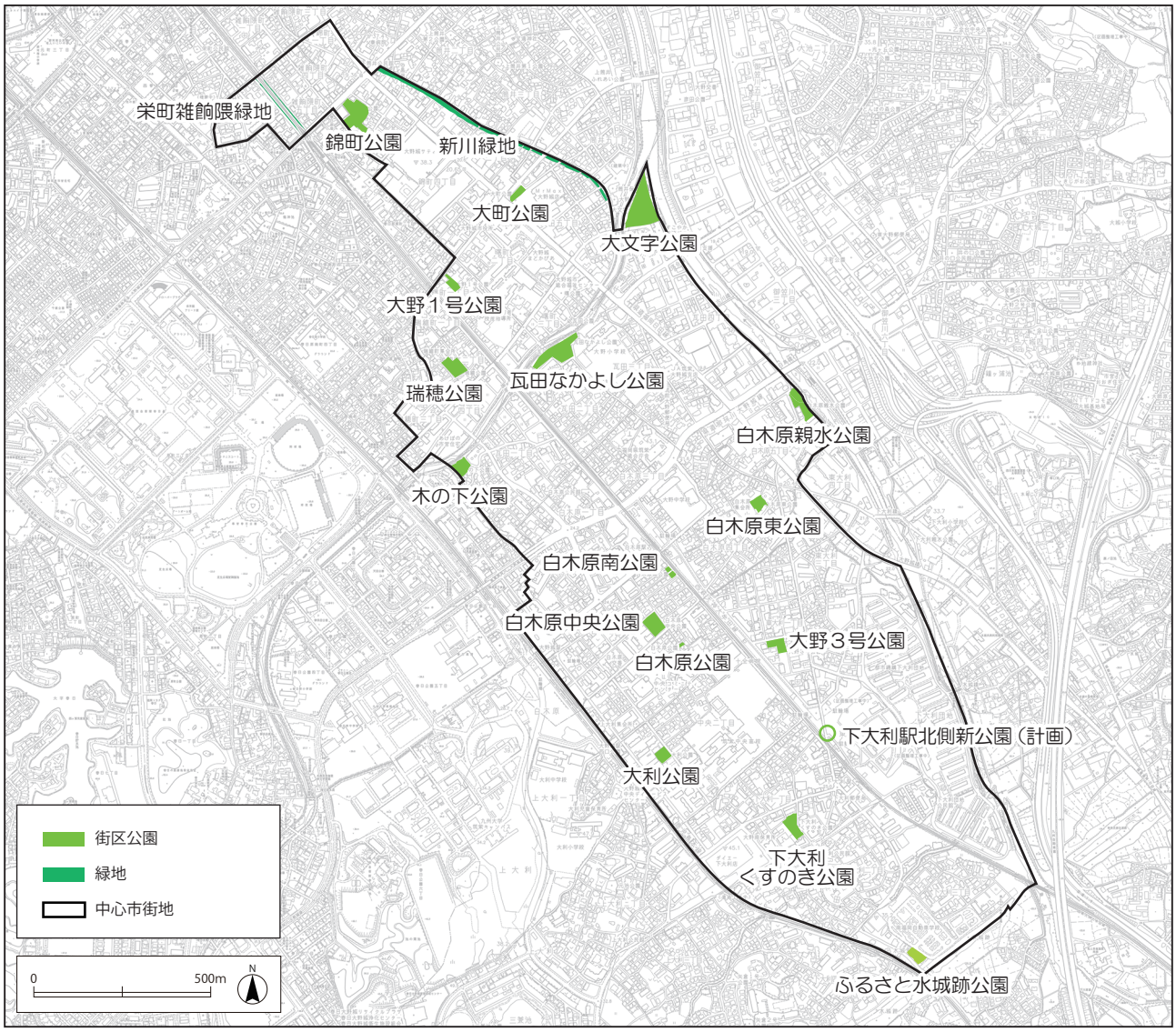
新規の公園用地を確保し、市民の憩いの場となり、災害時には一時避難場所等として活用できるような公園の整備が求められます。

※街区公園とは、もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とし、1箇所当たり面積0.25haを標準として配置する公園です。

写真：錦町公園

写真：瓦田なかよし公園

図：公園・緑地



写真：「下大利 七夕まつり」でにぎわう
下大利くすのき公園

写真：「おおの山城大文字まつり」でにぎわう
大文字公園

5）道路網

①現状

主要幹線道路の整備が完了しています。

西鉄高架事業とあわせて高架沿いの側道等が整備中あるいは整備予定となっています。

②市民意向

子どもや高齢者が安心して歩ける歩行者空間を確保した道路整備が望まれています。

中心市街地を楽しく回遊できる散策コースの設定等が望まれています。

③課題

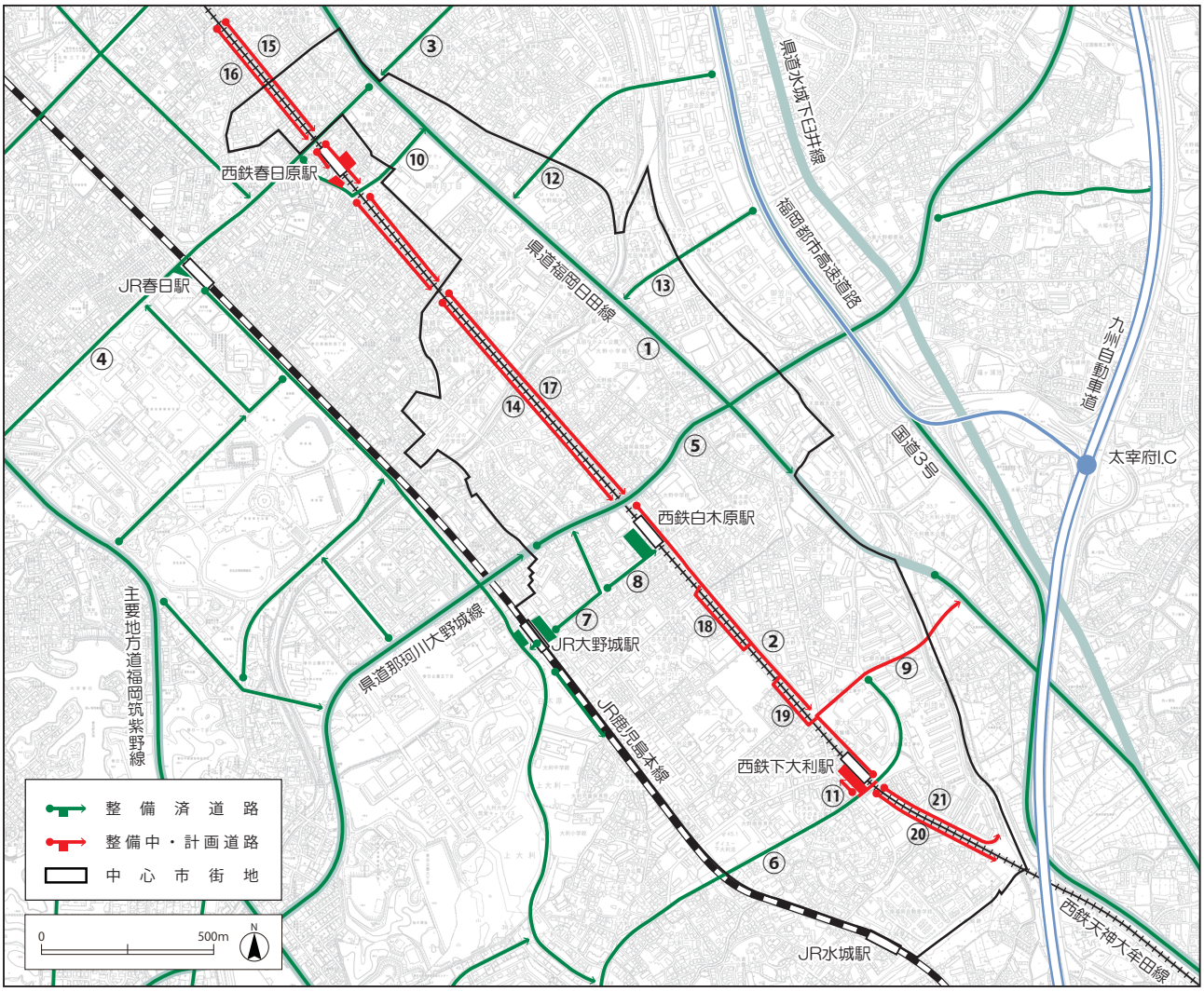
西鉄高架事業が未完了のため、渋滞が生じやすい箇所が存在します。こうした箇所を解消するため、西鉄高架事業とあわせた道路整備の推進が求められます。

路面が劣化している箇所等があり、改善が求められます。

子どもや高齢者等に配慮した、誰もが歩きやすい歩行者空間の整備が求められます。

散策コースを示すサイン設置等が求められます。

図：道路網



表：中心市街地内にかかる都市計画道路

番号	都市計画道路名	幅員 (m)	番号	都市計画道路名	幅員 (m)	番号	都市計画道路名	幅員 (m)
①	国道3号線	12	⑧	白木原駅前線	16	⑮	側道雑餉隈線	7
②	白木原下大利線	25	⑨	下大利駅東線	18	⑯	側道栄町線	7
③	北コミュニティ線	16	⑩	春日原駅前線	17	⑰	側道瓦田1号線	5
④	筒井小倉線	18	⑪	下大利駅西線	13	⑱	側道中央1号線	7
⑤	現人橋乙金線	16	⑫	市役所前線	12	⑲	側道中央2号線	7
⑥	下大利南ヶ丘線	18	⑬	浄水場前線	13	⑳	下大利歩行者専用道路	3
⑦	大野城駅前線	16	⑭	側道瓦田2号線	8	㉑	東大利歩行者専用道路	6

写真：主要幹線道路の踏切渋滞

（都市計画道路現人橋乙金線）

写真：商店街周辺の踏切渋滞

（下大利駅周辺）

6) 公共交通

①現状

西鉄天神大牟田線が中心市街地と西鉄福岡（天神）駅方面を、JR鹿児島本線が中心市街地とJR博多駅方面を結んでいます。

近年において、駅の乗降客数は全体として微増傾向です。

平成27年度において、乗降客数が1.5万人を超える駅は西鉄春日原駅･西鉄下大利駅、JR大野城駅の3つです。西鉄春日原駅･西鉄下大利駅は急行停車駅、JR大野城駅は快速停車駅であり、これらの駅は西鉄の路線バスやコミュニティバス「まどか号」とも連結しています。

西鉄の路線バス及びコミュニティバス「まどか号」が中心市街地内外を結んでいます。

②市民意向

乗り継ぎの利便性を向上する駅前広場や駐輪場等の整備が望まれています。

西鉄高架事業の完成にあわせて、各駅にアクセスするバス路線の検討が望まれています。

③課題

鉄道の各駅における交通結節機能の強化、乗り換えのしやすさ等の検討が求められます。

自転車等を活用した新たな公共交通システムの検討、自転車ネットワークの充実、自転車走行空間の安全性や快適性の向上が求められます。

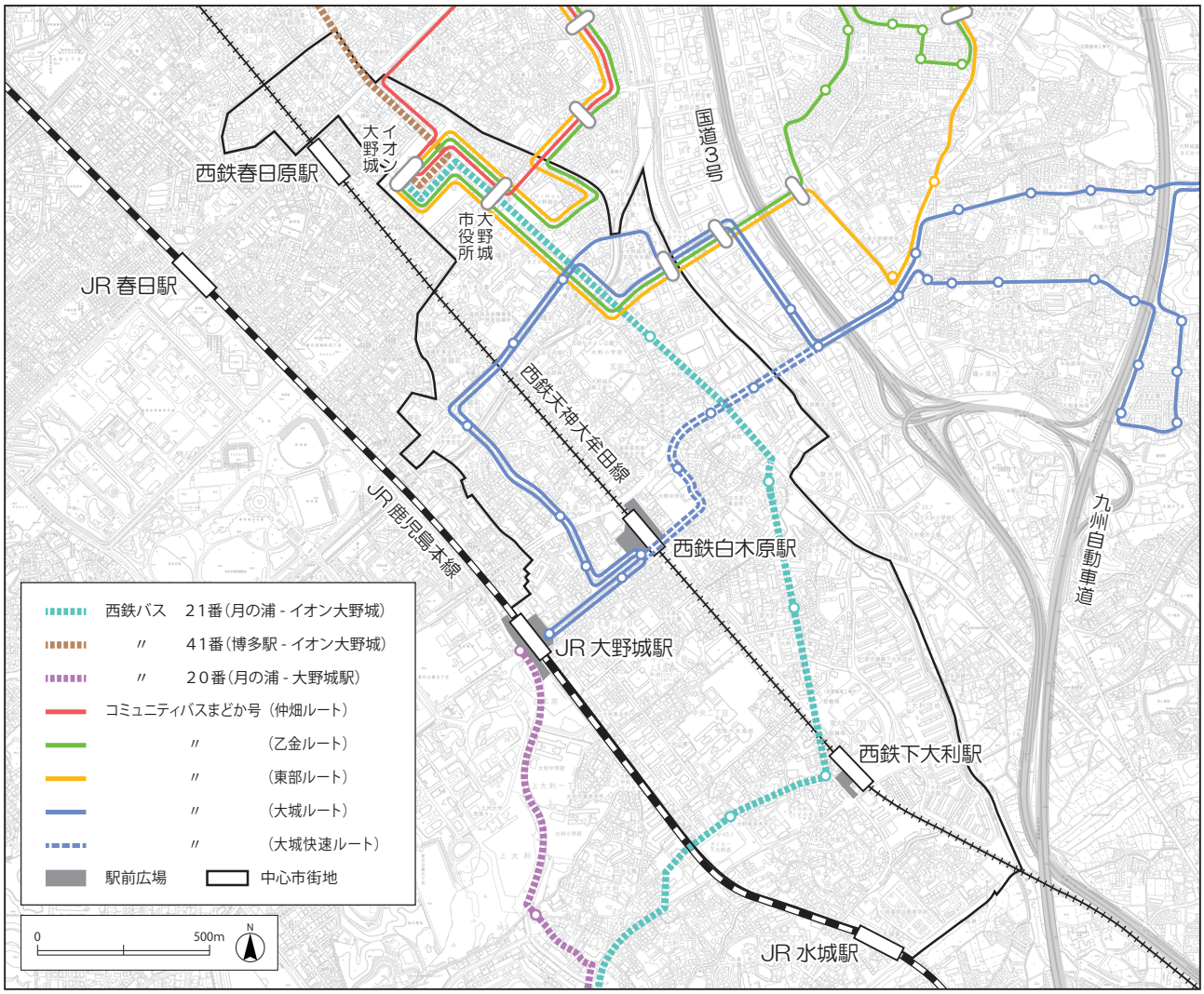
写真：西鉄電車

（西鉄天神大牟田線春日原駅 - 白木原駅間）

写真：JR の電車

（水城駅／左側：水城跡）

図：公共交通（鉄道とバス）



写真：西鉄バス

（下大利のバス通り）

写真：コミュニティバス

（白木原駅前）

7）商店街

①現状

西鉄春日原駅･西鉄白木原駅･西鉄下大利駅・ＪＲ大野城駅周辺にそれぞれ商店街が位置しています。

各商店街には、「錦町通り商店会」、「白木原商店会」、「下大利商店会」が結成されています。

各商店会は協力し、商店街の活性化を目的に、様々なイベント等の開催に取り組んでいます。

②市民意向

各鉄道駅周辺の活性化が望まれています。

スーパーマーケットや農産物の生産直売品を扱う店舗、気軽に立ち寄れる飲食店や子連れで利用できる店舗等の出店が望まれています。

③課題

商店街の魅力向上のため、市民が求める店舗等の誘致やイベント開催等が求められます。

商店街の活性化に向けては、商店会と「一般社団法人 大野城市にぎわいづくり協議会（※）（以下、にぎわいづくり協議会）」等との連携が求められます。

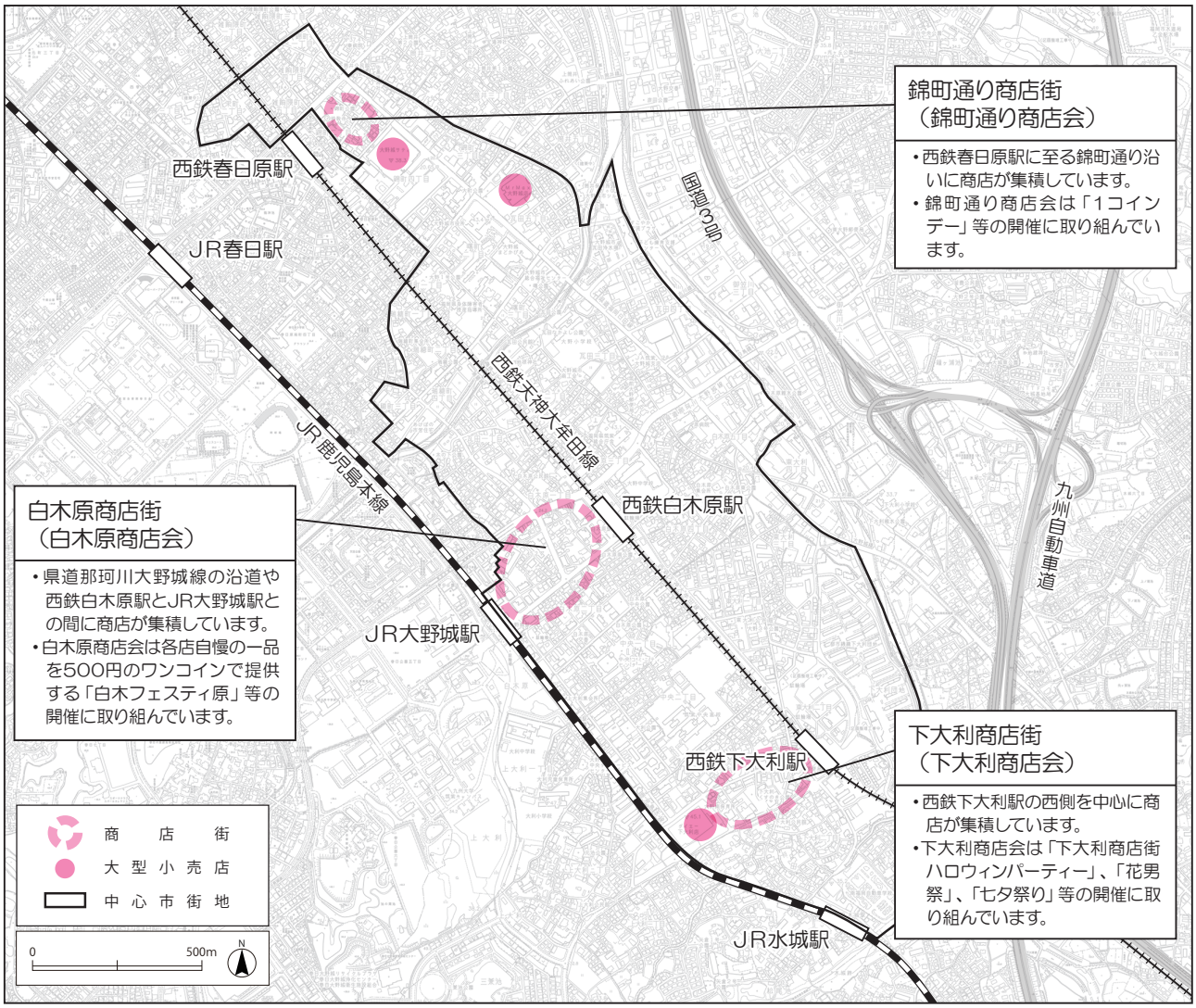
また、駅周辺に食料品や日用品が充実したスーパーマーケットが求められます。

※一般社団法人 大野城市にぎわいづくり協議会は、ふるさと大野城の「宝」（＝地域資源）に関わる市民・事業者・団体等により組織され、お互いに交流・連携することで、個々の活動が市全体のにぎわいづくりにつながるような、にぎわいづくりの輪を形成することを目指しています。

写真：錦町通り商店街

写真：白木原商店街

図：商店街（商店会）



写真：下大利商店街

写真：にぎわいづくり協議会による商店街でのイベント開催

8) 地域資源

①現状

水城跡が中心市街地の南端に位置しています。

新川（新川緑地）、春日原停留所運動場道の碑、消防ポンプ格納庫、センダンの木等の地域資源が中心市街地に点在しています。

市役所3階に大野城の歴史、文化、暮らしを伝えるガイダンス施設「大野城市歴史資料展示室」が設置され、一般に公開されています。

②市民意向

地域資源の保存だけでなく、まちづくり等への活用が望まれています。

水城跡は、散策ルートにも適しているため、その活用が望まれています。

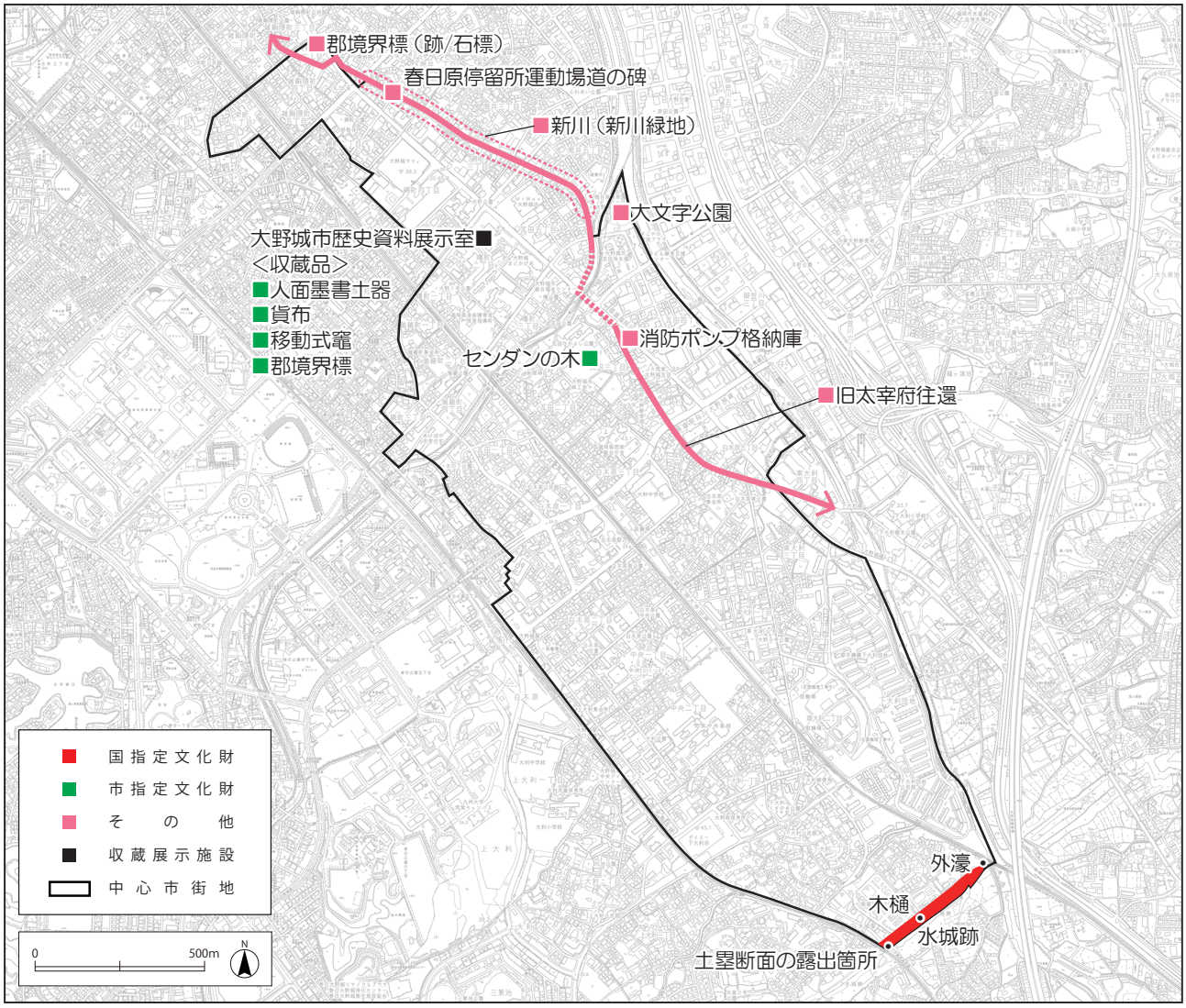
③課題

本市ではトレイルや「大野城心のふるさと館」の整備やにぎわいづくり協議会による取り組み等が進められていますので、中心市街地においても地域資源を活用し、にぎわい創出につなげていくことが求められます。

写真：水城跡

写真：新川（新川緑地）と春日原停留所運動場道の碑

図：中心市街地にある主な地域資源



写真：センダンの木

写真：にぎわいづくり協議会によるまち歩きガイド

Ⅲ　中心市街地活性化の目標

1.基本的な考え方

中心市街地では、西鉄高架事業、高架事業と連動した道路や公園等、様々な施設整備が推進されています。

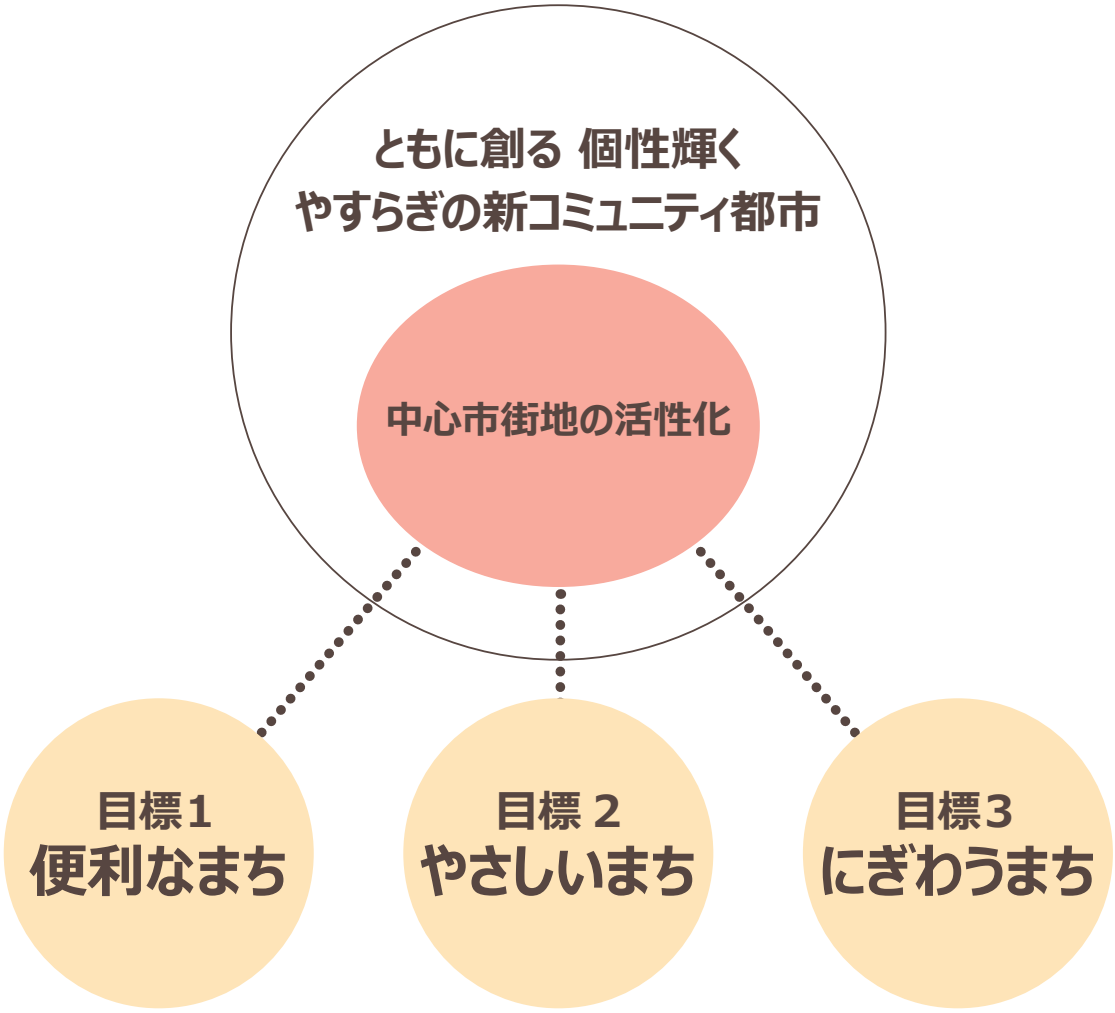
あわせて、市民参加による取り組みも広がりを見せています。

今後は、計画的な土地・建物利用の誘導との整合を図りつつ、施設整備の推進と市民参加のさらなる拡大に取り組み、持続可能な中心市街地の活性化に結びつけていくことが必要と考えます。

2.目標

本市は、『第5次大野城市総合計画』に位置づけられる都市（まち）の将来像「ともに創る　個性輝く　やすらぎの新コミュニティ都市」にふさわしい持続可能な中心市街地の活性化に向けて、3つの目標「便利なまち」、「やさしいまち」、「にぎわうまち」を掲げ、その実現を目指します。

図：目標


ともに創る 個性輝く
やすらぎの新コミュニティ都市
中心市街地の活性化
目標1
便利なまち
目標 2
やさしいまち
目標3
にぎわうまち

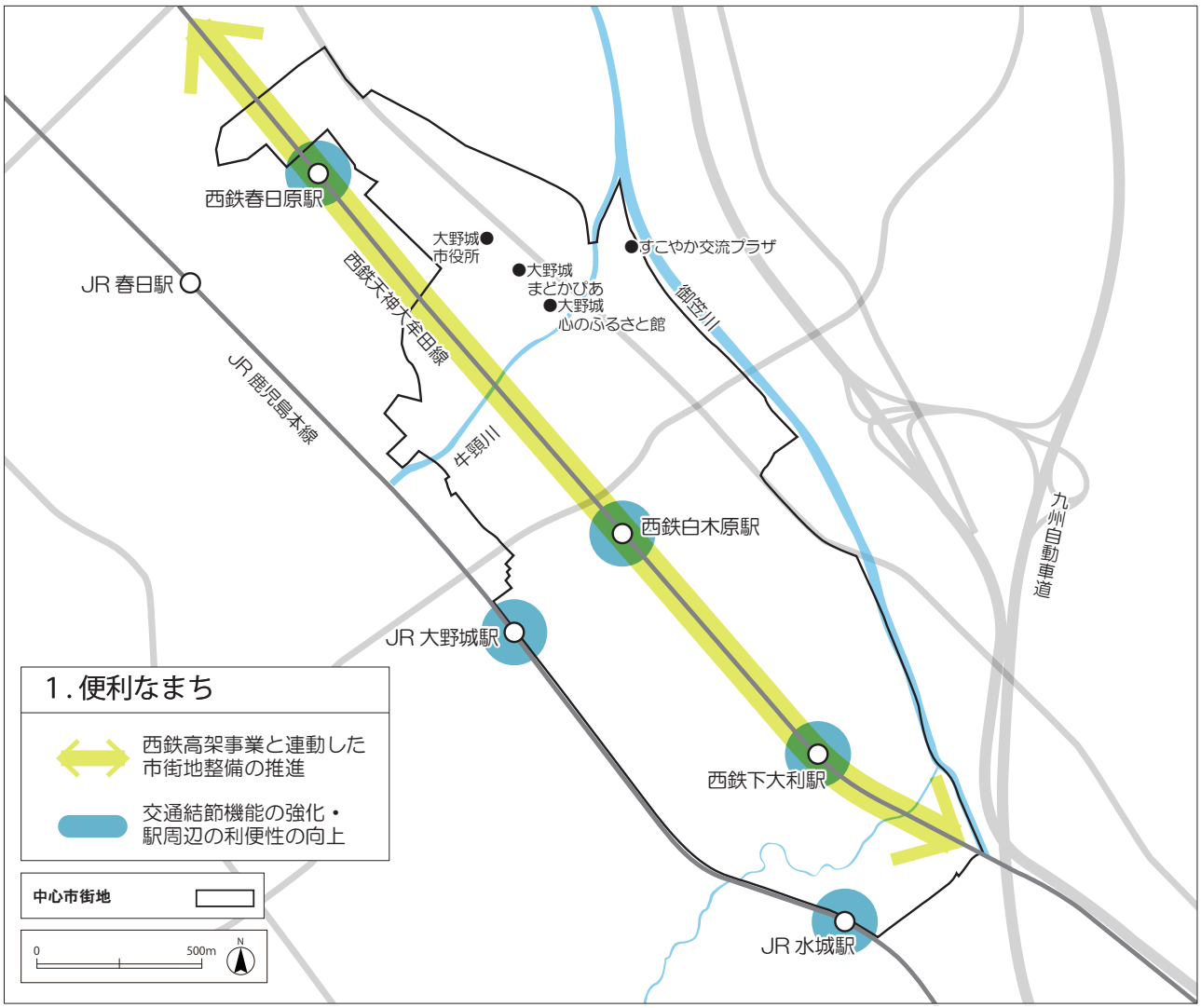
Ⅳ　中心市街地活性化の方針

1.便利なまち

駅を中心に市民や来訪者に便利なまちの実現を目指します。

●西鉄高架事業と連動した市街地整備の推進に取り組みます。
●駅を中心として、鉄道・バス・タクシー・自動車・自転車等の交通結節機能の強化に取り組みます。
●駅周辺における市民や来訪者の利便性の向上に取り組みます。

図：便利なまち

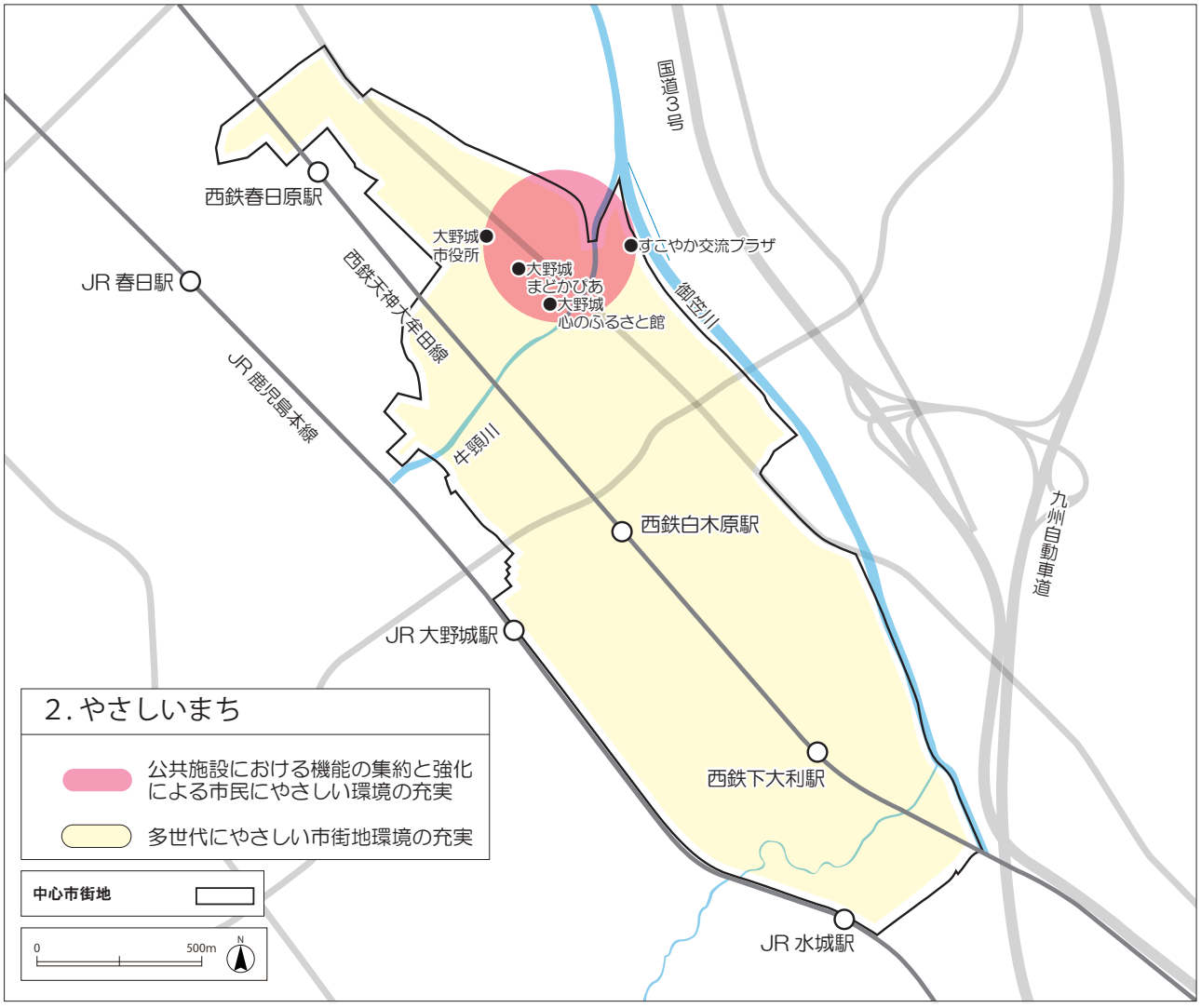


2.やさしいまち

子どもや高齢者等が過ごしやすい、暮らしにやさしいまちの実現を目指します。

●公共施設が集積する市役所周辺を一体とみなし、全ての人々が利用しやすいよう機能の集約と強化に取り組みます。
●道路や公園、その他公共施設等の整備を通して、多世代にやさしい市街地環境の充実に取り組みます。

図：やさしいまち

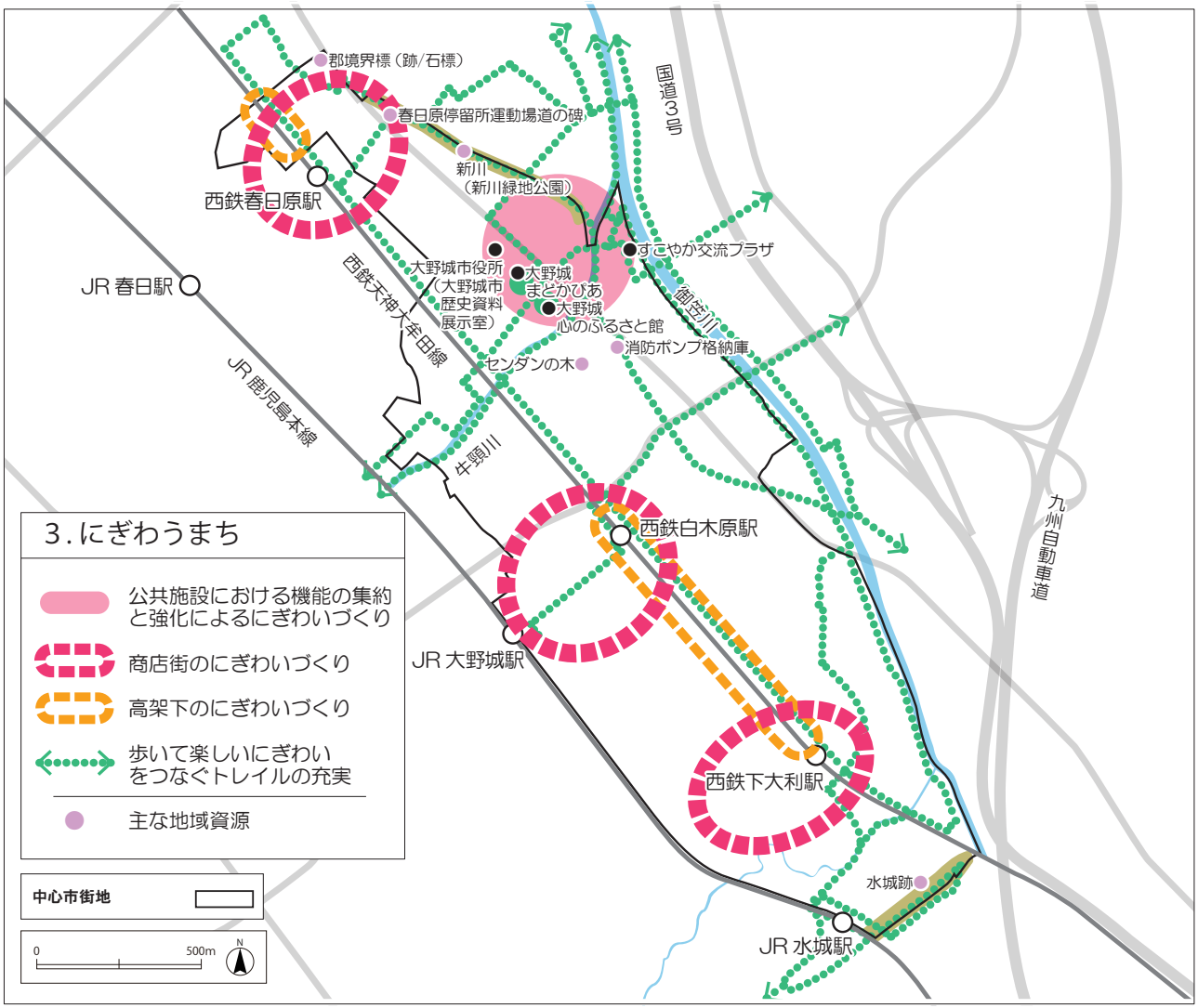


3.にぎわうまち

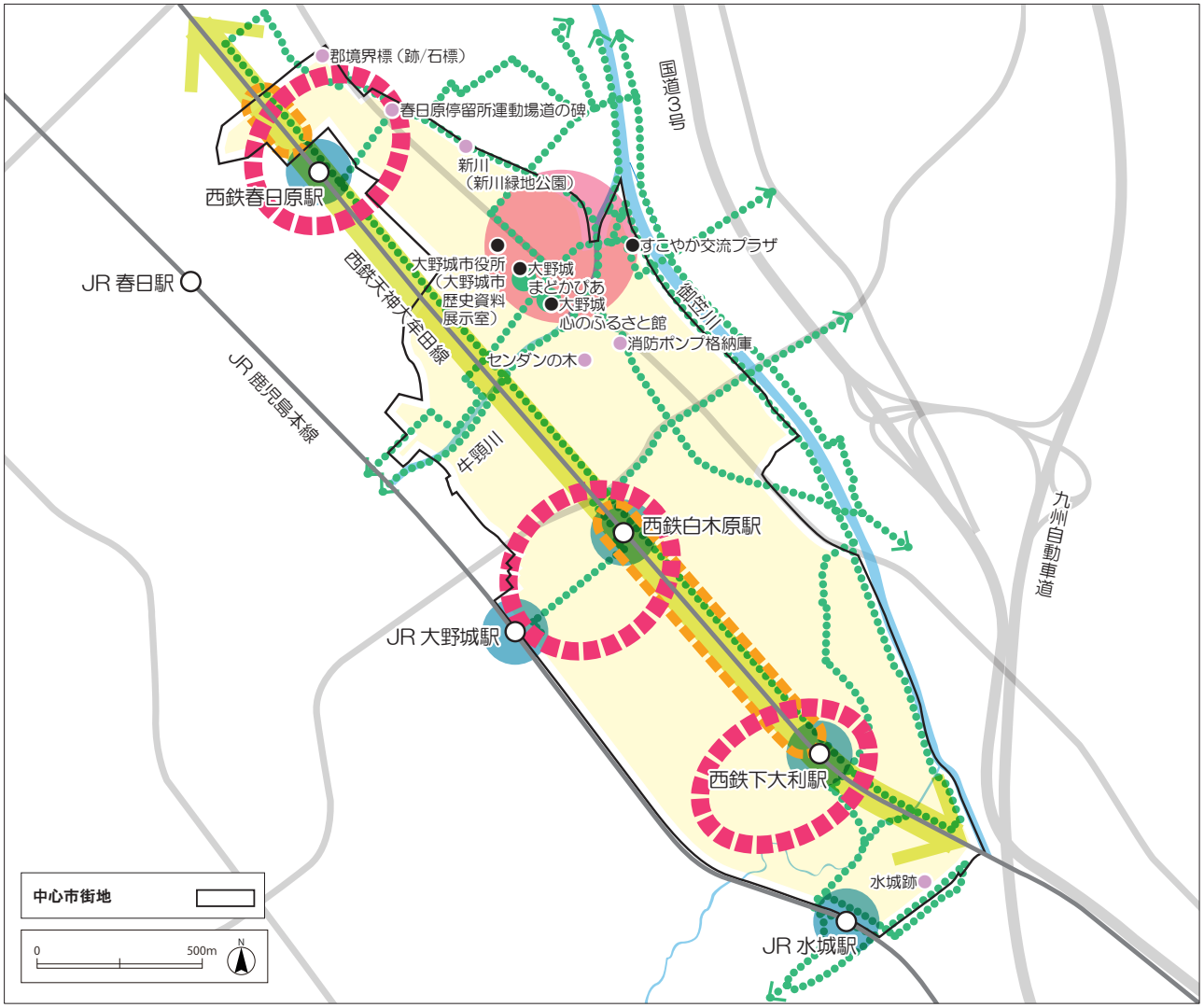
人々のつながりを育む中で、にぎわいが持続するまちの実現を目指します。

●公共施設における機能の集約と強化によるにぎわいづくりに取り組みます。
●商店会やにぎわいづくり協議会等と連携し、商店街や高架下のにぎわいづくりに取り組みます。
●地域資源を活かすトレイルの整備と活用を通して、にぎわいの拡大に取り組みます。

図：にぎわうまち



＜総括図＞



1. 便利なまち

- 西鉄高架事業連動した市街地整備の推進
- 交通結節機能の強化・駅周辺の利便性の向上

2. やさしいまち

- 公共施設における機能の集約と強化による市民にやさしい環境の充実
- 多世代にやさしい市街地環境の充実

3. にぎわうまち

- 公共施設における機能の集約と強化によるにぎわいづくり
- 商店街のにぎわいづくり
- 高架下のにぎわいづくり
- 歩いて楽しいにぎわいをつなぐトレイルの充実
- 主な地域資源

Ⅴ　中心市街地活性化の取り組み

中心市街地の活性化に向けた主な取り組みを以下に示します。市民等との共働により、各取り組みの実現を目指します。

表：中心市街地活性化に向けた主な取り組みの一覧

目標	方針	取り組み
便利なまち	（1）西鉄高架事業と連動した市街地整備の推進	○西鉄高架事業の推進 ○西鉄高架事業と連動した側道整備の推進 ○下大利駅東土地区画整理事業等の推進
	（2）駅を中心とした交通結節機能の強化	○西鉄下大利駅や西鉄白木原駅の駅前広場の整備 ○西鉄下大利駅東口のバスベイ（※）の整備 ○駐輪場の整備 ○公共交通の乗り換え等を円滑にする取り組みの充実 ○レンタサイクル導入の検証
	（3）駅周辺における市民や来訪者の利便性の向上	○子育て支援施設等の充実 ○高齢者の健康･福祉施設等の充実 ○駅前観光情報スペースの確保 ○市民が利用しやすい多目的スペースの確保と利用を支える仕組みづくり ○交番の適正配置
やさしいまち	（1）公共施設における機能の集約と強化による市民にやさしい環境の充実	○子育て支援や健康づくりに関する機能の集約と事業の実施 ○時代のニーズに対応した効率的かつ効果的な行政運営 ○市役所の防災拠点としての機能強化 ○市役所での高齢者及び障がい者福祉機能の充実
	（2）多世代にやさしい市街地環境の充実	
	1）子育てしやすい環境の充実	○子どもが自由に安心して遊べる公園等の充実 ○子どもを連れて公園等に行きやすい環境の充実 ○授乳やおむつ替えができるスペースを確保した施設の充実
	2）高齢者等が過ごしやすい市街地環境の充実	○公共空間のバリアフリー化 ○民間施設のバリアフリー化 ○「大野城心のふるさと館」等を活用した生きがいづくり
にぎわうまち	（1）公共施設における機能の集約と強化によるにぎわいづくり	○「大野城心のふるさと館」や「大野城まどかぴあ」を中心とした市民が自由に活動できる空間の創出 ○「大野城心のふるさと館」と「大野城まどかぴあ」との連携強化
	（2）商店街のにぎわいづくり	○オープンスペースを活用したイベント等の開催 ○隣接する大型小売店とコラボイベントの開催 ○買物客が歩いて楽しい道路整備 ○路上等でのカフェやイベントの開催 ○各商店会の協力イベントの開催 ○集客力の高いテナントの誘致 ○空き店舗等の活用
	（3）高架下のにぎわいづくり	○雨に濡れない沿道又は高架下散策道の整備 ○人々が利用しやすい多目的スペースの確保と利用を支える仕組みづくり ○立ち寄りやすい店舗や飲食店等の誘致
	（4）歩いて楽しいにぎわいをつなぐトレイルの充実	○トレイルのルート沿いへのサインの設置 ○トレイルマップ等の作成 ○中心市街地を巡るイベント等の開催 ○人々が休憩しやすい場所の充実 ○御笠川沿いや特別史跡水城跡を活かすトレイルの整備

※「バスベイ」とは、バス停留所のある場所に、歩道に切れ込みを入れたような形で設けられる、バスが停車するためのスペースのことです。

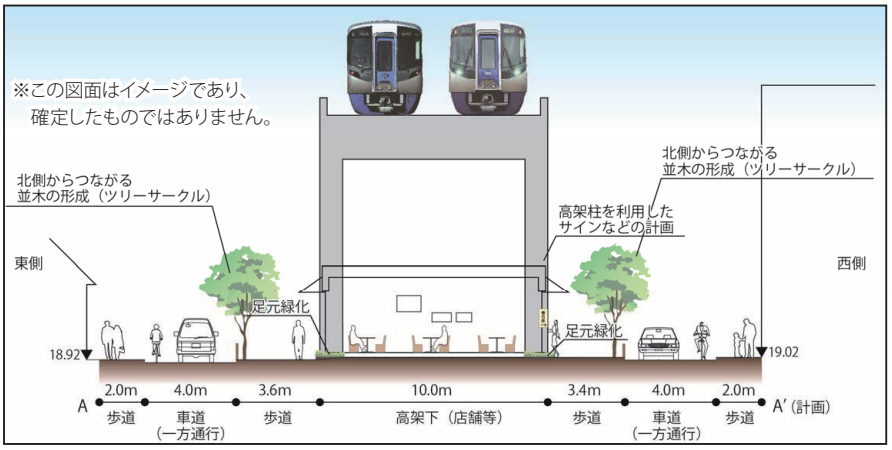
1.「便利なまち」に向けた取り組み

(1) 西鉄高架事業と連動した市街地整備の推進

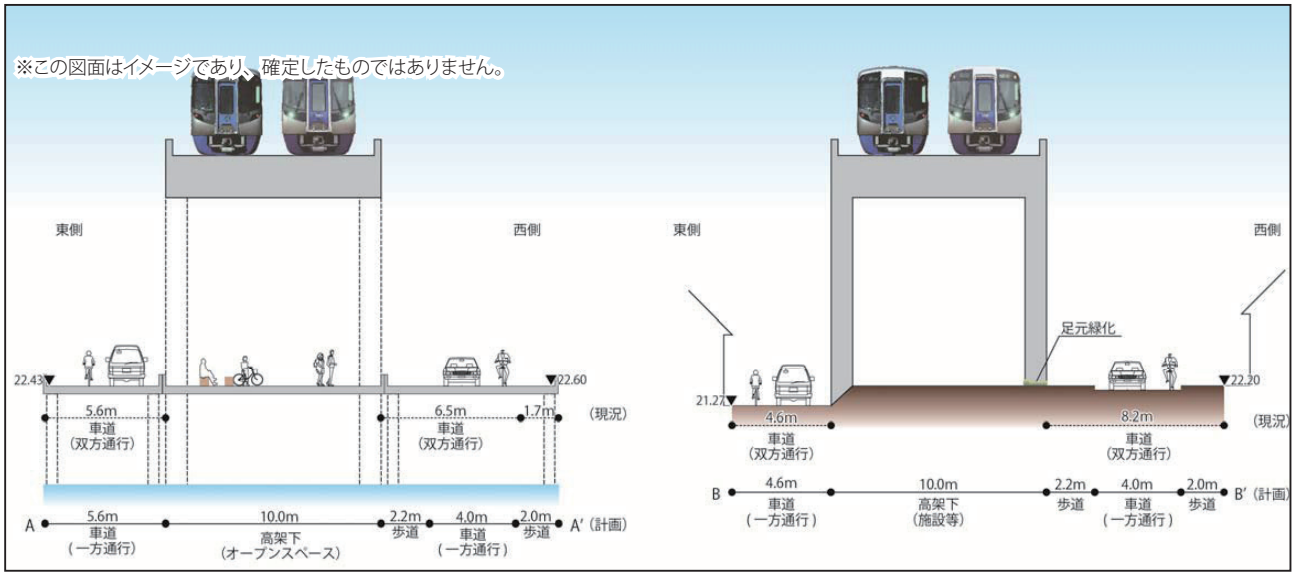
既存道路12箇所において踏切を除却し、交差道路を7箇所新設する西鉄高架事業の推進を図るとともに、西鉄高架事業と連動した側道（都市計画道路）の整備や区画整理事業等の推進に取り組みます。

＜具体的な取り組み＞
〇西鉄高架事業の推進
〇西鉄高架事業と連動した側道整備の推進
〇下大利駅東土地区画整理事業等の推進

図：西鉄高架事業の主要断面計画図（資料：『大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）』）



春日原駅付近の断面図



牛頸川付近の断面図

（2）駅を中心とした交通結節機能の強化

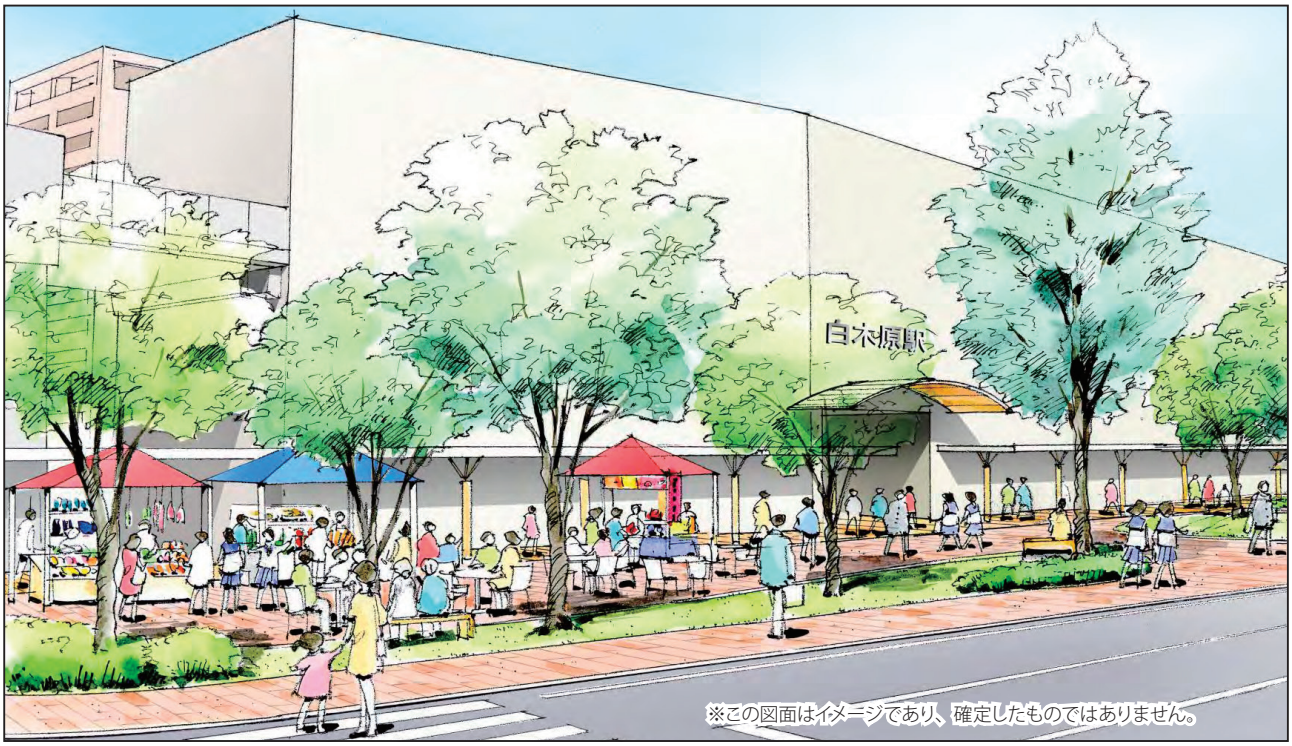
鉄道･バス･タクシー･自転車等の交通結節機能を強化するため、西鉄白木原駅･西鉄下大利駅の駅前広場の整備、西鉄下大利駅東口のバスベイの整備、駐輪場の整備等に取り組みます。

公共交通の乗り換え等を円滑にする取り組みの充実に取り組みます。

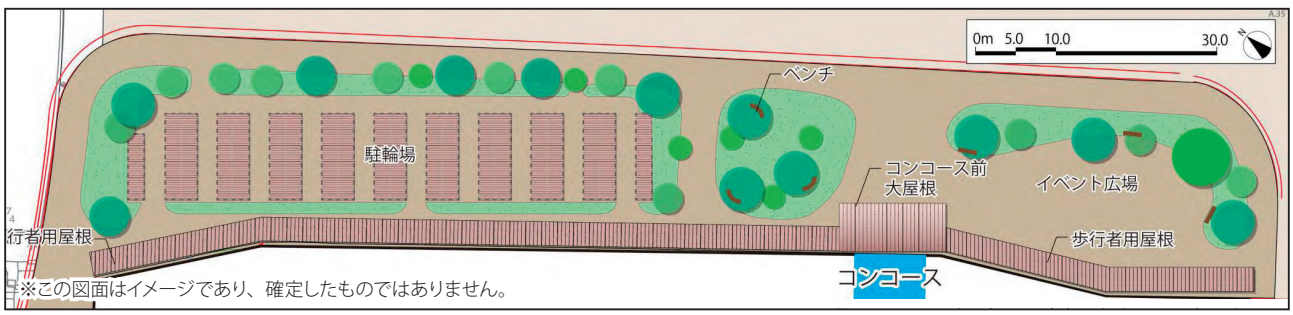
＜具体的な取り組み＞
- ○西鉄下大利駅や西鉄白木原駅の駅前広場の整備
- ○西鉄下大利駅東口のバスベイ（※）の整備
- ○駐輪場の整備
- ○公共交通の乗り換え等を円滑にする取り組みの充実
- ○レンタサイクル導入の検証

※「バスベイ」とは、バス停留所のある場所に、歩道に切れ込みを入れたような形で設けられる、バスが停車するためのスペースのことです。

図：西鉄白木原駅東口の整備イメージ（資料：『大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）』）



図：駅前広場に新たな駐輪場を確保するにあたって、景観に配慮し緑化した駐輪場の配置イメージ（西鉄白木原駅東口）
（資料：『大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）』）



（3）駅周辺の利便性の向上

子育て支援施設や高齢者が集いやすい健康･福祉施設等の充実に努めます。

中心市街地や市内各地の観光情報を提供する観光情報スペースの確保に努めます。

市民が利用しやすい多目的スペースの確保と利用を支える仕組みづくりに努めます。

人通りが多く、利用しやすい駅周辺に交番の適正配置を行い、駅周辺の治安の維持や利便性の向上に取り組みます。

＜具体的な取り組み＞

〇子育て支援施設等の充実

〇高齢者の健康･福祉施設等の充実

〇駅前観光情報スペースの確保

〇市民が利用しやすい多目的スペースの確保と利用を支える仕組みづくり

〇交番の適正配置

写真：市内の子育て支援施設「子ども情報センター（親子サロン「スマイル」）（大野城市公式 HP）

写真：駅前商店街に開設されたコミュニティカフェ「NPO 地域福祉を支える会　そよかぜ」／福岡市博多区銀天町

2.「やさしいまち」に向けた取り組み

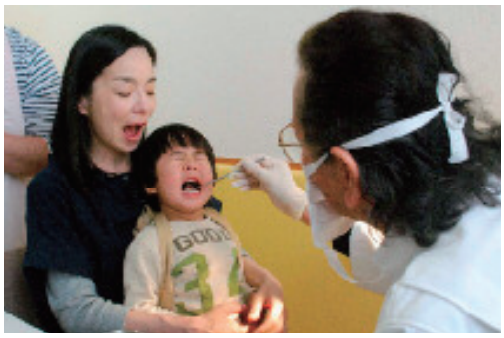
(1) 公共施設における機能の集約と強化による市民にやさしい環境の充実

「すこやか交流プラザ」を子育て支援や健康づくりの拠点として機能集約を行うとともに、乳幼児や保護者への支援事業、市民への健康増進事業の実施に取り組みます。

行政機能の再配置を中心に、他団体と連携し、時代のニーズに対応した効率的かつ効果的な行政運営を行います。特に近年は、集中豪雨や地震等、大規模な災害が顕著であることから、これに備え災害時の被害を最小化する取り組みが必要です。このため、市役所における災害時の防災拠点としての機能強化の充実に取り組みます。

＜具体的な取り組み＞
〇子育て支援や健康づくりに関する機能の集約と事業の実施
〇時代のニーズに対応した効率的かつ効果的な行政運営
〇市役所の防災拠点としての機能強化
〇市役所での高齢者及び障がい者福祉機能の充実

写真：子どもの健康診断



写真：高齢者等の健康増進

写真：ワンストップ総合窓口まどかフロア

写真：総合防災訓練

（2）多世代にやさしい市街地環境の充実

1）子育てしやすい環境の充実

小さい子どもから中高生まで、子どもが自由に安心して楽しく遊べるスペースを確保した公園等の充実に取り組みます。

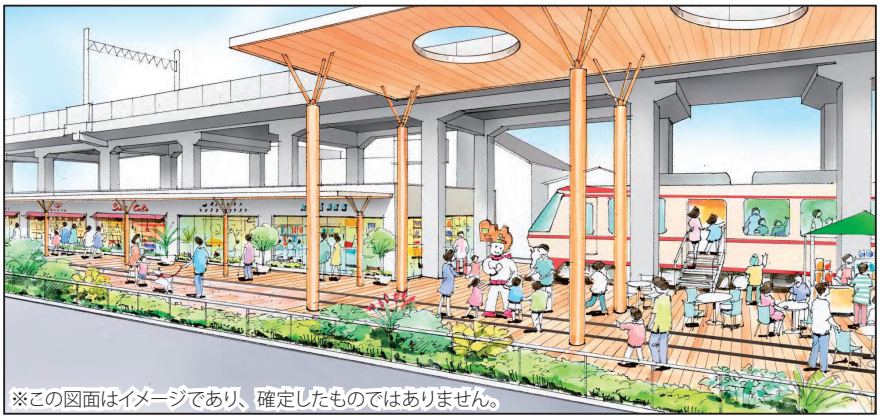
ベビーカーや自家用車を使用し、子どもを連れて公園等に行きやすい環境の充実に努めます。

外出先で授乳やおむつ替えができるスペースを確保した施設の充実に努めます。

＜具体的な取り組み＞
〇子どもが自由に安心して遊べる公園等の充実
〇子どもを連れて公園等に行きやすい環境の充実
〇授乳やおむつ替えができるスペースを確保した施設の充実

図：西鉄下大利駅北側における新たな公園の整備イメージ
（資料：『大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）』）

図：高架下を活用した公園・広場の整備イメージ
（資料：『大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）』）



2）高齢者等が過ごしやすい市街地環境の充実

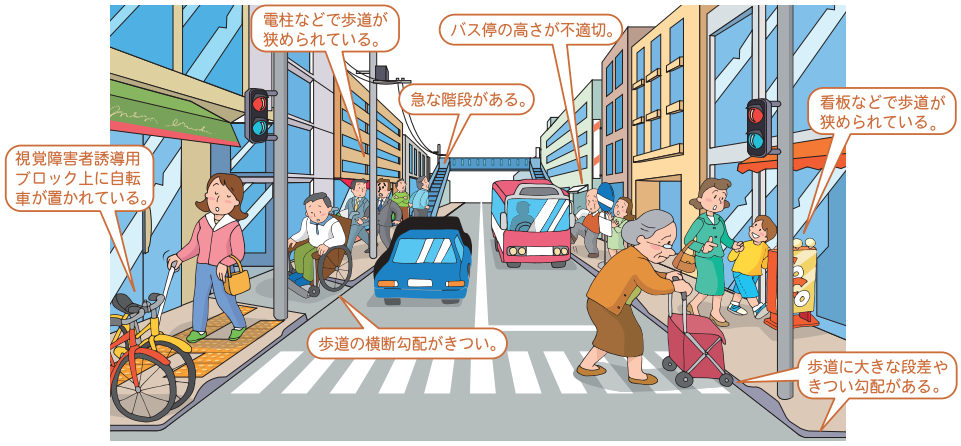
西鉄白木原駅･西鉄下大利駅･ＪＲ大野城駅とそこから主要施設までの経路等を中心に、高齢者等が通りやすい歩行者空間等のバリアフリー化に取り組みます。

公共空間の実績を踏まえ、将来的に店舗等の民間施設についても、歩行者空間等のバリアフリー化の促進に努めます。

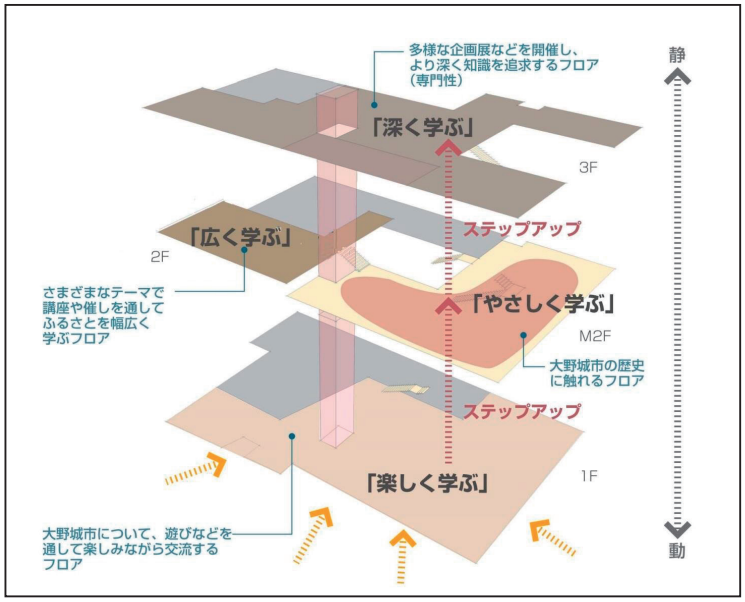
「大野城心のふるさと館」等を活かし、高齢者をはじめ多世代が楽しく地域の歴史や文化を学べる生きがいづくりに努めます。

＜具体的な取り組み＞
〇公共空間のバリアフリー化
〇民間施設のバリアフリー化
〇「大野城心のふるさと館」等を活用した生きがいづくり

図：バリアフリー化が求められる公共空間のイメージ



図：「大野城心のふるさと館」における学びの空間構成イメージ
（資料：『「大野城心のふるさと館」基本設計』）



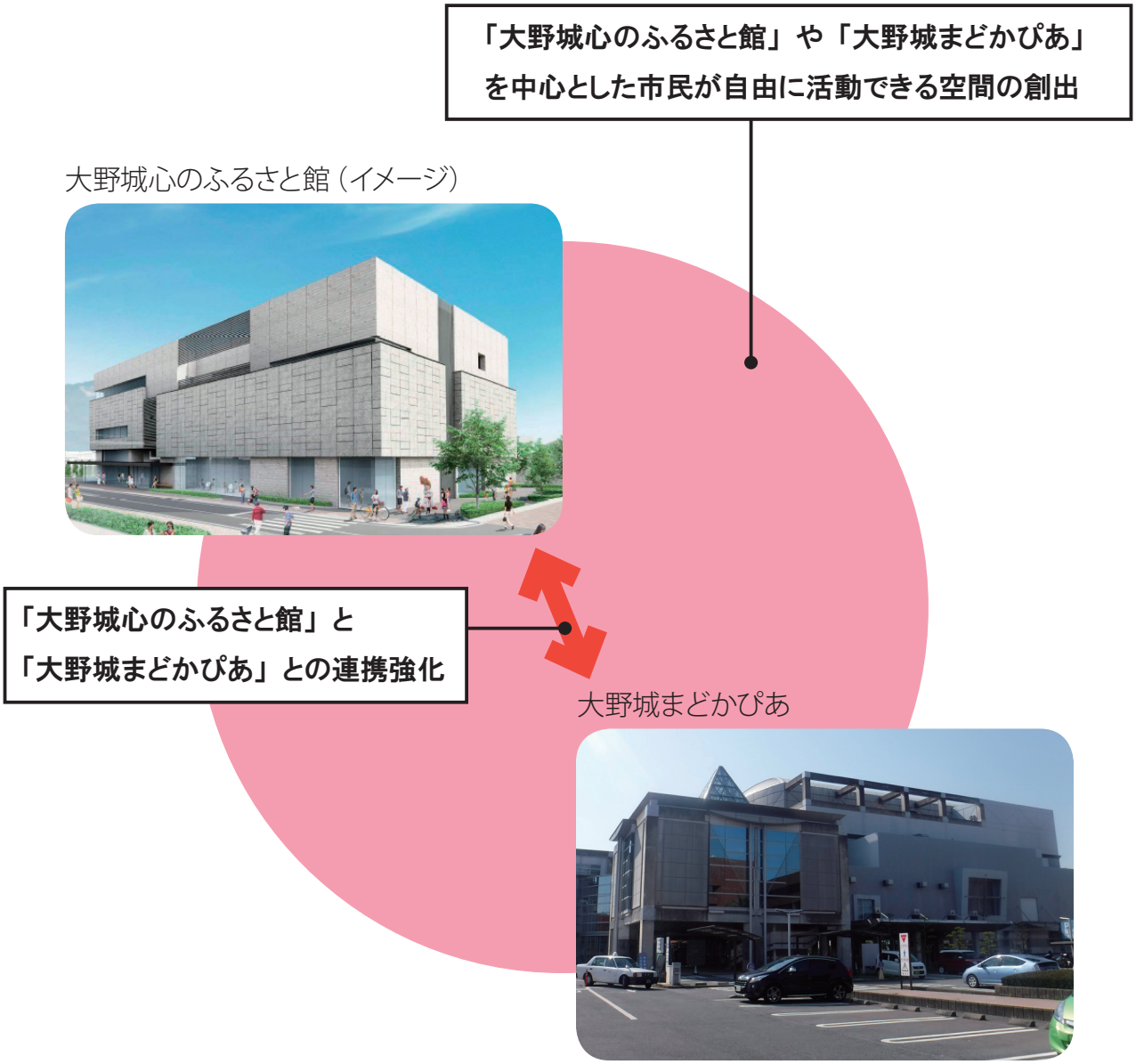
3.「にぎわうまち」に向けた取り組み

(1) 公共施設における機能の集約と強化によるにぎわいづくり

トレイルの起点となる「大野城心のふるさと館」や「大野城まどかぴあ」を中心に市民が自由に集い活動できる空間の創出、さらには回遊性の向上を図るため両施設の連携強化に取り組みます。

＜具体的な取り組み＞
○「大野城心のふるさと館」や「大野城まどかぴあ」を中心とした市民が自由に活動できる空間の創出
○「大野城心のふるさと館」と「大野城まどかぴあ」との連携強化

図：公共施設における機能の集約と強化によるにぎわいづくりのイメージ



（2）商店街のにぎわいづくり

持続可能なにぎわいづくりに向けて、各商店会やにぎわいづくり協議会との連携を深め、中心市街地の活性化に向けた企画、情報発信、各種イベントの開催等に努めます。

＜具体的な取り組み＞

〇オープンスペースを活用したイベント等の開催
〇隣接する大型小売店とコラボイベントの開催
〇買物客が歩いて楽しい道路整備
〇路上等でのカフェやイベントの開催
〇各商店会の協力イベントの開催
〇集客力の高いテナントの誘致
〇空き店舗等の活用

図：写真：わくわくパビリオンの開催（資料：『ふるさと大野城「まちの活力」創出計画』）

パンフレット（平成２９年度）

イベントの様子

写真：市民参加のワークショップ
（資料：『ふるさと大野城「まちの活力」創出計画』）

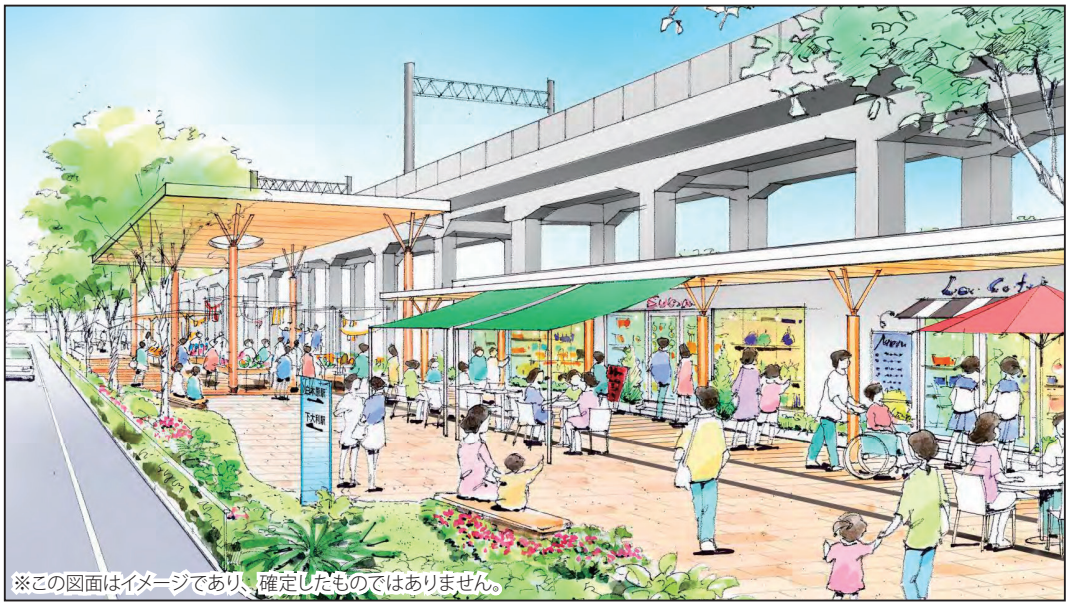
写真：市民によるまち歩きガイド
（資料：『ふるさと大野城「まちの活力」創出計画』）

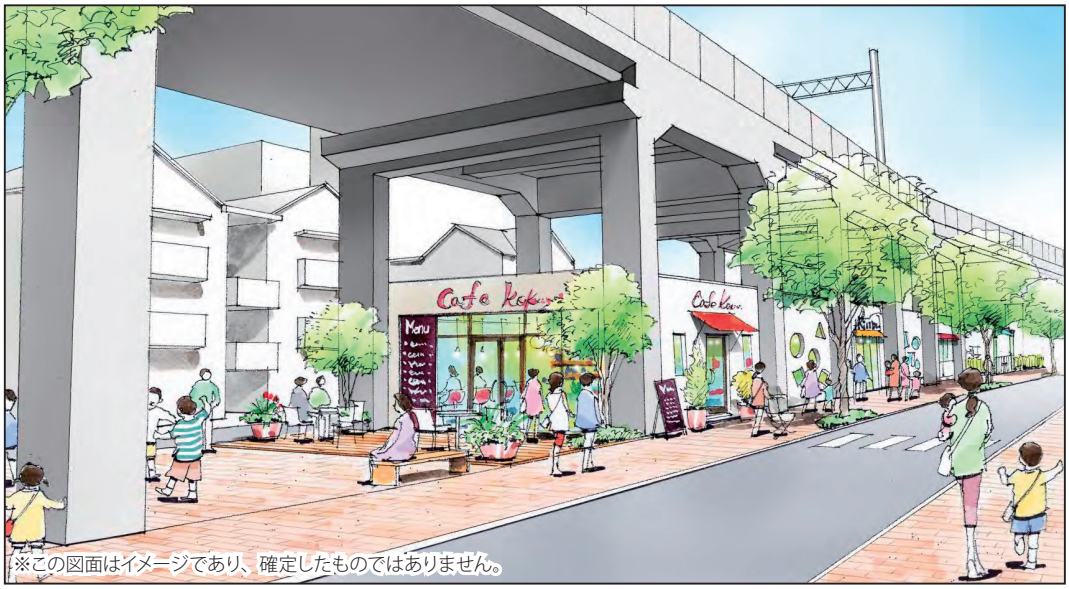
(3) 高架下のにぎわいづくり

高架を管理する西鉄との協議を踏まえ、雨に濡れない沿道又は高架下散策道の整備や人々が利用しやすい多目的スペースの確保と利用を支える仕組みづくりに取り組みます。また、商店街との相乗効果を図るため、人々が立ち寄りやすい店舗や飲食店等の誘致に努めます。

＜具体的な取り組み＞
〇雨に濡れない沿道又は高架下散策道の整備
〇人々が利用しやすい多目的スペースの確保と利用を支える仕組みづくり
〇立ち寄りやすい店舗や飲食店等の誘致

図：高架下への店舗・テナント・カフェ等の誘致イメージ（資料：『大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）』）





(4) 歩いて楽しいにぎわいをつなぐトレイルの充実

トレイルのルート沿いへのサイン設置やトレイルマップの作成等に取り組みます。

「大野城心のふるさと館」や商店街等を起点として、中心市街地を巡るイベントの開催等に取り組みます。

既存の公園の再整備や新たな公園･広場の整備･再整備にあたって、人々が休憩しやすい場所の確保に努めます。

御笠川や水城跡の魅力を活かし、高めるトレイルの整備に取り組みます。

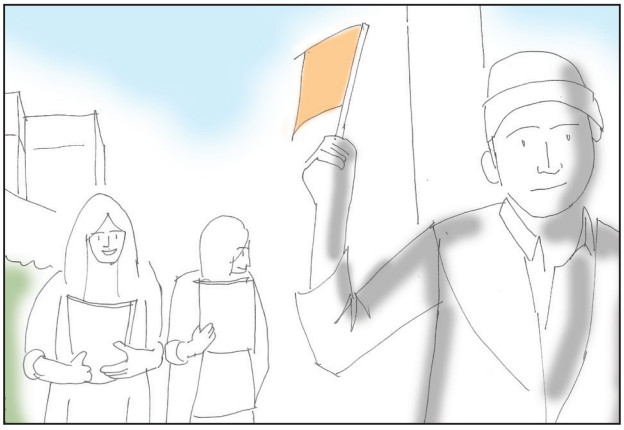
トレイルを活かすイベント等の開催にあたっては、商店会やにぎわいづくり協議会等との連携に努めます。

＜具体的な取り組み＞
〇トレイルのルート沿いへのサインの設置
〇トレイルマップ等の作成
〇中心市街地を巡るイベント等の開催
〇人々が休憩しやすい場所の充実
〇御笠川や水城跡を活かすトレイルの整備

図：トレイルのルート沿いに設置されるサイン

写真：トレイルマップの作成

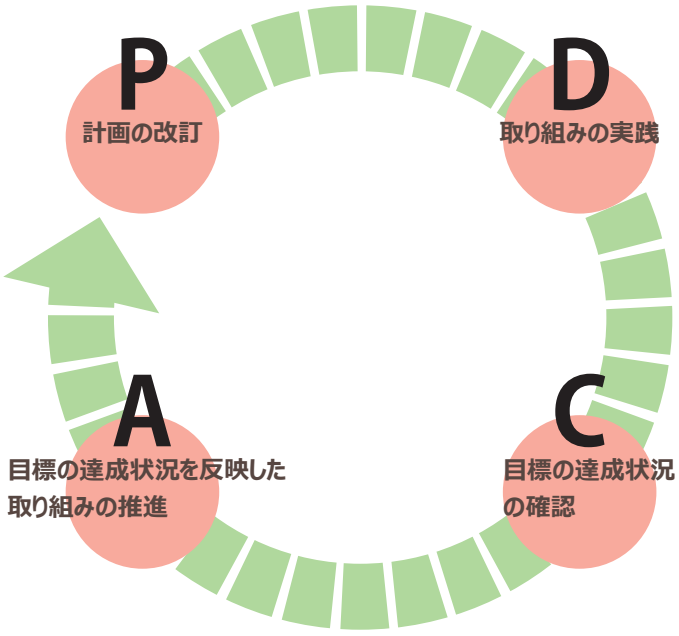
図：トレイルを巡るイベントの開催イメージ
（資料：『大野城トレイル～自然と歴史の散策路～基本計画』）



Ⅵ　今後の展開

1.PDCAサイクルの実践

本市は、本計画を踏まえ、これから便利なまち、やさしいまち、にぎわうまちの実現に向けた取り組みを実践していきます。あわせて、目標の達成状況を確認し、次なる取り組みの推進や計画の改訂に反映していくことを目指します。



2.目標の達成状況を確認する指標

目標の達成状況を客観的に確認するため、目標を定量化する指標を設定します。

表：指標の設定

目標	目標を定量化する指標	
便利なまち	中心市街地の定住人口	中心市街地の利便性の向上を、定住人口の変化から評価します。
	駅の乗降客数	公共交通の利便性の向上を、駅の乗降客数の変化から評価します。
やさしいまち	中心市街地に定住する子どもの数	子育てしやすい環境の充実を、中心市街地に暮らす子どもの数の変化から評価します。
	文化施設の利用人数	多世代交流の動向を、施設の利用人数の変化から評価します。
にぎわうまち	イベントの開催数	中心市街地のにぎわいづくりの動向を、にぎわいづくり協議会や商店会が主催するイベントの開催数の変化から評価します。
	商店会の会員数	にぎわいづくりのポテンシャル（潜在能力）を、商店会の会員数の変化から評価します。

3.目標の達成状況を確認する指標の目標値

目的の達成状況を確認する指標の把握方法と算出方法を明確にし、従前値と目標値を設定します。

表：指標の算出方法・従前値・目標値

目標	指標	概要	従前値	目標値
便利なまち	中心市街地の定住人口	資料：住民基本台帳 従前値：平成 28 年度末日 目標値：平成 39 年度末日	29,685 （人）	31,100 （人）
	駅の乗降客数	資料：西日本鉄道株式会社（西鉄春日原駅、西鉄白木原駅、西鉄下大利駅）と JR 九州（JR 大野城駅、JR 水城駅）の資料 従前値：平成 28 年度の一日当たりの平均乗降客数の合計 目標値：平成 39 年度の一日当たりの平均乗降客数の合計	65,916 （人）	69,000 （人）
やさしいまち	中心市街地に定住する子どもの数	資料：住民基本台帳 従前値：平成 28 年度末日の 19 歳未満の人口 目標値：平成 39 年度末日の 19 歳未満の人口	5,466 （人）	5,500 （人）
	文化施設の利用人数	資料：「大野城まどかぴあ」と「心のふるさと館（整備されるまでは大野城市歴史資料展示室）」の資料 従前値：平成 28 年度の利用人口の合算 目標値：平成 39 年度の利用人口の合算	543,381 （人）	705,500 （人）
にぎわうまち	イベントの開催数	資料：にぎわいづくり協議会と商店会の資料 従前値：平成 28 年度のイベント開催数の合算 目標値：平成 39 年度のイベント開催数の合算	24 （回）	35 （回）
	商店会の会員数	資料：商店会の資料 従前値：平成 28 年度の会員数の合算 目標値：平成 39 年度の会員数の合算	190 （人）	200 （人）

4.目標の達成状況の公開・分析

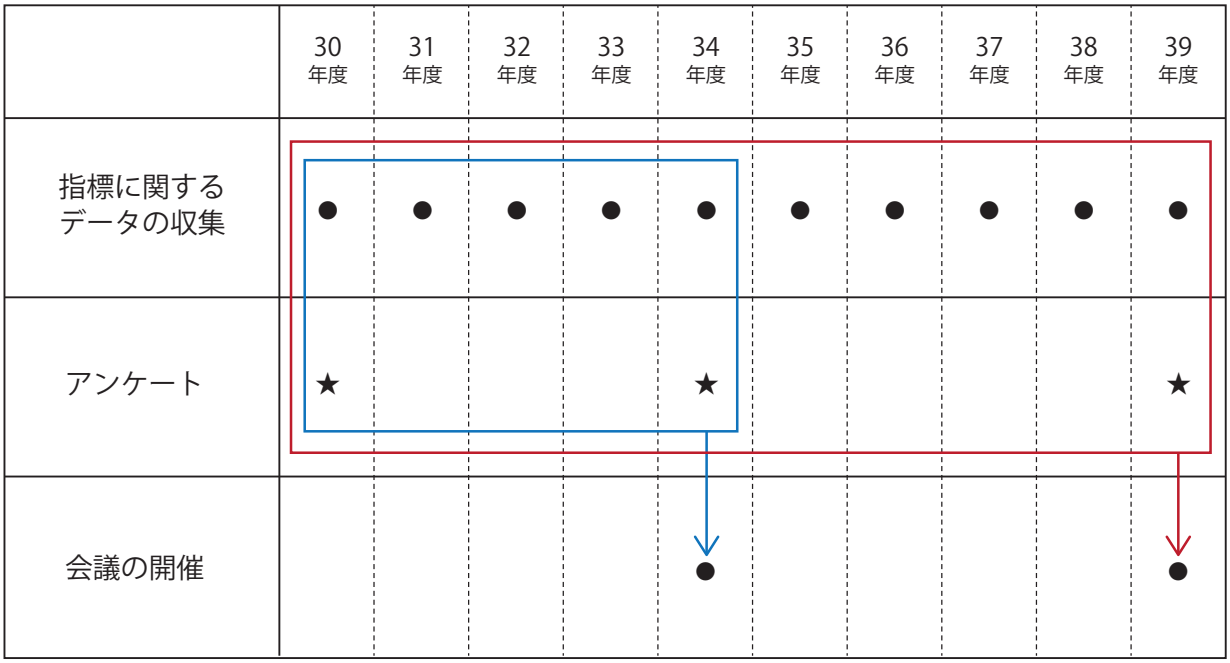
本市は、指標に掲げるデータを毎年収集し、更新するとともに、1年目、5年目、10年目にはアンケートを実施し、成果の確認を行います。なお、これらは、市の公式ホームページで公開します。

また、本市は、5年目、10年目を目途に「中心市街地活性化の達成状況確認会議（仮称）」（以下、会議）を開催します。会議のメンバーは、本計画策定に関わった団体の代表者等で構成します。

会議では、目標値の達成状況を確認・共有するとともに、中心市街地の活性化に向けた今後の取り組み、市民等と市の共働による中心市街地活性化のあり方、計画改訂の必要性等について検討します。これら会議の内容についても市の公式ホームページで公開します。

なお、必要に応じて、会議とは別に、庁内外の関係者向けに報告会を実施し、情報の共有を図ります。

図：目標の達成状況の公開・分析



アンケートは、以下を主な項目として設定します。市民が回答しやすく、また従前と従後を比較しやすいアンケートとするため、「はい」か「いいえ」で回答できる形式を基本とします。

表：アンケートの主な項目

便利なまちについて	・駅前の利便性が高まってきたと感じますか？ ・駅周辺の生活利便性が高まったと感じますか？
やさしいまちについて	・子育てしやすい中心市街地になってきたと感じますか？ ・高齢者にやさしい中心市街地になってきたと感じますか？
にぎわうまちについて	・商店街にでかける機会が増えたと感じますか？ ・商店街がにぎわってきたと感じますか？

参考資料

［1］前回計画の概要 …… p.51
［2］上位・関連計画 …… p.55
［3］大野城市の概要 …… p.61
［4］中心市街地の成り立ち …… p.80
［5］各商店街の概況 …… p.84
［6］市民意向 …… p.90
［7］中心市街地活性化基本計画策定委員会の名簿 …… p.97
［8］委員会の開催日時と主な議題 …… p.98

[1] 前回計画の概要

本市は、平成12年3月に市独自の計画として「大野城市中心市街地活性化基本計画」を策定しています。

(1) 中心市街地と重点地区の範囲設定

前回計画では、中心市街地の区域を設定するとともに、その中に重点地区を設定しています。

●中心市街地の範囲

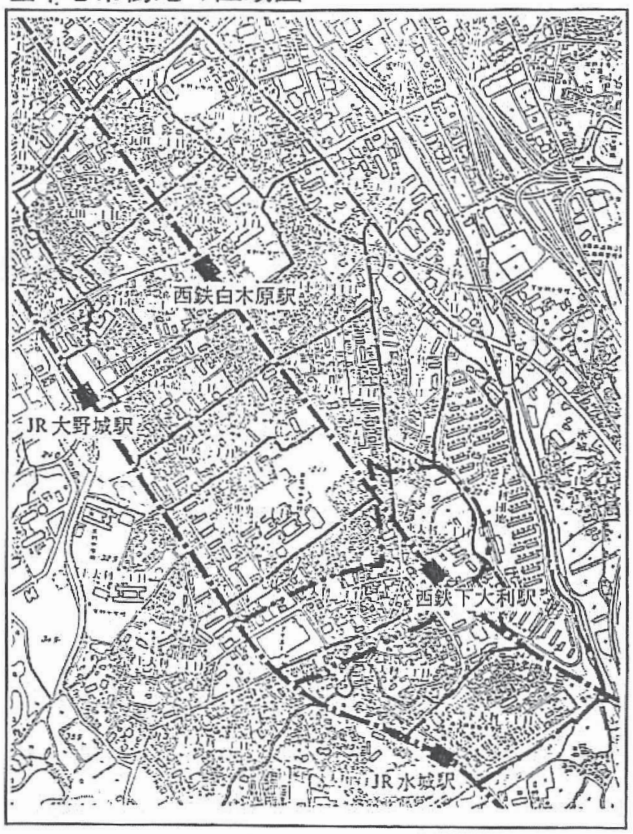
中心市街地は、3つの視点（○現況：商業地域・交通結節の拠点、○市街地形成の歴史：古くからの中心地、○上位計画：都市機能の整備・集積、潤いある都市環境づくり）から約140haの範囲を区域として設定しています。その区域は西鉄白木原駅、西鉄下大利駅を中心に都市計画法の商業地域、近隣商業地域を含む、徒歩圏約半径500mの範囲です。

●重点区域の範囲

重点区域は、3つの視点（○中心市街地の中で安全で快適な歩行者空間の確保が求められている地区、○商業地域でありながら都市基盤の未整備により、高度利用が図られていない地区、○市民の利便性・快適性に寄与するポテンシャルを有する商業系市街地及びその周辺であること）を踏まえ、下大利駅周辺を区域として設定しています。

図：中心市街地、重点地区の区域設定

■中心市街地の区域図



○西鉄白木原駅及び下大利駅周辺地区
区域面積約 140ha

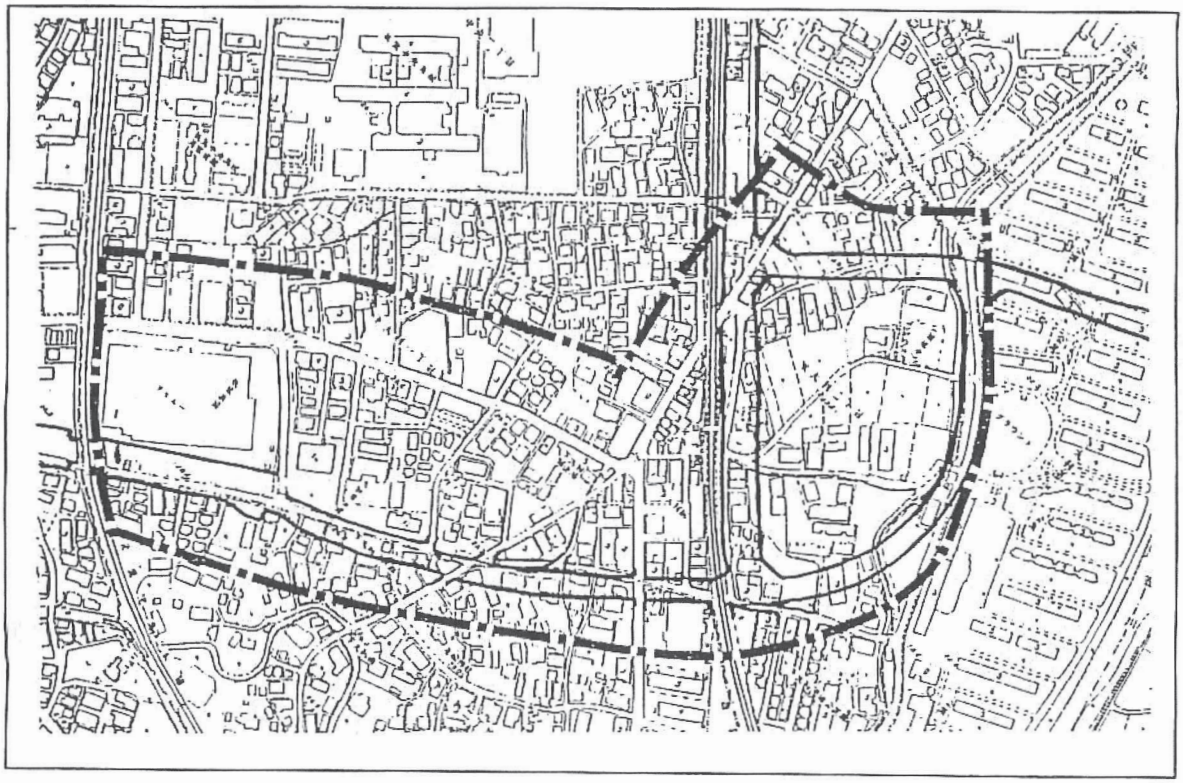
西鉄白木原駅、西鉄下大利駅周辺として設定した中心市街地の区域は、各駅を中心に用途地域指定された商業地域、近隣商業地域を含む、徒歩圏である約半径500メートルとします。

町丁名では、西鉄白木原駅周辺として、白木原1～5丁目、瓦田1～3丁目および中央1丁目の範囲です。

西鉄下大利駅周辺は、下大利1～3丁目、東大利1～3丁目、下大利団地および中央2丁目とします。

○重点地区下大利駅周辺地区
区域面積約 18.5ha

■重点地区区域図



（資料：大野城市中心市街地活性化基本計画／平成 12 年 3 月策定）

(2) 中心市街地の活性化の方針

中心市街地の活性化を図るため、3つの目標を掲げています。

また、7つの活性化の基本方針の下、中心市街地の整備方針を設定しています。

●目標

①2つの拠点を持つにぎわいのまちづくり

②うるおいでつなぐ交流のまちづくり

③まちを育てる参加のまちづくり

●テーマ

まちやひと、文化をつなぐ新しい“まちづくり軸”の形成

●中心市街地の活性化の基本方針

①風景軸としてのまちづくり軸の形成

②西鉄大牟田線の高架化に連動した交通ネットワークの形成による駅周辺のにぎわいの創出

③2つの駅周辺の中心拠点の個性を活かした役割分担による活性化の推進

④多様な市街地が共存する質の高い居住環境づくり

⑤歩いて回れる中心市街地のコンパクトさを活かした歩行者ネットワークづくり

⑥多様な生活様式を持った市民が交流できる空間の創出

⑦市民参加の機会の創出によるまちづくりの推進

(3) 重点区域の活性化の方針

重点地区については、活性化のテーマ「まちなかを緑とゆとりと安心でつなぐ、暮らし創造の都市空間づくり「かいわい、にぎわい、ワイワイみんなのまちづくり」」のもと、以下の5つを活性化の基本方針に設定しています。

(1) アクセス機能の強化と駅東西の機能分担

(2) 安全な歩行者空間の創出と散策ネットワークの形成によるにぎわい・界隈性の創出

(3) 良好な居住環境を創出する面整備事業の実施

(4) 電線の地中化、緑化等による駅周辺の景観の向上

(5) まちづくりのプロセスに関わる市民参加機会の創出

(4) 整備プログラムに設定される事業

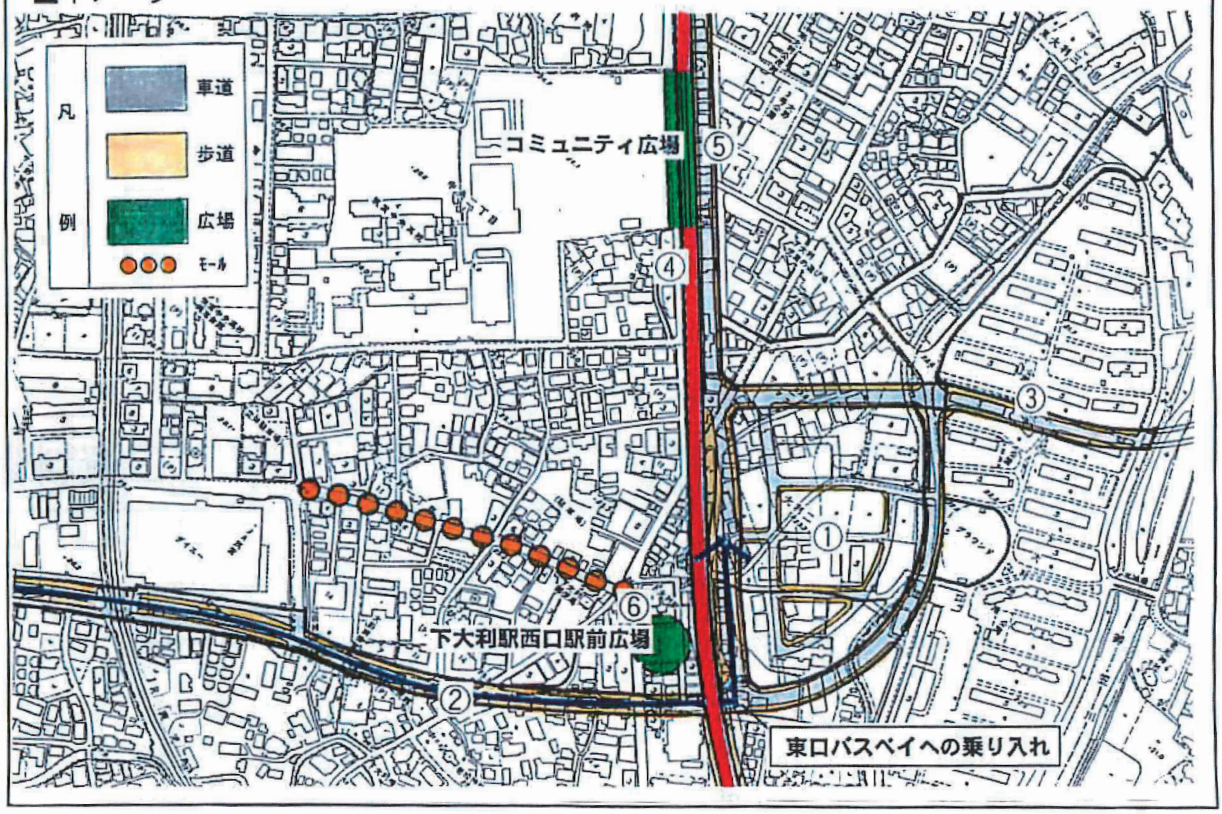
前回計画では、実現化に向けた整備プログラムにおいて、最短として15年で実現を目指す事業として、6つの事業を位置づけています。

図：整備プログラムに設定される6つの事業

事業完了（15年後）	
①下大利駅東 土地区画整理事業	○事業完了
②下大利 南ヶ丘線延伸事業	○事業完了 →東口バスベイへバス乗入
③下大利駅 東線街路事業	○事業完了
④西鉄大牟田線 連続立体交差事業	○事業完了
⑤（仮称）白木原 下大利線街路事業	○事業完了
⑥下大利駅 西口周辺整備事業	○事業完了 →旧バス通りの再整備完了 →駅前広場整備、商業施設再開発等

○まちづくり軸の完成
- （仮称）白木原下大利線の広幅員の歩道
- コミュニティ広場
- 下大利駅西口駅前広場

■イメージ



（資料：大野城市中心市街地活性化基本計画／平成12年3月策定）

[2] 上位・関連計画

(1) 第５次大野城市総合計画（平成21～30年度）・後期基本計画（平成26～30年度）

都市（まち）の将来像に「ともに創る　個性輝く　やすらぎの新コミュニティ都市」を掲げる基本構想の下、平成26年３月に策定した後期基本計画において、土地利用の基本方針に「西鉄天神大牟田線連続立体交差事業などの都市基盤整備事業を推進しながら既成市街地の良好な住環境とも調和のとれた地域」と明記するとともに、分野別プラン「機能的で潤いのある都市空間の創出」に「高質な歩行者空間・ネットワークの確保を推進することで、人通りの増加を図り、沿道のにぎわい創出」に向けて、「中心市街地活性化基本計画に基づいた重点地区の整備促進と検証・見直しの実施」に取り組むことを位置づけています。

土地利用の基本方針
●中心市街地地域
・鉄道駅を核として、商業・サービス施設や中高層の共同住宅が集積する市街地と旧集落を含む既成市街地が共存する地域です。
・西鉄天神大牟田線連続立体交差事業などの都市基盤整備事業を推進しながら既成市街地の良好な住環境とも調和のとれた地域とします。

分野別プラン⑥－1　機能的で潤いのある都市空間の創出
③中心市街地のにぎわい創出
・高質な歩行者空間・ネットワークの確保を推進することで、人通りの増加を図り、沿道のにぎわい創出を図ります。
→１）中心市街地活性化基本計画に基づいた重点地区の整備促進と検証・見直しの実施

(2) 大野城市都市計画マスタープラン（平成24～33年度）

平成24年3月に策定した「改訂大野城市都市計画マスタープラン」では、将来像「ともに創る　個性輝く　やすらぎの新コミュニティ都市」を掲げ、将来の都市構造（骨格プラン）に位置づけられる商業・利便拠点、文化拠点、くつろぎ拠点（水城跡等）が中心市街地に含まれます。

３．将来の都市構造（骨格プラン）
■拠点
●商業・利便拠点（西鉄春日原駅～市役所・大野城まどかぴあ周辺、西鉄白木原駅周辺、西鉄下大利駅周辺、南ヶ丘交差点周辺）
・駅を中心に人が集まり、身近な商業・業務施設が立地する利便性の高いにぎわいの空間を形成します。
・西鉄天神大牟田線連続立体交差事業によって創出される高架下の土地利用について検討します。

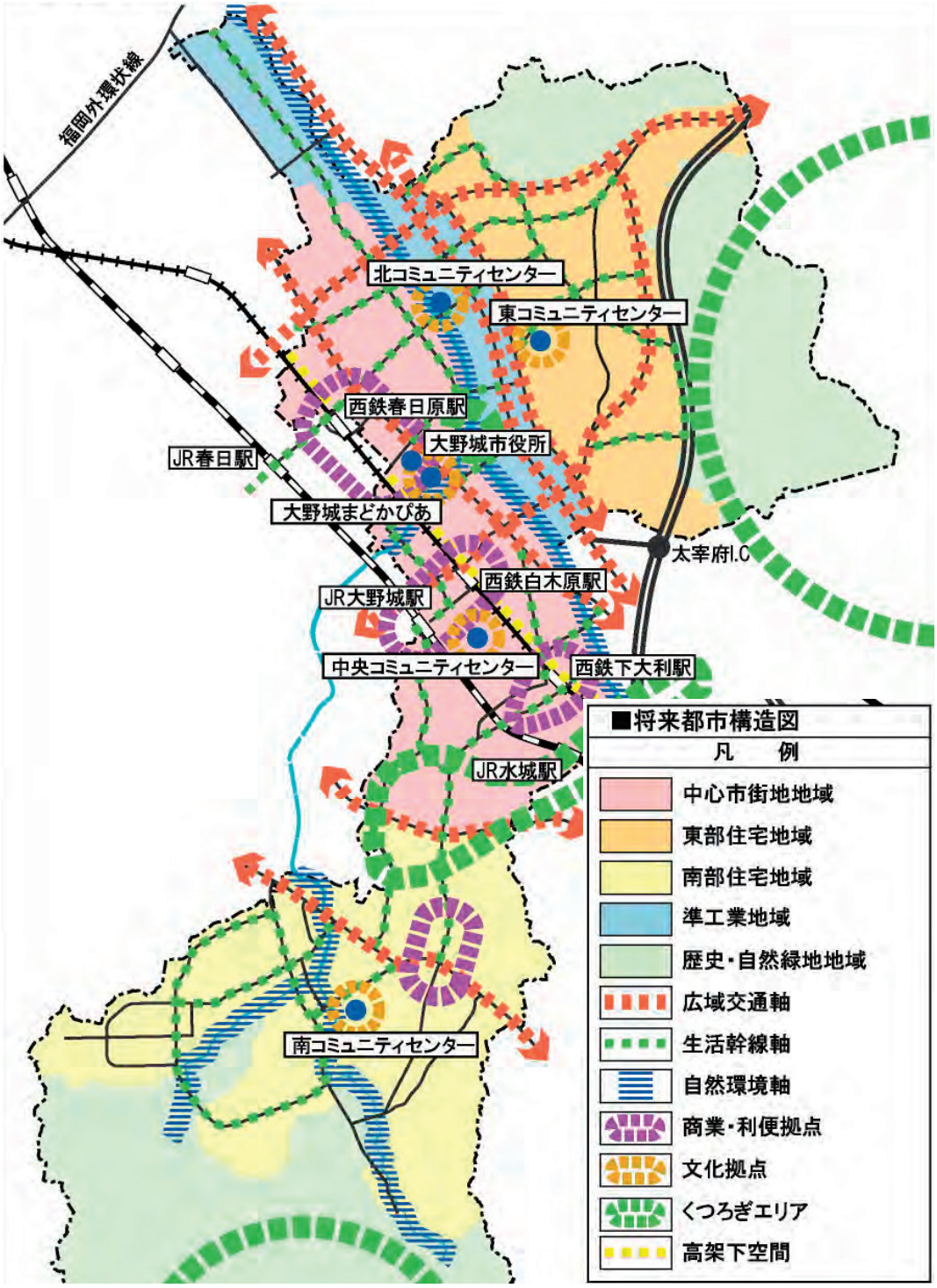
●文化拠点（大野城まどかぴあ、コミュニティセンター）
・各コミュニティセンターを、各地区の文化拠点とし、その活動や運営にあたっては、各地区それぞれ特徴をもった地域主導型とします。
・文化講座が開催されている生涯学習センター、男女共同参画を支援する男女平等推進センター、情報の宝庫といえる図書館など、多目的に利用されている大野城まどかぴあを全市域の文化拠点とします。

●くつろぎ拠点（水城跡等）
・自然と共存する都市環境の構造を支え、歴史的環境であるとともに市民の憩いの場となるくつろぎ拠点とします。

中心市街地地域については「商業・業務施設の集積等により市民生活の利便性を高めるとともに、無秩序な建物の高層化を抑制し、既成市街地の良好な住環境を維持できるよう調和のとれた地域」を目指すことが明記されています。

３．将来の都市構造（骨格プラン）
■地域
●中心市街地地域
・鉄道駅を核として、商業・業務サービス施設や中高層の共同住宅が集積する市街地と旧集落を含む既成市街地が共存する地域です。
・商業・業務施設の集積等により市民生活の利便性を高めるとともに、無秩序な建物の高層化を抑制し、既成市街地の良好な住環境を維持できるよう調和のとれた地域とします。

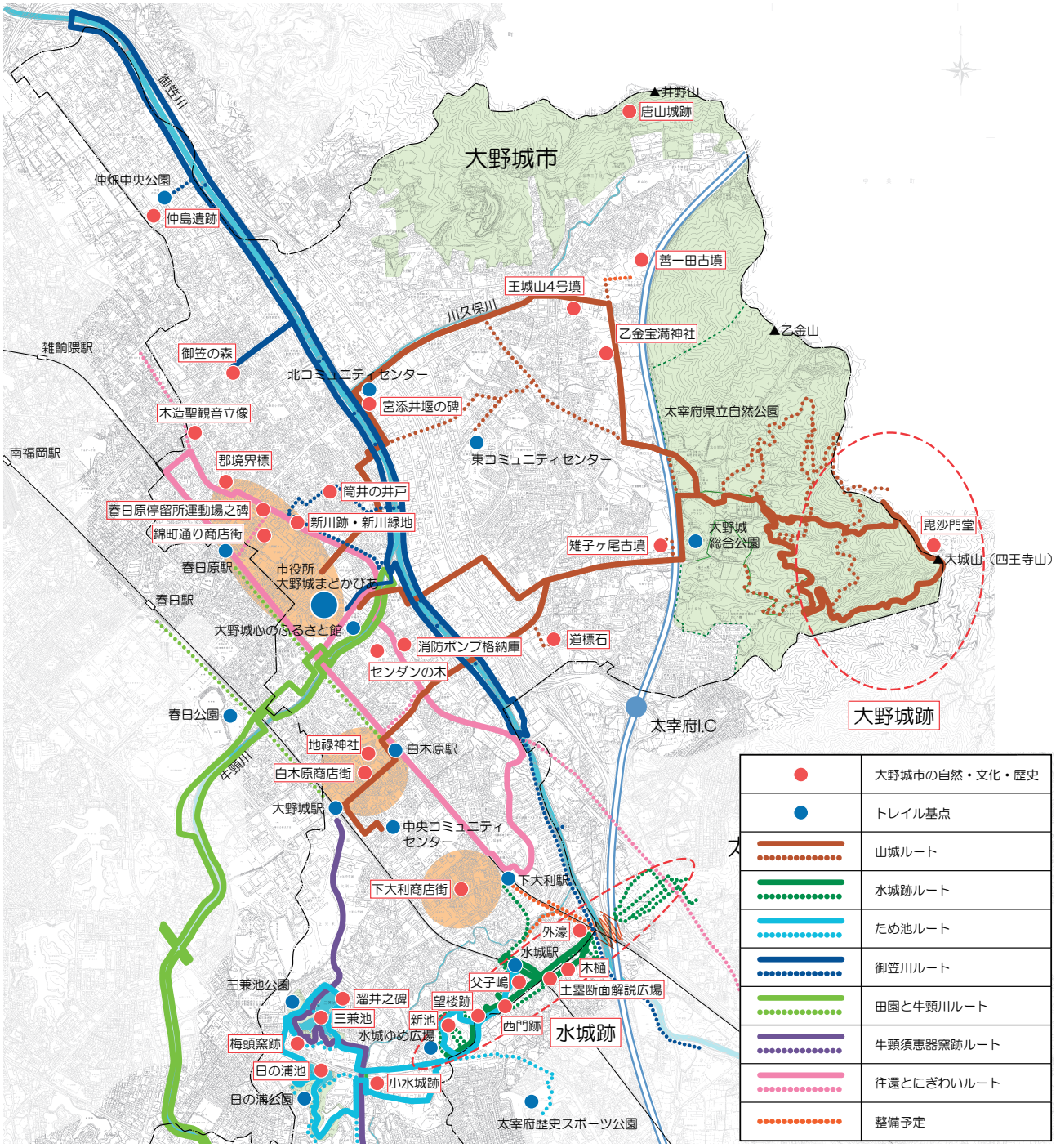
図：将来の都市構造（骨格プラン）／出典「大野城市都市計画マスタープラン」



(3) 大野城トレイル～自然と歴史の散策路～基本計画

平成27年3月に策定した「大野城トレイル～自然と歴史の散策路～基本計画」では、「大野城固有の自然・文化・歴史を介して、人々が笑顔で触れ合う交流軸の形成」をコンセプトに、市内に点在する自然・文化・歴史などを巡る「ふるさと大野城を巡る自然と歴史の散歩道」を7つ設定しています。中心市街地には、トレイルの重要な起点の一つである「大野城心のふるさと館」が位置し、山城ルート、水城跡ルート、往還とにぎわいルート、田園と牛頸川ルート、御笠川ルートが含まれています。

図：大野城トレイル（総括）

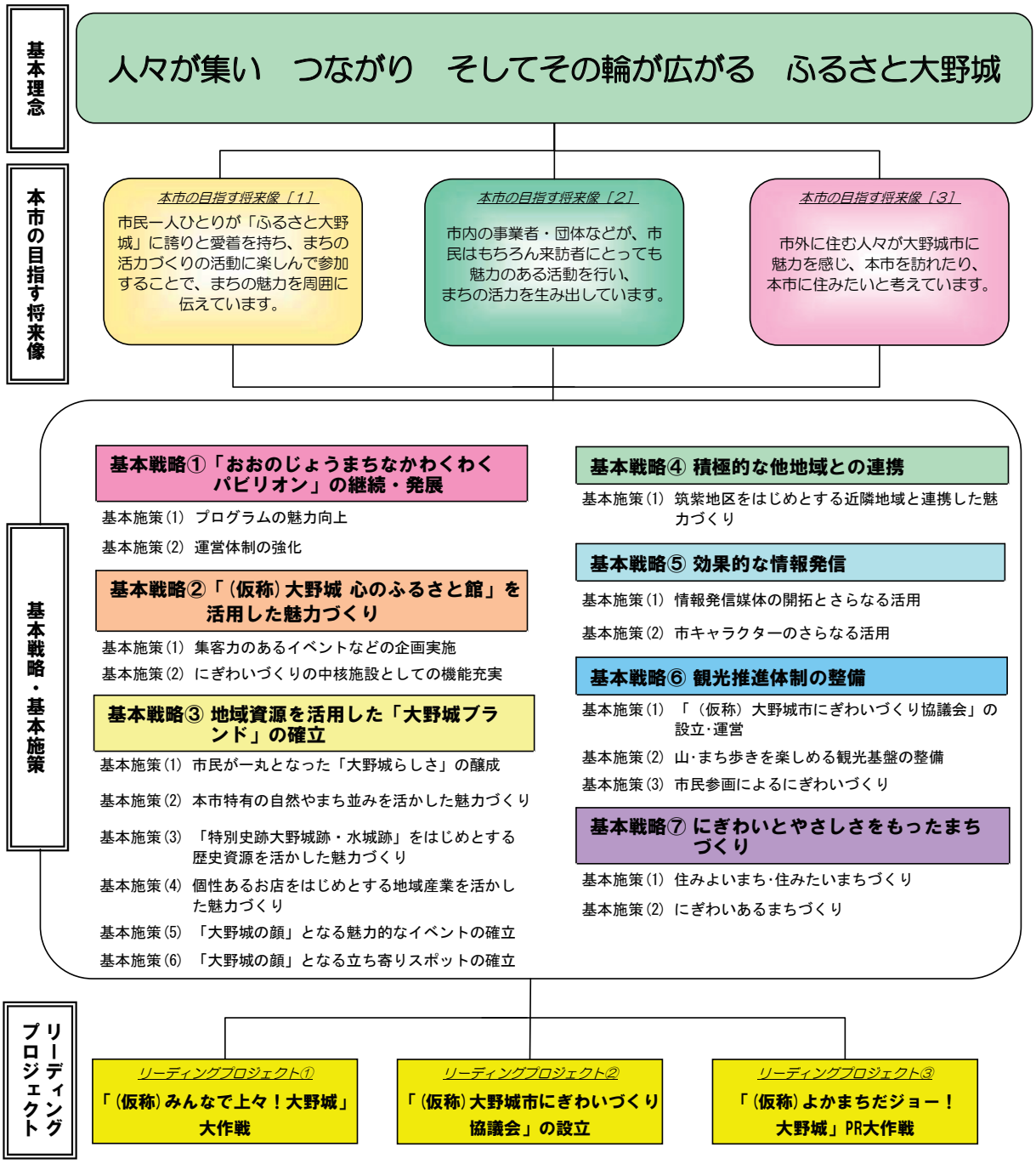


(4) ふるさと大野城「まちの活力」創出計画

平成28年3月に策定した「ふるさと大野城「まちの活力」創出計画」は、ふるさと大野城の地域資源（人・モノ）を最大限に活用することを通じて、次代を見据えた新たな「まちの活力」を創出することを目指す計画です。基本理念「人々が集い　つながり　そしてその輪がひろがる　ふるさと大野城」のもと、行動計画（アクションプラン）とその目標を設定しています。同計画は全市を対象としていますが、わくわくパビリオンの開催をはじめ、中心市街地が行動計画の中心と捉えられます。

同計画を踏まえ、平成28年6月「一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会」が発足しています。

図：施策体系／出典「ふるさと大野城「まちの活力」創出計画」



⑸ 大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27～31年度）

平成28年3月に策定した「大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「基本目標2：大野城市への新しいひとの流れをつくる」の土地の有効活用の中に「中心市街地活性化本計画の見直し・策定」を位置づけています。

⑹ シビックゾーン基本構想

平成28年7月に策定した「シビックゾーン基本構想」は、市庁舎周辺の各公共機能の再編、施設の再配置を通して、子どもからお年寄りまで、また、障がいを持つ人など全ての人々を対象とし、機能の相互連携・補完を図ることで、有益で交流やにぎわいのある市の中核を創出することを目的とする計画です。

本構想で用いる「シビックゾーン」とは、市庁舎を中心とした公共施設などが集中的に立地する地区を意味しています。市庁舎を中心とし、「大野城心のふるさと館」「大野城まどかぴあ」、「総合福祉センター」、「大文字公園」、「すこやか交流プラザ」を含む範囲を機能再配置の対象とし、この将来構想検討対象の市庁舎周辺エリアを「シビックゾーン」と位置づけています。

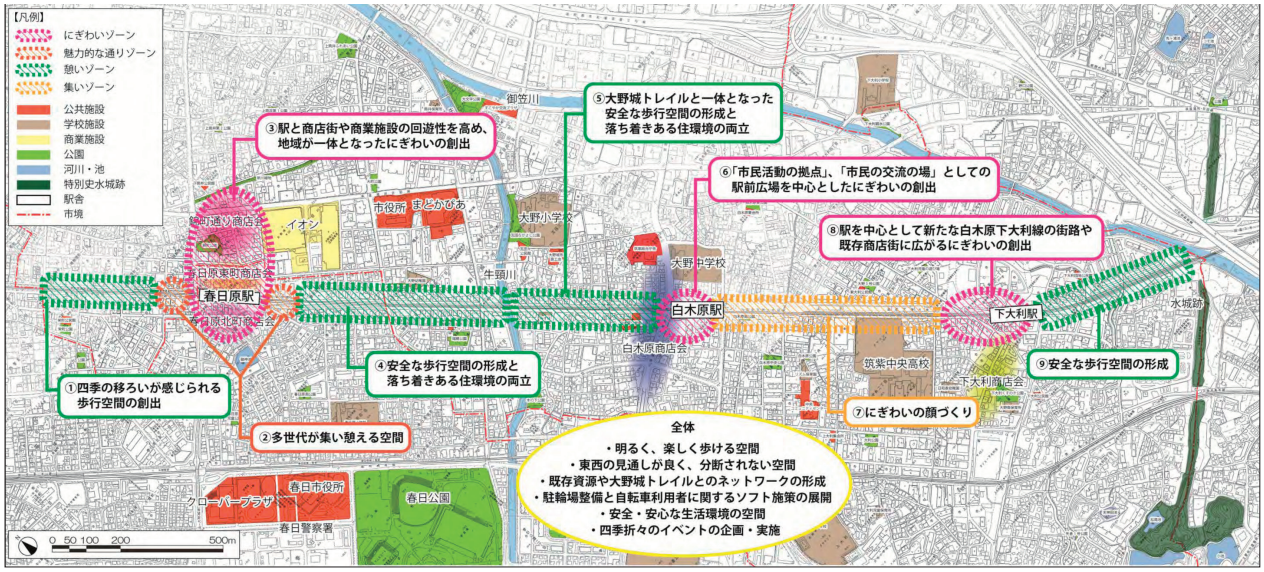
なお、シビックゾーンは本市の各公共施設等の機能を中央に集約させるものではなく、むしろ交通網や「大野城トレイル」等によって、大野城市に点在するまちの魅力や機能をつなげる中枢を担うものです。

(7) 高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）

平成28年3月に策定した「高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）」では、その対象範囲のほとんどが中心市街地の範囲に含まれています。

同計画では、２つの基本理念「①大野城市の新しい顔・都市軸となる空間の創出」、「②市民・事業者・行政が共働で取り組むまちづくりの実現」、そして3つの基本方針「①駅・高架下空間とその周辺に「にぎわい」を創出しよう」「②高架下及びその周辺エリアで「憩い」、「日常利用」、「交流」の空間をつくろう」、「③スムーズで快適な歩行者・自転車ネットワークを形成しよう」の下に、高架下空間及びその周辺地域を含んだゾーニングと、それぞれのゾーンの目指す方向性を定めています。

図：まちづくりビジョン　全体ゾーニング／出典「高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）」



① 四季の移ろいが感じられる歩行空間の創出	②多世代が集い憩える空間	③駅と商店街や商業施設の回遊性を高め、地域が一体となったにぎわいの創出	④安全な歩行空間の形成と落ち着きある住環境の両立	④大野城トレイルと一体となった安全な歩行空間の形成と落ち着きある住環境の両立	⑥「市民活動の拠点」、「市民の交流の場」としての駅前広場を中心としたにぎわいの創出	⑦にぎわいの顔づくり	⑧駅を中心として新たな白木原下大利線の街路や既存商店街に広がるにぎわいの創出	⑨安全な歩行空間の形成高架沿いに形成
福岡市側からの連続した歩行空間のつながりを保ち、四季の移ろいを感じながら歩くことができる空間とする。また、駅に近づくにつれにぎわいが感じられる区間へと移行する。	駅からのにぎわいを波及させ、落ち着きの中に多世代（子どもから高齢者まで）が集い憩うことのできるゾーンとする。	駅を中心に周辺の商店街や商業施設との回遊性を高めていく。 また、春日市を含めた地域が一体となり、面的に広がるにぎわいを形成するゾーンとする。	周辺が住宅街のため、安全な歩行空間の形成と落ち着きのある住環境を保持するゾーンとする。	牛頸川から白木原駅までは、周辺の住宅街への配慮と合わせ、整備中の大野城トレイルとの一体的なネットワークの形成を図る。	「市民活動の拠点」や「市民の交流の場」と位置づけ、市民や商店街、事業者が共働でイベントなどを行い、駅を中心として周辺へにぎわいが形成されるゾーンとする。	西鉄の高架化に伴い、東側に幅員 25m の側道が整備される区間である。一つのテーマ性を持ち、イベントスペース、店舗等が立ち並ぶ中を楽しみながら歩くことのできる、にぎわいの顔のゾーンとする。	駅を中心として、下大利商店会や北側の 25m 道路へとにぎわいがつながるゾーンとする。	高架沿いに形成される歩行者専用道路を介して、御笠川、特別史跡水城跡へとつながるゾーンである。将来的な回遊の見どころとして、歩行者の安全性を確保する。

[3] 大野城市の概要

(1) 位置・地勢

本市は、福岡県の福岡都市圏に位置し、市域は、西に福岡市、春日市、那珂川町が接し、北に宇美町、東に太宰府市、南に筑紫野市が接しています。博多湾に注ぐ御笠川流域に含まれる平野を挟むように、北東部には三郡山系の大城山（四王寺山、410m）や乙金山（275m）、井野山（236m）があり、南部には背振山系の牛頸山（448m）、黒金山（396m）などの小連山が位置しています。

これらの山並みは、市街地の背景を構成し、市民の日々の生活に潤いを与えています。また、四王寺山には「四王寺県民の森」や「大野城総合公園（まどかパーク）」、牛頸山には「大野城いこいの森」等が整備されていることから市民の憩いの場、健康増進の場としても親しまれています。

山並みに挟まれた平野は市域の約50%を占め、戦前まではそのほとんどが農村地帯でした。西鉄天神大牟田線やJR鹿児島本線の開通の後、駅（西鉄春日原駅・西鉄下大利駅・西鉄白木原駅、JR大野城駅・JR水城駅）を中心に市街地が形成されています。現在も駅を中心に主要な都市機能が集積しています。

図：大野城市の位置

(2) 交通体系

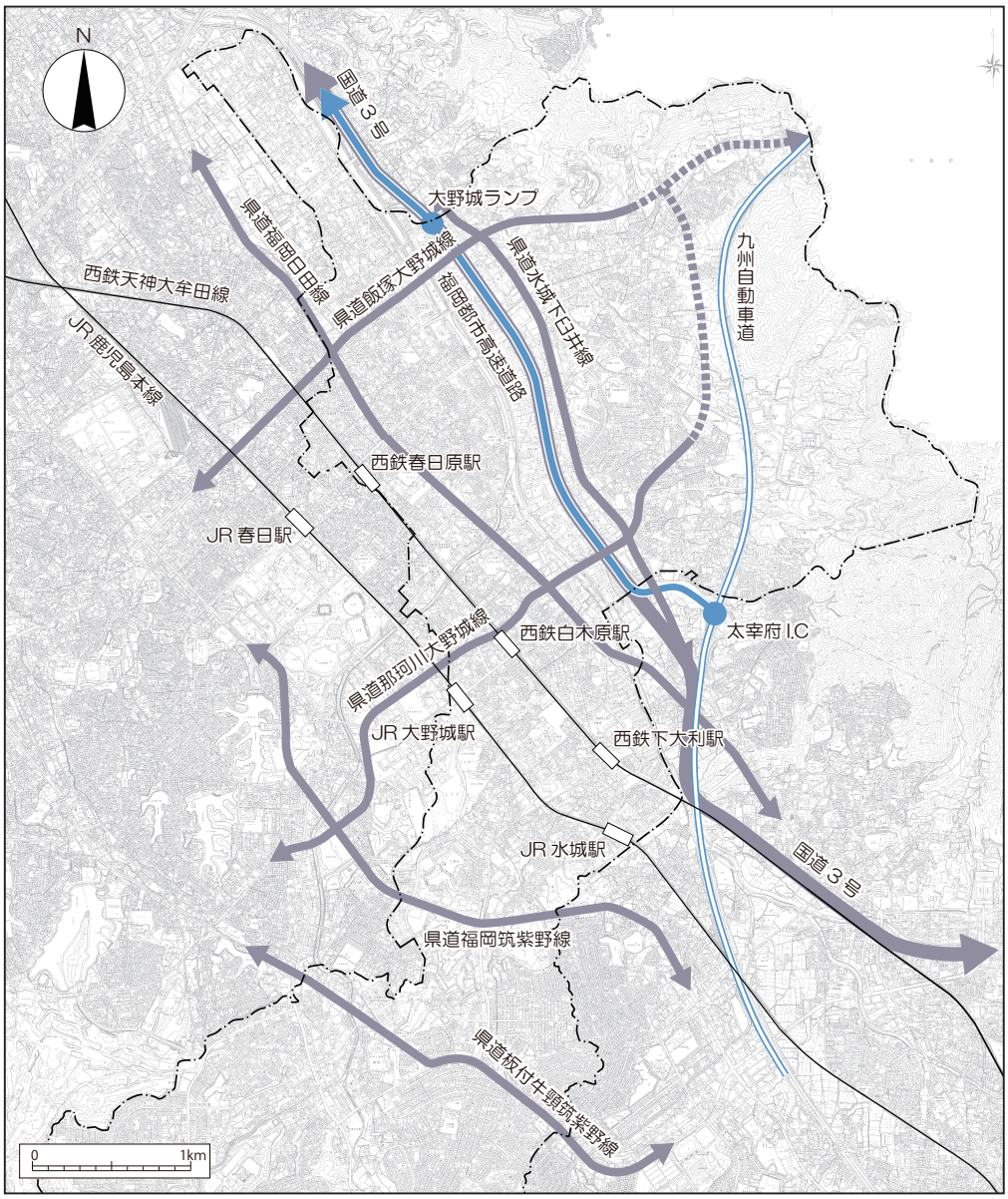
道路網は、国道3号、主要地方道福岡筑紫線、県道福岡日田線、県道水城下臼井線、県道板付・牛頸・筑紫野線、主要地方道福岡早良大野城線及び県道那珂川大野城線が通り、国道3号、主要地方道福岡筑紫線、県道福岡日田線、県道水城下臼井線、県道板付・牛頸・筑紫野線は福岡市と筑紫野市・太宰府市方面を結んでいます。主要地方道福岡早良大野城線、県道那珂川・大野城線は那珂川町と宇美町方面を結んでいます。

上記一般道に加えて、市内外を接続する広域的な交通網としては、福岡市から九州自動車道太宰府インターに接続する福岡都市高速道路が通っています。

市内の鉄道網としては、JR鹿児島本線と西鉄天神大牟田線の2本です。JR鹿児島本線は博多（福岡市）と本市、西鉄天神大牟田線は天神（福岡市）と本市を結ぶ主要な公共交通としての役割を担っています。

市内所在の駅は西鉄下大利駅・西鉄白木原駅、JR大野城駅・JR水城駅です。西鉄春日原駅は市外（春日市）に位置していますが、本市に隣接しています。

図：交通体系



(3) 歴史

本市の歴史は、旧石器時代後期にさかのぼります。

縄文・弥生時代を経て飛鳥時代に入り、日本が白村江（はくすきのえ）の戦いに敗れた後、大宰府を守るため天智4年に朝鮮式山城「大野城（おおののき）」が築かれたと『日本書紀』に記されています。「大野城（おおののき）」は日本最古の朝鮮式山城として知られ、その名が「大野城市」の由来となっています。大野城と同時期に水城も築かれています。現在、これらの遺跡は国指定特別史跡となっています。

博多湾が北に位置するこの地は、古くから大陸との交流があり、古代に大陸から伝来した技術を基に土器類を製造した窯跡群が残されています。大陸から伝わった稲作農耕の影響もあり、日本で最も早く農耕文化がひらけた地域です。江戸時代、雑餉隈町付近は博多と太宰府の間を人馬が行き交う間宿町としてにぎわいますが、全体としては農村としての長い歴史を有するところです。

明治22年に11の村（牛頸村、上大利村、下大利村、白木原村、瓦田村、筒井村、山田村、仲島村、畑詰村、中村、乙金村と那珂郡井相田村の一部（雑餉隈））が合併して大野村が誕生しました。明治初期の大野村の職業別戸数は農業が7割を超えており、主要産業が農業だったことを物語っています。

戦中には軍事産業の一大拠点となり、戦後は福岡市近郊の住宅都市として成長しました。特に高度経済成長期以後、かつての農村地帯であった平地を中心に宅地開発が進展します。人口は急激に増加し、昭和25年に町制施行、昭和47年に市制施行に至っています。なお、明治22年に大野村が誕生して以来、行政の範囲は変わっておらず、現在の大野城市に受け継がれています。

(4) 地域資源

豊かな自然に恵まれ、歴史ある地に位置する本市には、自然、文化、歴史にまつわる様々な地域資源が存在します。

1) 自然系

本市は北東部に大城山（四王寺山）や乙金山、南部には脊振山系の牛頸山をはじめとする小連山が連なります。これらの山並みは、市街地の背景を構成し、市民の日々の生活に潤いを与えています。また、北東部の大城山（四王寺山）や南部の牛頸山の麓には総合公園やレクリエーション施設が立地しており、多くの市民の憩いの場、健康増進の場として活用されています。また、市街地の各所にも、市民に身近な公園が点在しており、生活の中で気軽に自然と触れられる環境が整っています。

さらに、市内に水源を有する牛頸川、平野川、川久保川が博多湾に注ぐ御笠川に市内で合流します。これら河川等や三兼池・日の浦池をはじめとするため池の一部が親水空間として整備され、市民の憩いの場として親しまれています。牛頸川の上流には、河川沿いに農地が広がり、かつて農村地帯であった本市の風景をしのばせています。上記の他、市内には、古くから市民に親しまれてきた大野小学校のセンダンの木、薬師の杜、御笠の森といった貴重な自然が点在しています。これらは市指定天然記念物等として保全され、身近な緑として多くの人々に親しまれています。

四王寺山

牛頸山

三兼池公園

＜主な地域資源＞

●四王寺山

大野城市・太宰府市・糟屋郡宇美町にまたがる標高410mの山で大野城跡が位置しています。「日本100名城」、「美しい日本の歴史100選」に選ばれる等、多くの人に親しまれています。毎年9月下旬に開催され数万人でにぎわう「おおの山城大文字まつり」では、四王寺山で「大」の字が大きく点灯します。

●牛頸山

市内において最も海抜が高いのが牛頸山（447m）です。中腹にはアウトドアやレクリエーションを満

喫できる「大野城いこいの森」があります。ハイキングも気軽に楽しまれています。

御笠川

●三兼池公園

噴水や展望テラスがあり、市民の憩いの場として親しまれています。公園内には6～7世紀ごろの須恵器窯跡である「梅頭窯跡」（国指定史跡「牛頸須恵器窯跡」の一つ）も整備されており、窯跡の様子を見学できます。

●御笠川

筑紫野・太宰府両市の境にある宝満山に源を発する全長20.7キロメートルの川です。支流の牛頸川とともに、市民には最も身近な川として親しまれ、愛される川です。

牛頸川

●牛頸川

牛頸ダムから発し、御笠川に合流する川です。上流域は自然に恵まれており、夏の初めにはゲンジボタルの姿が見られ、多くの見物客が訪れます。

センダンの木

●センダンの木

大野城市瓦田三丁目800番地の大野小学校の校庭にそびえ立ち、地元の人々に親しまれる木です。平成6年3月18日に市の天然記念物に指定されました。

2）歴史系

本市は古くから御笠川や牛頸川などの水源に恵まれ、その周辺で人々の生活が営まれてきました。古墳時代には須恵器生産が盛んに行われ、牛頸山の麓では西日本最大規模の「牛頸須恵器窯跡」が発見され、6世紀半ばから9世紀半ばにかけて500基以上の窯が営まれたとされています。

「水城」は白村江の戦いの翌年の天智3年に築かれた人工の土塁です。白村江の戦い後、唐と新羅の攻撃から大宰府を防衛するために築かれ、その規模は長さ1.2km、幅80m、高さ10mを誇ります。

本市の名前の由来となっている「大野城」は天智4年に現在の四王寺山に築城されたわが国最古の朝鮮式山城です。水城と同様に大宰府防衛のために築かれました。総延長

約8kmの土塁や石塁の内側には食糧庫や武器庫など約70棟の建物が建てられたとされ、現在は礎石や石垣がその名残をとどめています。このように水城や大野城の築造により古代の大野城周辺は大宰府防衛の要所となりました。

中世には唐山城や不動城といった山城が築かれ軍事的性格を強め、近世には福岡藩の政策のもと農村としての性格を強めていきました。

現在では大野城跡、水城跡、牛頸須恵器窯跡等の多くの文化財が守り伝えられています。その他にも、市街地の中には太宰府往還や新川跡、宮添井堰の碑など、まちの成り立ちを今に伝える歴史的な資源が点在しており、市民をはじめ多くの人々に親しまれています。

大野城跡

＜主な地域資源＞

●大野城跡

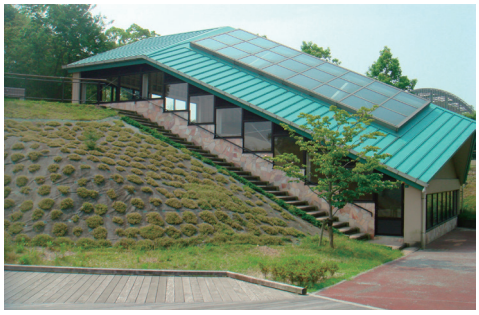
『日本書紀』にも記されている日本最古の山城であり、市名の由来にもなっています。天智4年、四王寺山（大野山）の地形を利用した朝鮮式山城として築かれました。巨大な山城で、土塁に囲まれる範囲は約200haに及びます。国指定特別史跡です。

水城跡

●水城跡

国指定特別史跡であり、『日本書紀』にも記されている巨大な古代防衛施設の遺跡です。

天智3年に築かれ、全体の長さは1.2ｋｍあります。高さ約10m、最大幅80mの土塁と幅60mの外濠が造られていました。水城跡について詳しく学ぶ事ができる公園や散策路の整備が進められています。


牛頸須恵器窯跡（梅頭窯跡）

●牛頸須恵器窯跡

上大利から牛頸、春日市、太宰府市にまたがる西日本最大規模の須恵器窯跡群です。

須恵器の生産と広域流通の実態を知ることができる重要な遺跡であることから、平成21年2月12日に国指定史跡に指定されました。

牛頸須恵器窯跡
（小田浦窯跡）

●御笠の森

御笠川や江戸時代の御笠郡の名前の由来となった森で、宅地化された中にありながら、昔の面影を残す貴重な樹林地です。周辺に広がる御笠の森遺跡からは古墳時代（約1500年前）から江戸時代のはじめ頃（約320年前）の遺構も多く発見されています。

御笠の森

●宮添井堰の碑

昔、御笠川の氾濫による被害を防ぐ井堰を修復するため、自ら人柱となった庄屋甚兵衛さんの伝説にまつわる記念碑です。

宮添井堰の碑

3）文化系

本市は、昭和25年頃まで農村の風景が広がっていたところです。市内は、近世の村等に由来する「畑詰・仲島・山田・筒井・中・乙金・瓦田・白木原・下大利・上大利・牛頸・雑餉隈」の大字に分けられ、その構成は現在の市街地にも受け継がれています。各地にはかつての農村集落としての名残を留める神社等も立地しています。

戦後、急速に宅地開発が進み、福岡都市圏のベッドタウンとしての市街地が整えられていく中で、昭和42年に新住民と旧住民の融和を目的とする「まどか運動」が提唱されました。以降、まどか運動を基盤としたスポーツ大会、4つのコミュニティの共働による「おおの山城大文字まつり」などが開催され、新しい文化として定着しています。

平野神社の緑

＜主な地域資源＞

●農村文化を今に伝える神社

市内各地の旧集落に点在する神社の中には、大樹が育つところもあり、その緑は鎮守の杜として周囲の住環境に潤いを与えています。また、神社の中には、地元住民の憩いの場や子ども達の遊び場として親しまれているところも見受けられます。

子ども達の遊び場となった下大利老松神社

●市民イベント

本市では、年間を通じて、祭り、スポーツイベント等、様々な市民イベントが開催されています。大文字公園をメイン会場として開催される「おおの山城大文字まつり」は、市内最大のまつりであり、毎年4万人以上の人出でにぎわいます。

まどかリンピック

（4月）大野城いこいの森ロードレース
（9月）まどかリンピック
（9月）おおの山城大文字まつり
（10月）MADOKAれくスポ祭
（10月）大野城いこいの森まつり
（11月）まどかフェスティバル

おおの山城大文字祭り

●文化施設

まどかぴあや各地のコミュニティセンター等の文化施設が充実する本市では、これら施設を活用した市民行事や生涯学習等が活発です。

まどかぴあの南側には、現在、心のふるさと館が建設中であり、市民の文化的な交流の場としての積極的な活用が期待されています。

心のふるさと館（平成３０年完成予定）

●歴史の散歩道やトレイル

歴史の散歩道は、大野城跡を歩きながら、歴史を学び自然を体験し、健康を得ることができる登山道です。随所に素晴らしい眺めが望めるスポットがあり、季節ごとに植物の彩りを楽しむこともできます。

歴史の散歩道

トレイルは、「大野城固有の自然・文化・歴史を介して、人々が笑顔で触れ合う交流軸の形成」をコンセプトに、整備している「ふるさと大野城を巡る自然と歴史の散歩道」です。ルート沿いには、案内サインや解説サインを設置し、生涯学習・教育・健康増進・観光交流などの多方面での活用が期待されています。

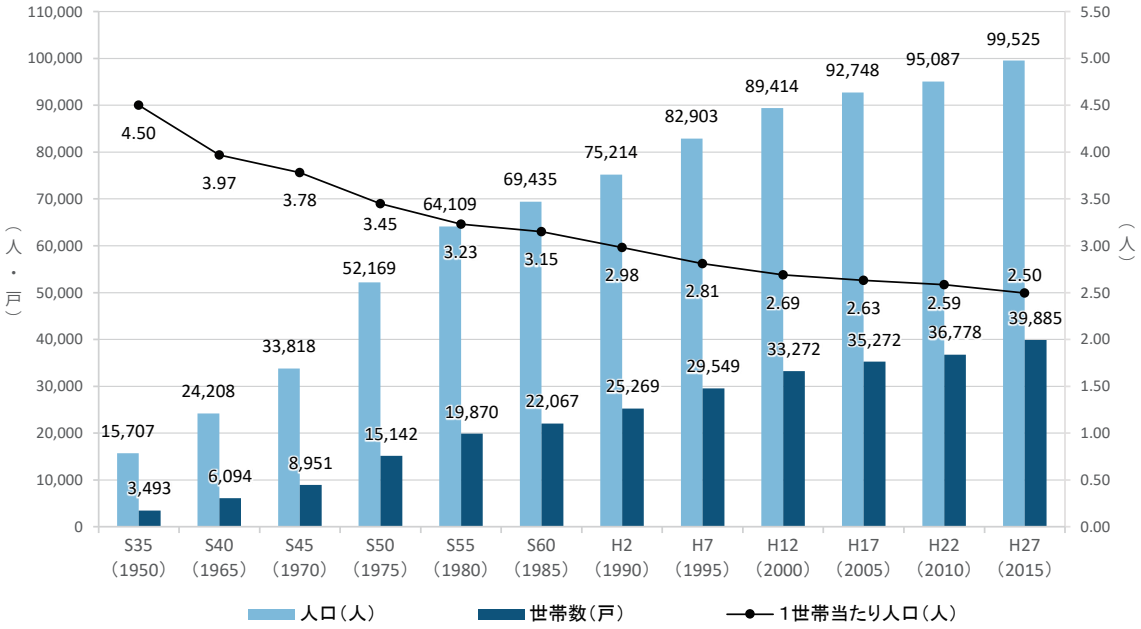
(5) 人口の状況

1) 人口・世帯

本市の人口と世帯数の推移を国勢調査からみると、昭和35年から平成27年まで増加傾向を維持しています。

一世帯当たりの人員数は減少傾向が続いており、一世帯の少人数化が進んでいます。

図：人口・世帯数

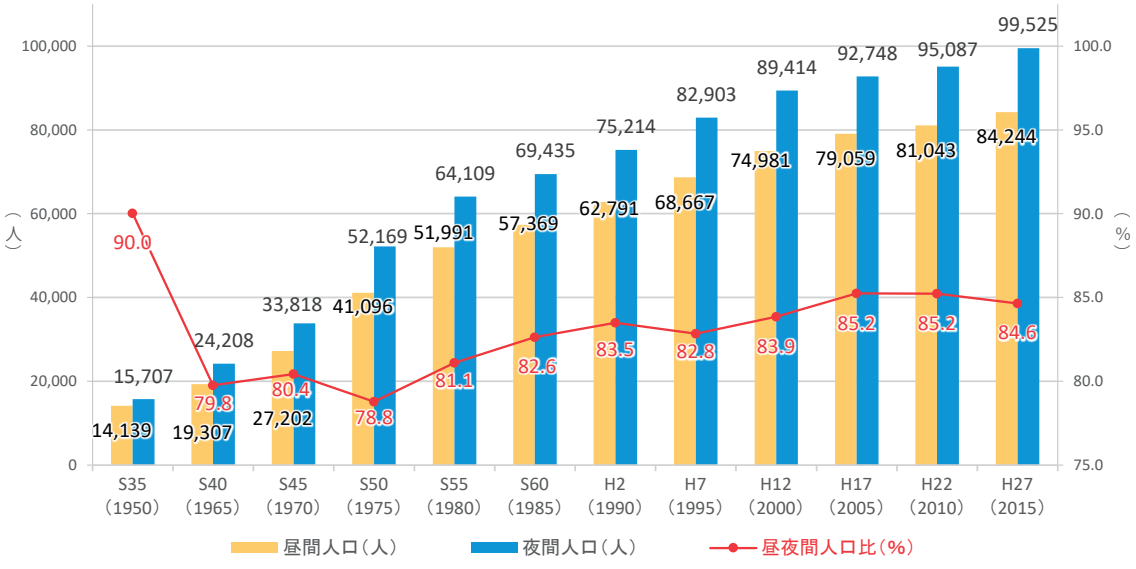


（資料：国勢調査）

2) 昼夜間人口

昼夜間人口比率の推移をみると、昭和30年～昭和40年に落ち込みますが、昭和40年以降は昼間人口の増加傾向が続いています。

図：昼夜間人口



（資料：国勢調査）

3) 人口集中地区

本市の人口集中地区は、昭和40年の国勢調査の時に設定され、以後拡大しています。

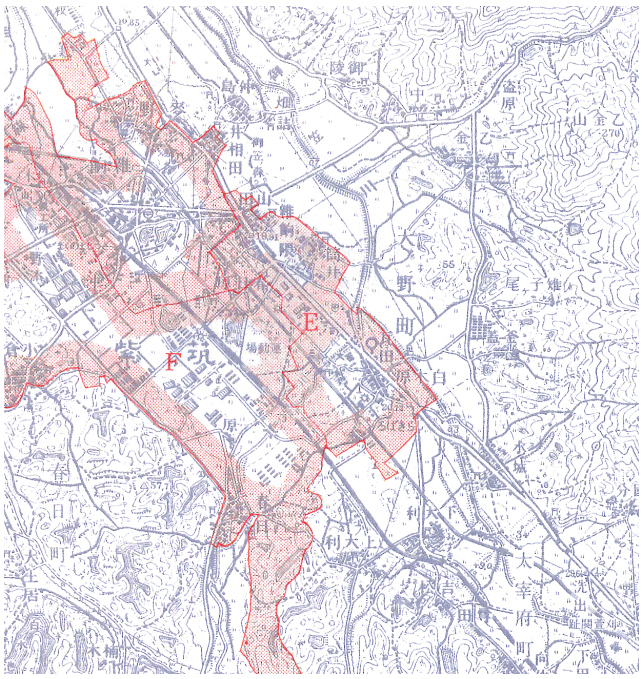
なお、人口集中地区とは、国勢調査において設定される統計上の地区です。人口密度が4,000人/㎢以上の基本単位区（平成2年（1990年）以前は調査区）が隣接して人口が5,000人以上となる地区です。

●昭和 40 年

本市にはじめて人口集中地区が設定されました。

当時の人口集中地区は、概ね筒井、瓦田、白木原にかけての範囲に限られています。

［昭和４０（1965）年］

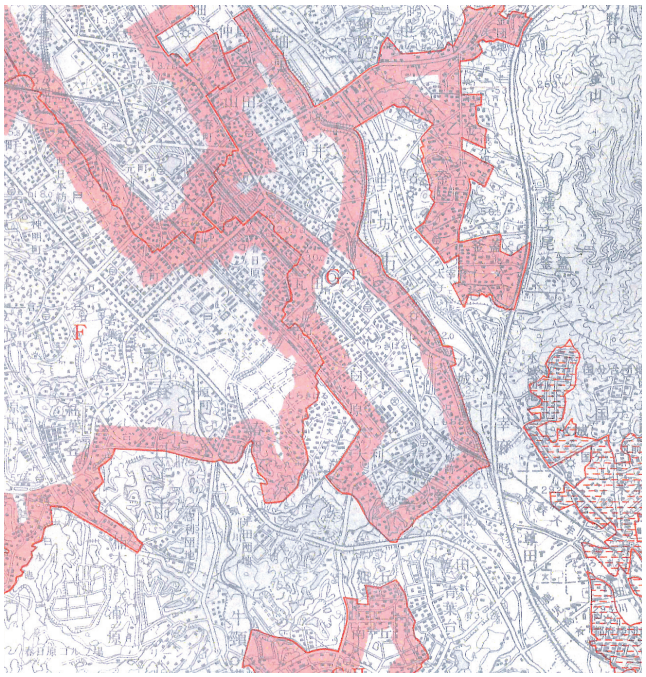


●昭和 55 年

人口集中地区は、太宰府市との市境をなす水城跡まで拡大し、丘陵部でも乙金や乙金台まで拡大しています。

南ヶ丘にも飛び地で人口集中地区が設定されています。住宅開発の進展を物語っています。

［昭和５５（1980）年］



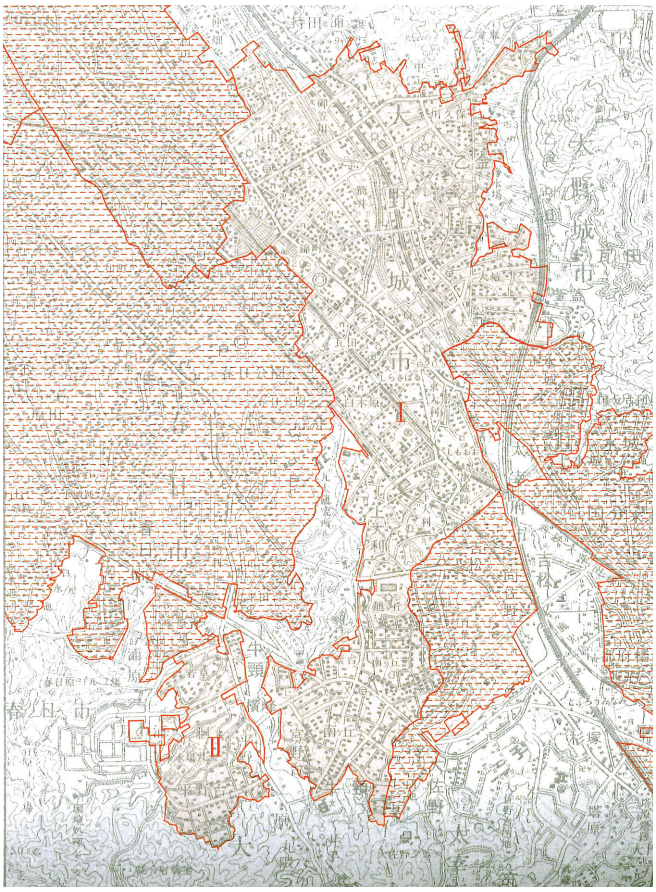
（資料：国勢調査）

●平成 7 年

人口集中地区は、御笠川流域まで拡大しています。この頃には太宰府市側の人口集中地区と一体となっており、連続した住宅市街地の形成を物語っています。

さらに、南側では、若草、牛頸あたりまで人口集中地区が拡大しています。

［平成7（1995）年］

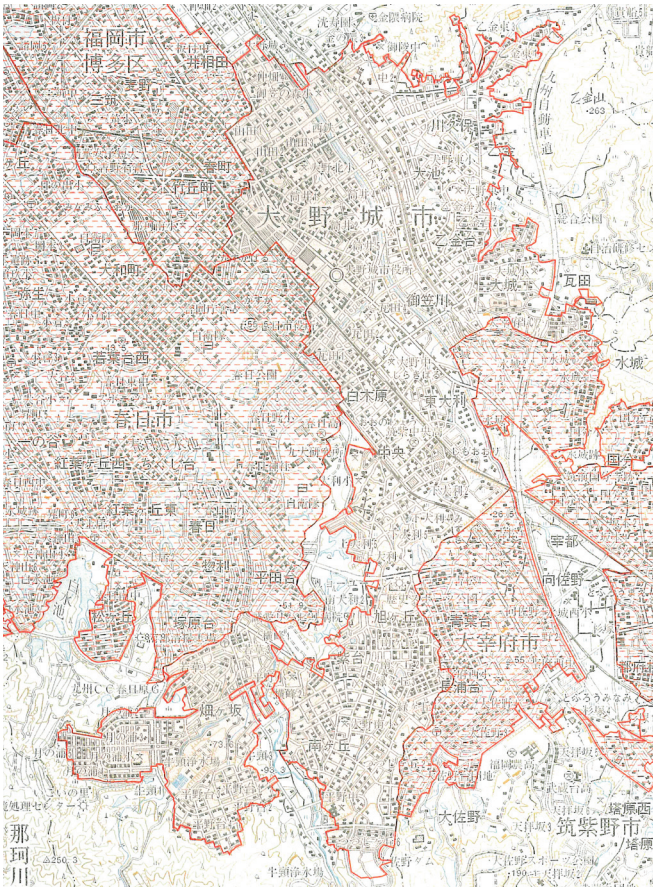


●平成 22 年

新たに人口集中地区に含まれた範囲としては、月の浦、つつじヶ丘が挙げられます。

この頃になると、人口集中地区の拡大は全体的には落ち着いてきたようです。

［平成２２（2010）年］



（資料：国勢調査）

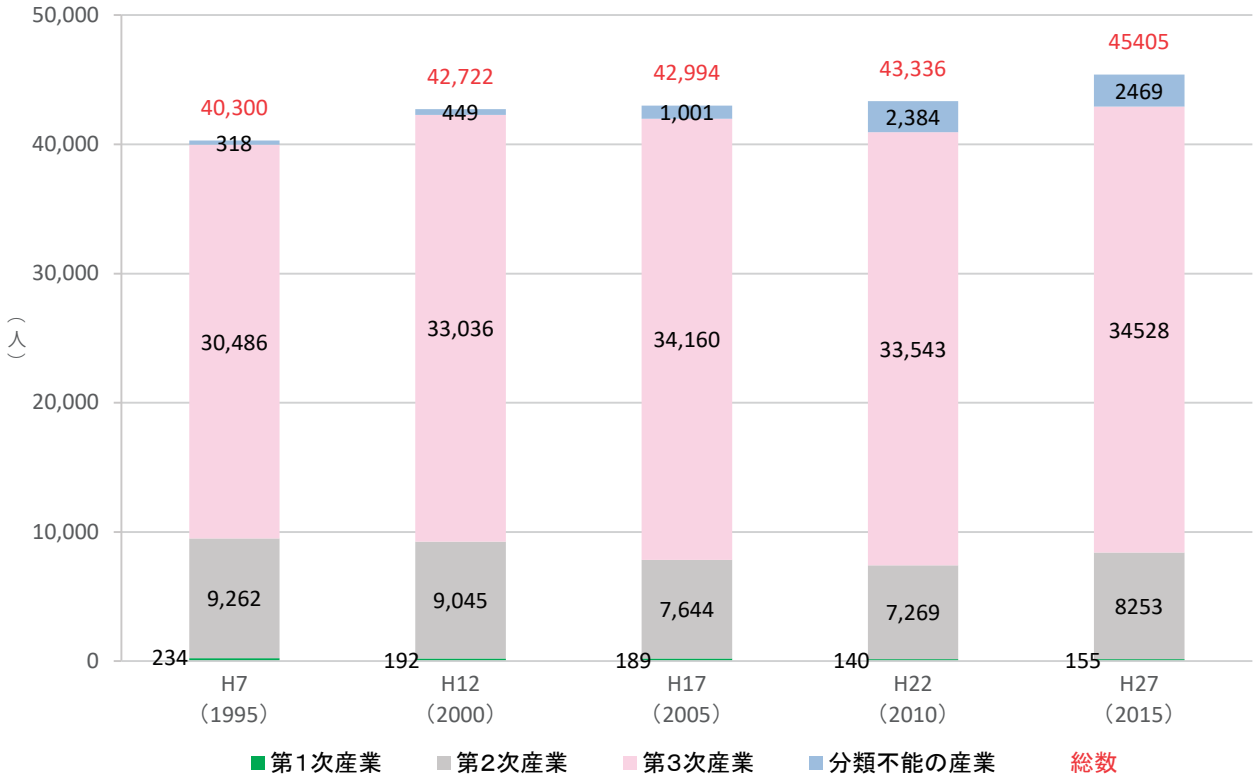
(6) 産業構造

1) 就業人口（15歳以上産業別就業者数）

市内の就業人口（15歳以上産業別就業者数）の総数は、過去20年、増加傾向を維持しています。

就業人口の構成を推移でみると、第1次産業と第2次産業は減少し、第3次産業が増加傾向を維持しています。

図：就業人口（15 歳以上産業別就業者数）



（資料：国勢調査）

表：就業人口（15 歳以上産業別就業者数）の構成比

	H7（1995）	H12（2000）	H17（2005）	H22（2010）	H27（2015）
第1次産業	0.6%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%
第2次産業	23.0%	21.2%	17.8%	16.8%	18.2%
第3次産業	75.6%	77.3%	79.5%	77.4%	76.0%
分類不能の産業	0.8%	1.1%	2.3%	5.5%	5.4%

（資料：国勢調査）

第1次産業…農業・林業、漁業
第2次産業…鉱業・採石業・砂利採取業、建設業、製造業
第3次産業…電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業・運輸業・郵便業、卸売業・小売業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業，娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除く）

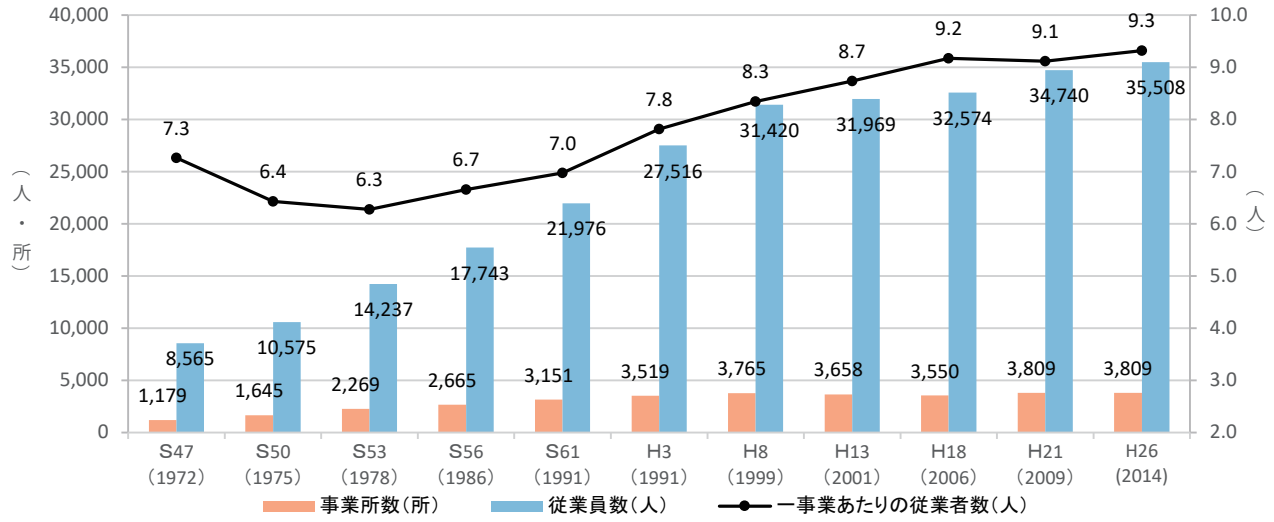
2）事業所・従業者数

市内の従業者数は、昭和47年以降、概ね増加傾向を維持しています。

市内の事業所数は、平成3年以降、概ね横ばい状態です。

一事業あたりの従業者数は、昭和56年に増加に転じ、その後、増加傾向を維持しています。

図：事業所・従業者数（※公営事業所含む）



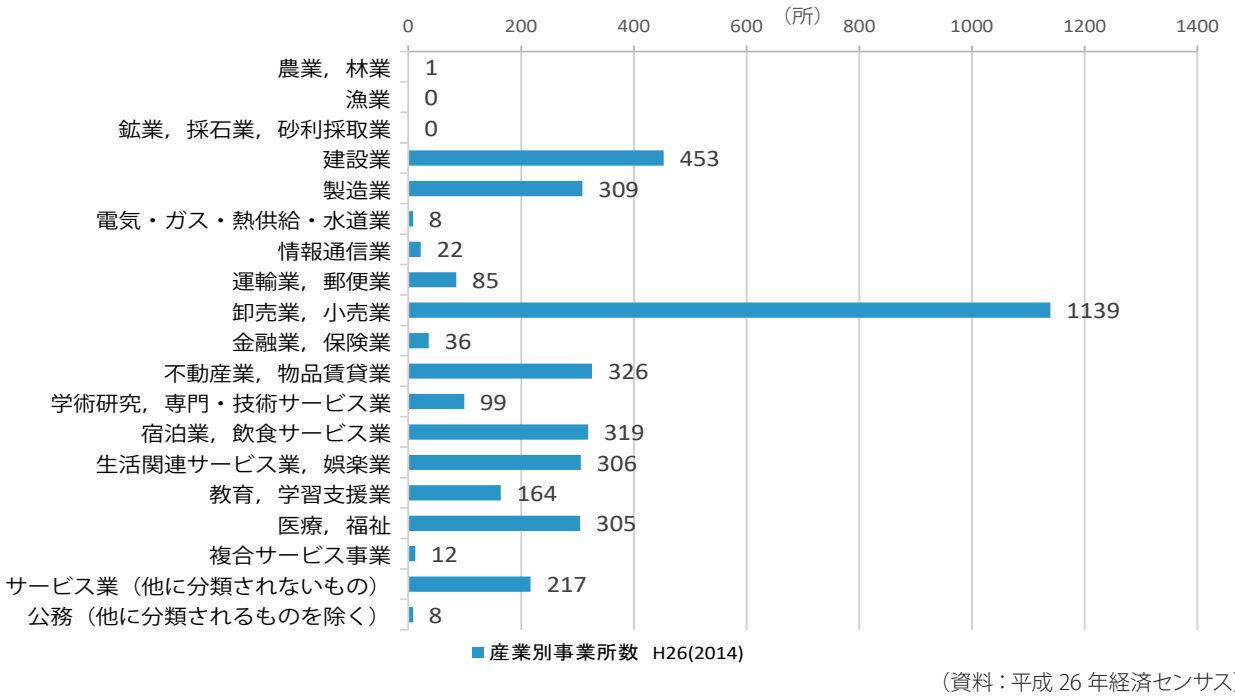
（資料：大野城市作成／H18 まで事業所・企業統計調査、H21 以降経済センサス）

3）業種別の事業所（大分類）

平成26年における業種別の事業所数をみると、最も多いのは「卸売業、小売業」であり、突出しています。

以下、「建設業」、「不動産業、物品賃貸業」、「宿泊業、飲食サービス業」と続きます。

図：業種別の事業所数



（資料：平成 26 年経済センサス）

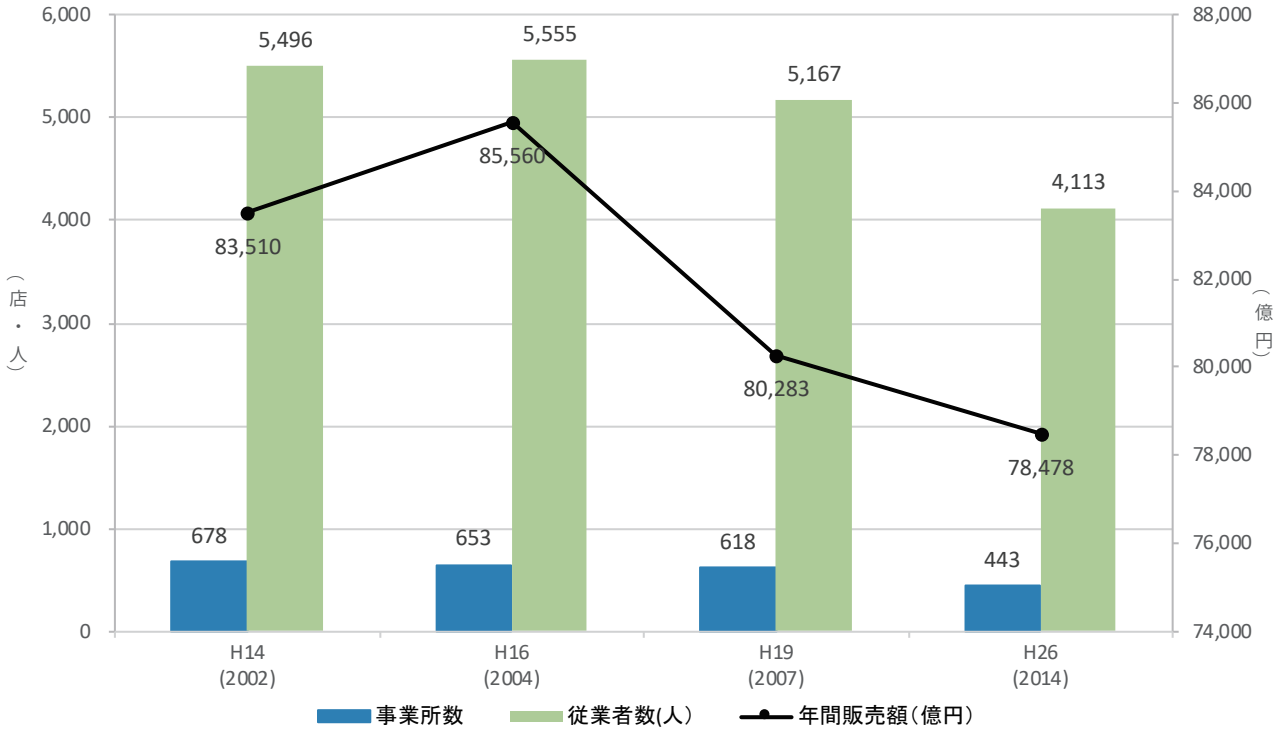
(7) 商業の状況（小売業）

1) 事業所数・従業者数・年間販売額の推移

市内で小売業を営む事業所数は、減少傾向が続き、平成26年のデータで計600店を割り込み、大きく減少しています。

従業者数と年間小売販売額は、平成16年をピークに下落傾向が続いています。

図：事業所数・従業者数・年間販売額の推移



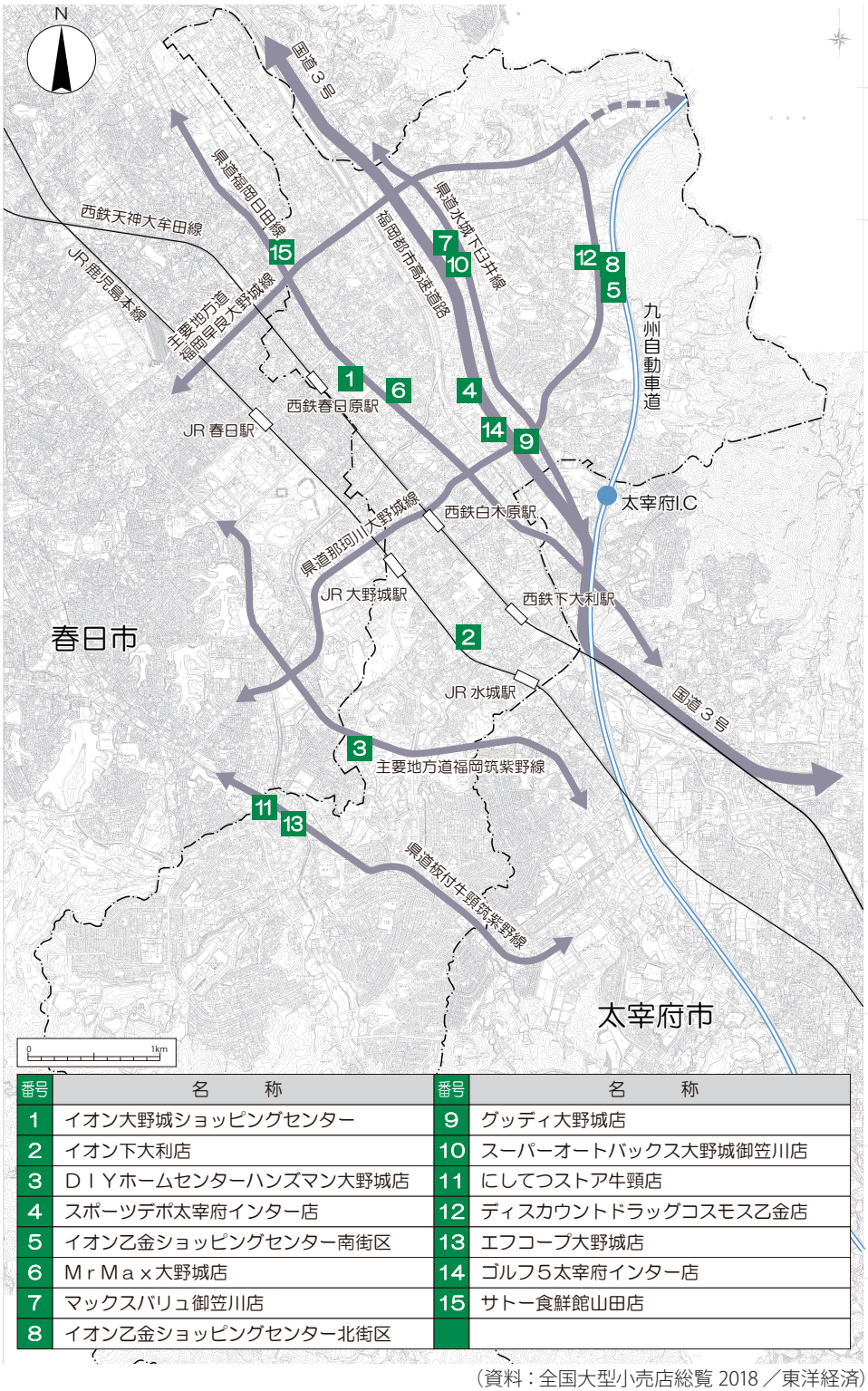
（資料：商業統計／経済産業省）

2）大規模小売店舗の立地状況

大規模小売店舗は、国道3号沿道、県道板付・牛頸・筑紫野線、そして県道福岡日田線をはじめとした広域幹線道路沿いを中心に立地が行われています。

市内の中心部に立地する大規模小売店舗としては、西鉄春日原駅に近いイオン大野城ショッピングセンターとMrMax大野城店、そして西鉄下大利駅やJR水城駅に近いイオン下大利店が挙げられます。

図：大規模小売店舗（1000㎡以上）の立地



番号	名　　称	番号	名　　称
1	イオン大野城ショッピングセンター	9	グッディ大野城店
2	イオン下大利店	10	スーパーオートバックス大野城御笠川店
3	ＤＩＹホームセンターハンズマン大野城店	11	にしてつストア牛頸店
4	スポーツデポ太宰府インター店	12	ディスカウントドラッグコスモス乙金店
5	イオン乙金ショッピングセンター南街区	13	エフコープ大野城店
6	ＭｒＭａｘ大野城店	14	ゴルフ５太宰府インター店
7	マックスバリュ御笠川店	15	サトー食鮮館山田店
8	イオン乙金ショッピングセンター北街区		

（資料：全国大型小売店総覧 2018 ／東洋経済）

表：大規模小売店舗（1000㎡以上）の概要

番号	名称	業態	取扱品	立地	開設	店舗面積（㎡）	開店（時）	閉店（時）	駐車場（台）	駐輪場（台）
1	イオン大野城ショッピングセンター	ショッピングセンター	総合	駅前・駅近辺型	S52（1977）	22,962	9	22	2,000	690
2	イオン下大利店	総合スーパー	食料品、衣料品	駅前・駅近辺型	S62（1987）	10,789	8	22	315	—
3	DIY ホームセンターハンズマン大野城店	ホームセンター	DIY 関連用品、家庭用品	幹線道路沿型	H17（2005）	9,000	7	22	668	120
4	スポーツデポ太宰府インター店	専門店	スポーツ用品、衣料品	幹線道路沿型	H9（1997）	4,966	10	21	201	18
5	MrMax大野城店	総合スーパー	総合	幹線道路沿型	H2（1990）	3,725	10	21	120	—
6	イオン乙金ショッピングセンター南街区	ショッピングセンター	総合	その他	H 29（2017）	4,073	9	22	224	74
7	マックスバリュ御笠川店	食品スーパー	食料品、家庭用品、医薬品・化粧品	幹線道路沿型	H17（2005）	3,451	24 時間営業		178	95
8	イオン乙金ショッピングセンター北街区	ショッピングセンター	総合	その他	H 29（2017）	3,120	10	21	208	18
9	グッデイ大野城店	ホームセンター	DIY 関連用品、家庭用品	幹線道路沿型	S53（1978）	2,803	8	19	139	16
10	スーパーオートバックス大野城御笠川店	専門店	自動車用品	幹線道路沿型	H20（2008）	2,192	10	19:30	116	45
11	にしてつストア牛頸店	食品スーパー	食料品、家庭用品	幹線道路沿型	S61（1986）	2,165	9:30	22	200	—
12	ディスカウントドラッグコスモス乙金店	専門店	医薬品、化粧品、家庭用品	住宅地域型	H 28（2016）	1,713	10	21	68	18
13	エフコープ大野城店	食品スーパー	食料品、家庭用品	幹線道路沿型	H9（1997）	1,663	10	20	170	—
14	ゴルフ５太宰府インター店	専門店	ゴルフ用品、衣料品	その他	H20（2008）	1,533	10	20	60	20
15	サトー食鮮館山田店	食品スーパー	食料品	住宅地域型	H10（1998）	1,515	10	21	—	—

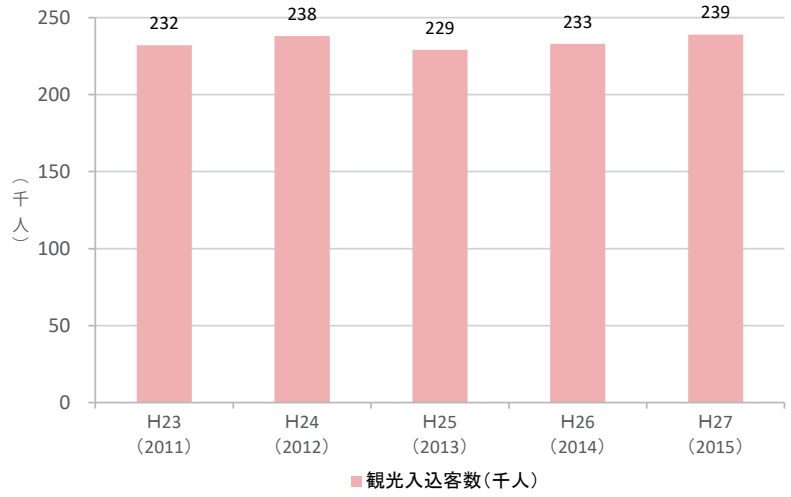
（資料：全国大型小売店総覧 2018 ／東洋経済）

(8) 観光

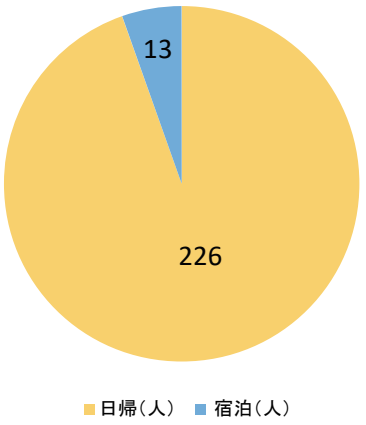
観光入込客数は、概ね横ばいで推移しています。

平成27年の観光入込客数の内訳を滞在別にみると、本市の観光客は日帰客が約9割を占めています。また、目的別にみると、祭・行事が突出して多く、一般行楽とキャンプが続いています。

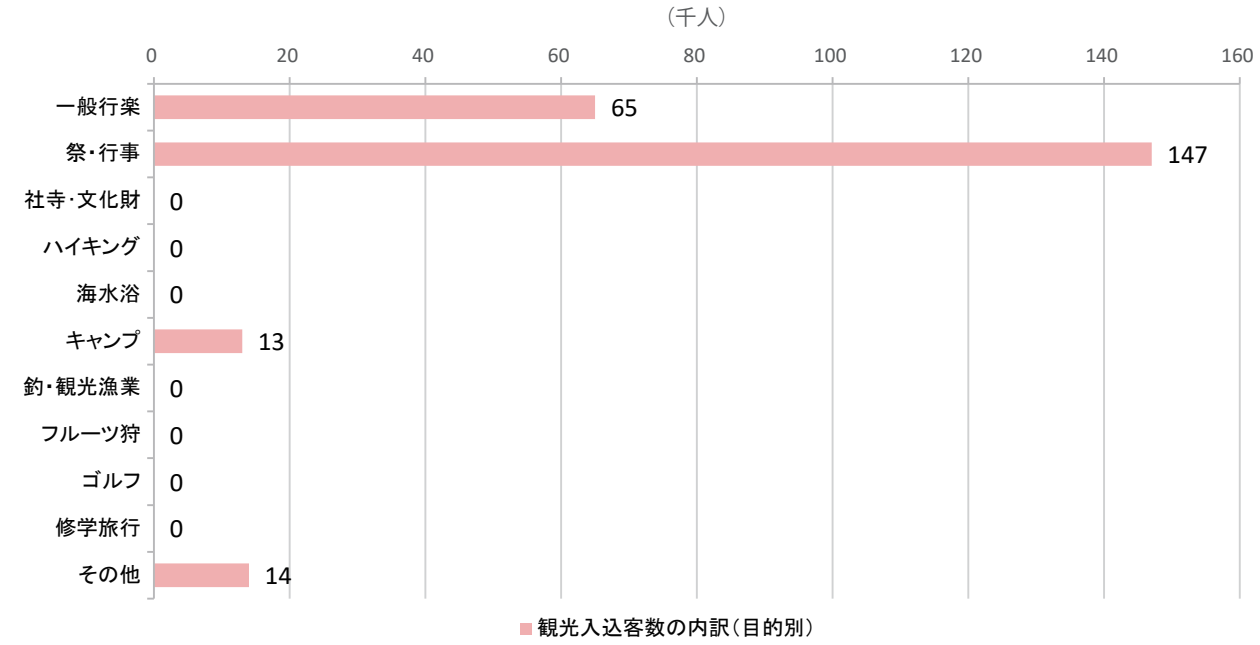
図：観光入込客数の推移



図：平成 27 年の観光入込客の内訳（滞在別）



図：観光入込客数の内訳（目的別）

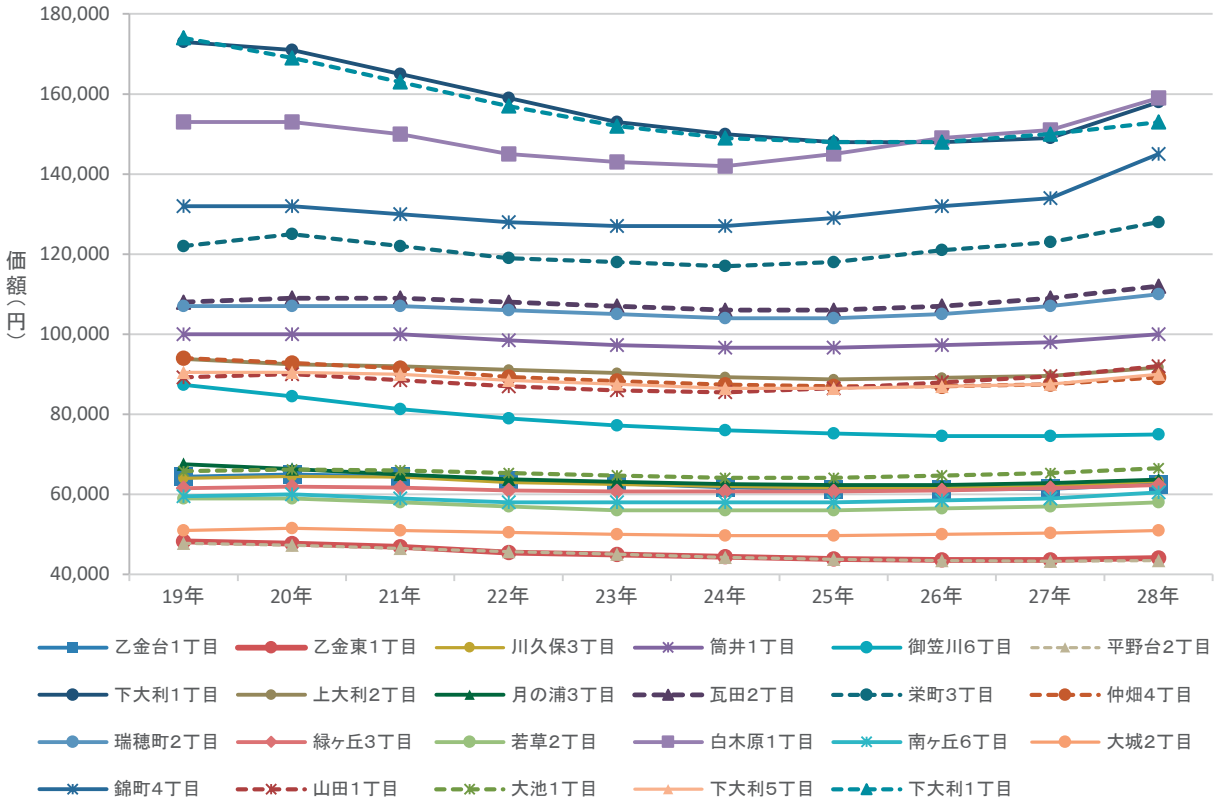


（資料：福岡県観光入込推計調査）

(9) 地価

市内の地価は、全市的に緩やかな下落傾向でしたが、近年を見ると、横ばい、あるいは緩やかな上昇傾向も見られます。中心市街地では、特に白木原1丁目、錦町4丁目が上昇しています。

図：基準地・標準地の土地の価額の推移

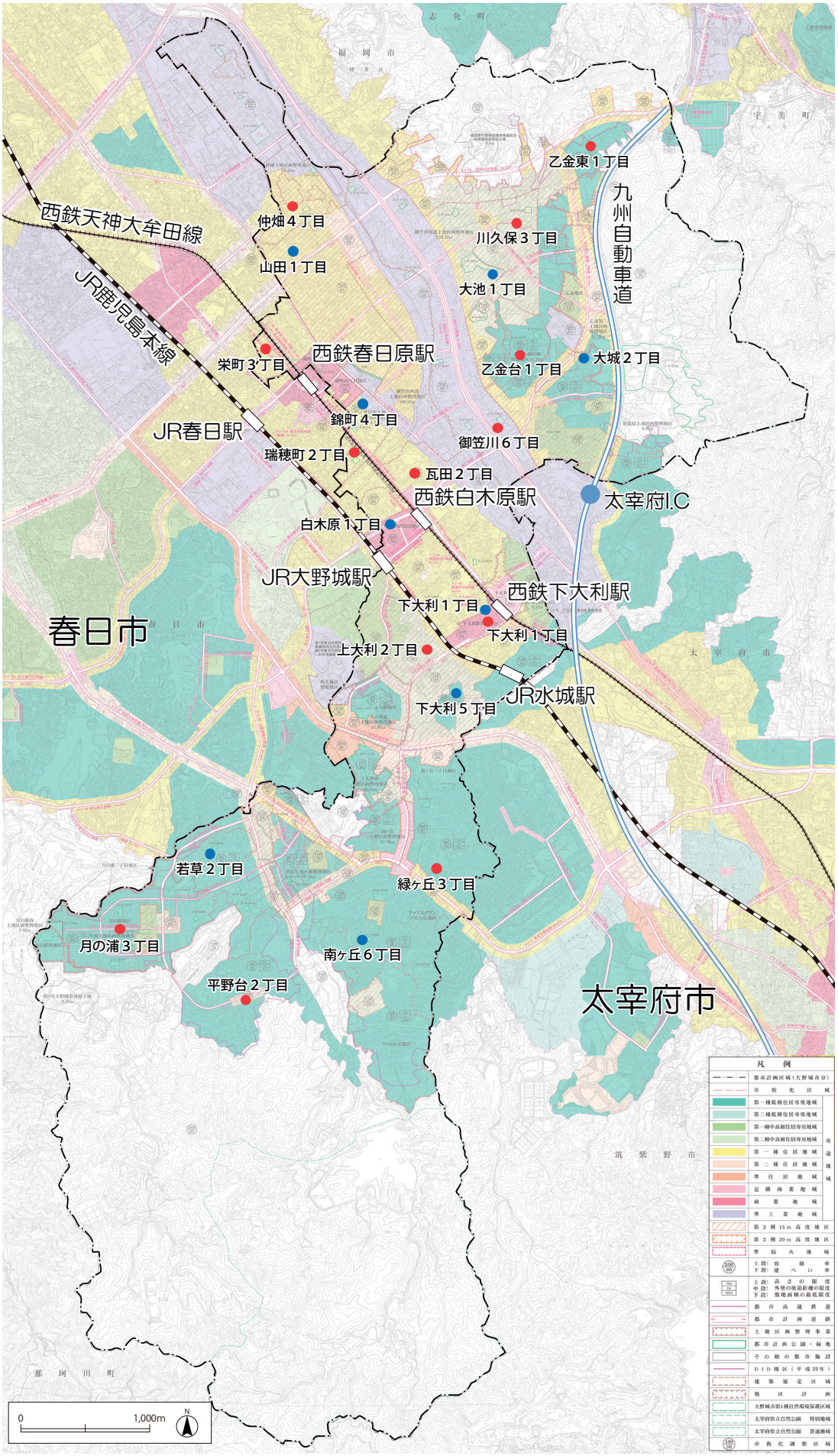


表：基準地・標準地の土地の価額　単位：円／㎡（基準地：各年７月１日・標準地：各年１月１日）

	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
乙金台１丁目	64,400	65,000	64,500	63,500	62,700	61,800	61,200	61,200	61,400	62,600
乙金東１丁目	48,300	47,700	46,900	45,500	45,000	44,400	43,900	43,600	43,600	44,100
川久保３丁目	64,000	64,500	64,300	63,000	62,500	62,000	61,600	61,600	62,000	63,300
筒井１丁目	100,000	100,000	100,000	98,500	97,300	96,600	96,600	97,300	98,000	100,000
御笠川６丁目	87,400	84,500	81,300	79,000	77,200	76,000	75,200	74,600	74,600	75,000
平野台２丁目	47,800	47,300	46,500	45,700	45,100	44,300	43,800	43,500	43,300	43,500
下大利１丁目	173,000	171,000	165,000	159,000	153,000	150,000	148,000	148,000	149,000	158,000
上大利２丁目	93,800	92,500	92,000	91,100	90,300	89,300	88,700	89,100	89,600	91,700
月の浦３丁目	67,500	66,300	65,000	63,800	63,100	62,600	62,300	62,300	628,00	63,700
瓦田２丁目	108,000	109,000	109,000	108,000	107,000	106,000	106,000	107,000	109,000	112,000
栄町３丁目	122,000	125,000	122,000	119,000	118,000	117,000	118,000	121,000	123,000	128,000
仲畑４丁目	94,000	92,800	91,500	89,300	88,300	87,400	87,000	87,000	87,500	89,200
瑞穂町２丁目	107,000	107,000	107,000	106,000	105,000	104,000	104,000	105,000	107,000	110,000
緑ヶ丘３丁目	61,500	61,900	61,700	61,000	60,700	60,700	60,700	61,000	61,500	62,300
若草２丁目	59,000	59,000	58,000	57,000	56,000	56,000	56,000	56,500	57,000	58,000
白木原１丁目	153,000	153,000	150,000	145,000	143,000	142,000	145,000	149,000	151,000	159,000
南ヶ丘６丁目	59,500	60,000	59,000	58,000	58,000	58,000	58,000	58,500	59,000	60,500
大城２丁目	51,000	51,500	51,000	50,500	50,000	49,700	49,700	50,000	50,300	51,000
錦町４丁目	132,000	132,000	130,000	128,000	127,000	127,000	129,000	132,000	134,000	145,000
山田１丁目	89,200	90,000	88,500	87,000	86,000	85,500	86,500	88,000	89,500	92,000
大池１丁目	65,800	66,200	66,000	65,300	64,700	64,100	64,100	64,700	65,300	66,500
下大利５丁目	90,500	90,500	90,000	88,500	87,500	86,500	86,500	87,000	87,500	90,000
下大利１丁目	174,000	169,000	163,000	157,000	152,000	149,000	148,000	148,000	150,000	153,000

（資料：大野城市資料）

図：地価の基準地・標準地の位置



[4] 中心市街地の成り立ち

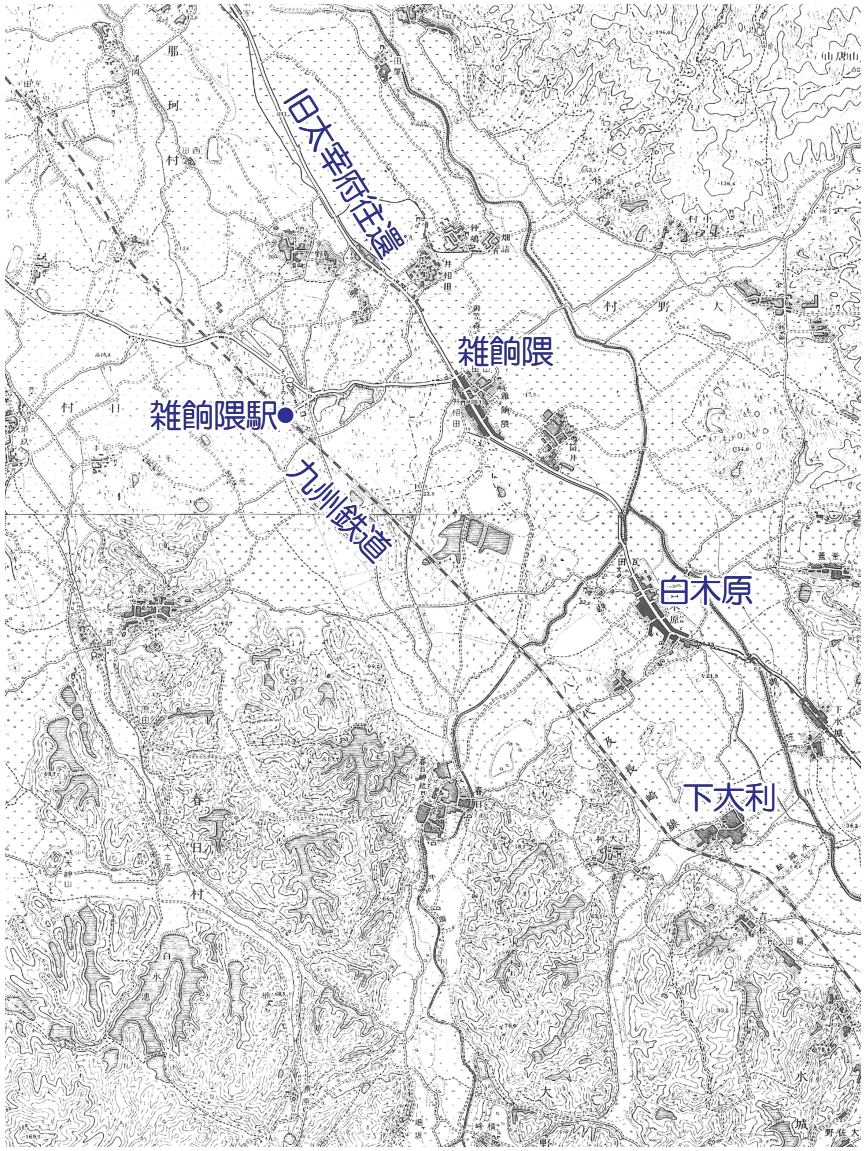
本市の中心市街地の成り立ちは、近代以降の鉄道開発に端を発し、高度経済成長期の急激な人口増加に伴い、市街地環境と商業の集積が整えられました。

(1) 明治時代

中心市街地が位置する場所は、かつて農村地帯だったところです。国土地理院が作成した明治33年の旧版地図を見ると、旧太宰府往還沿いに雑餉隈、白木原、下大利等の集落が散見されるのみで、広範囲が農村地帯であったことがわかります。この頃の商工業は旧太宰府往還沿いに集積していました。

鉄道は、明治22年に開通した国有化前の「九州鉄道」の八代及長崎線です。駅は現在の南福岡駅の位置に雑餉隈駅が置かれるのみで、その駅前も未発達な状況です。

［明治３３年］



（資料：国土地理院旧版地図）

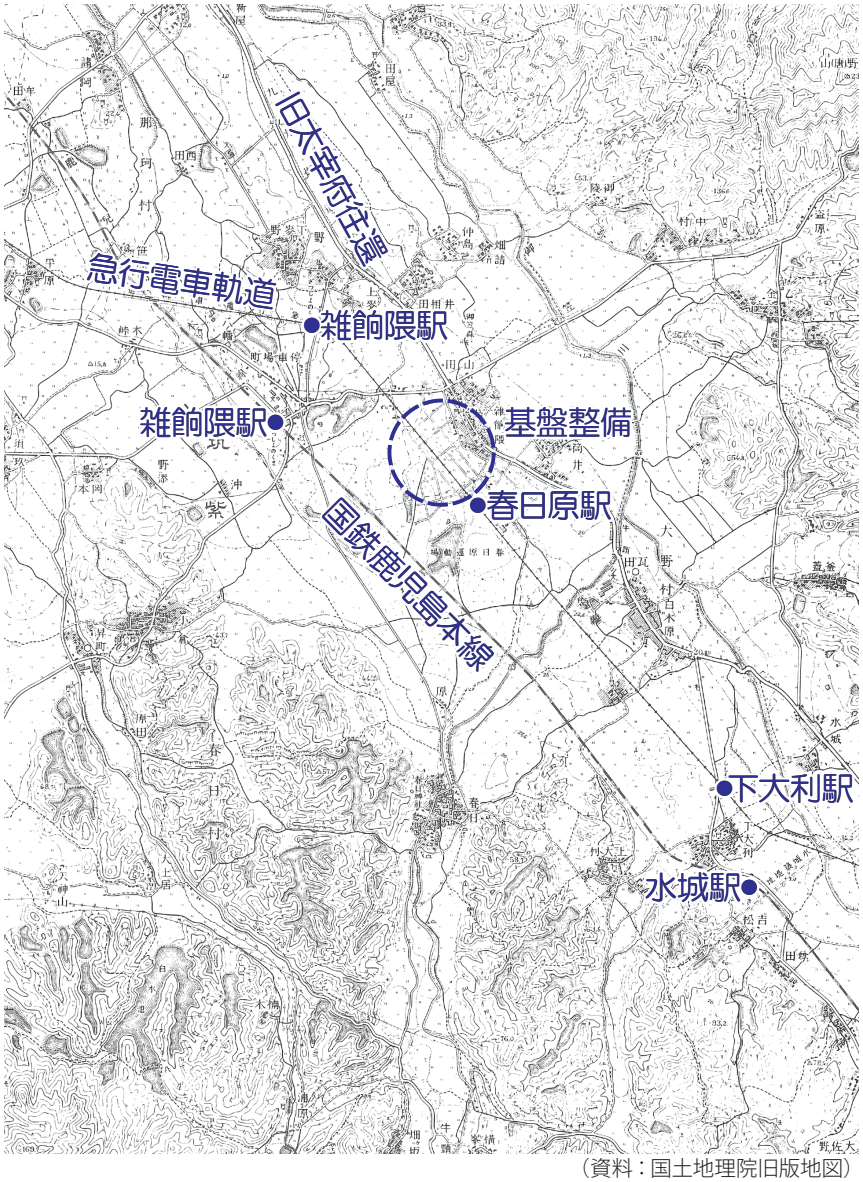
⑵ 大正時代

農村地帯において、大きな転機となったのは、大正13年における九州鉄道の急行電車軌道（現：西日本鉄道天神大牟田線）の開通です。

大正15年の旧版地図をみると、この電車軌道の開設の後、春日原駅の北側一帯に宅地開発に向けた基盤整備のはじまりの様子がうかがえます。

また、電車軌道に下大利駅、春日原駅、国鉄に水城駅が新たに設置されたことがわかります。

［大正15年］



（資料：国土地理院旧版地図）

(3) 昭和初期

昭和初期から雑餉隈駅周辺に工場等が進出し、戦中末期には一大軍事工場地帯が出現しました。

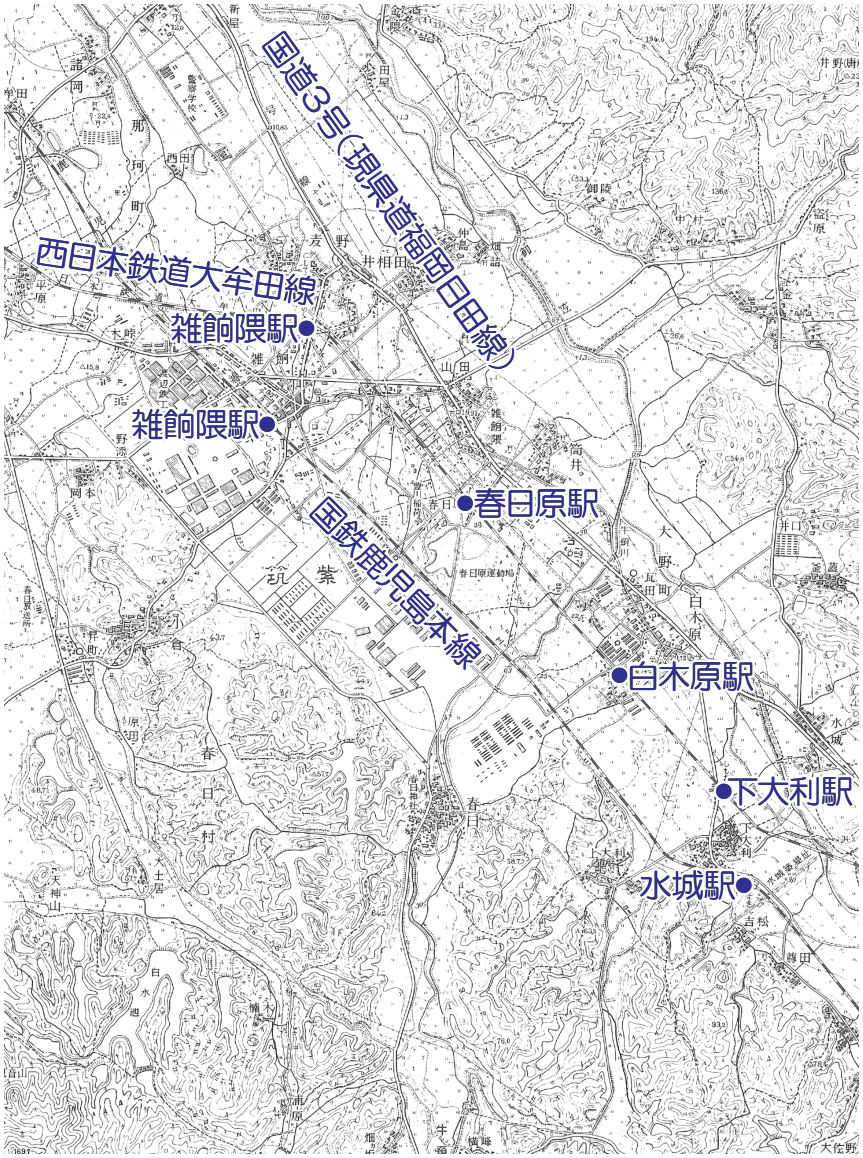
戦後になると、軍事工場の跡地は、国鉄車両基地や自衛隊基地等に分割され、春日原から白木原地区一帯には米軍の貸家群も出現しています。（※米軍基地の大半は昭和47年に返還され、貸家群は解体されました。）

昭和25年（修）の旧版地図から当時の様子をうかがうと、大きな工場群は国鉄鹿児島本線の西側に置かれていました。

他方、昭和7年に開通した国道3号（現：県道福岡日田線）と西日本鉄道大牟田線に挟まれた範囲に新たな宅地開発の進展がうかがえます。

また、西日本鉄道大牟田線には白木原駅が新設されており、人々のニーズに対して、駅が増設された様子がうかがえます。

［昭和２５年］



（資料：国土地理院旧版地図）

(4) 高度経済成長期

戦後の福岡市の発展に伴い、住宅開発の波が押し寄せています。

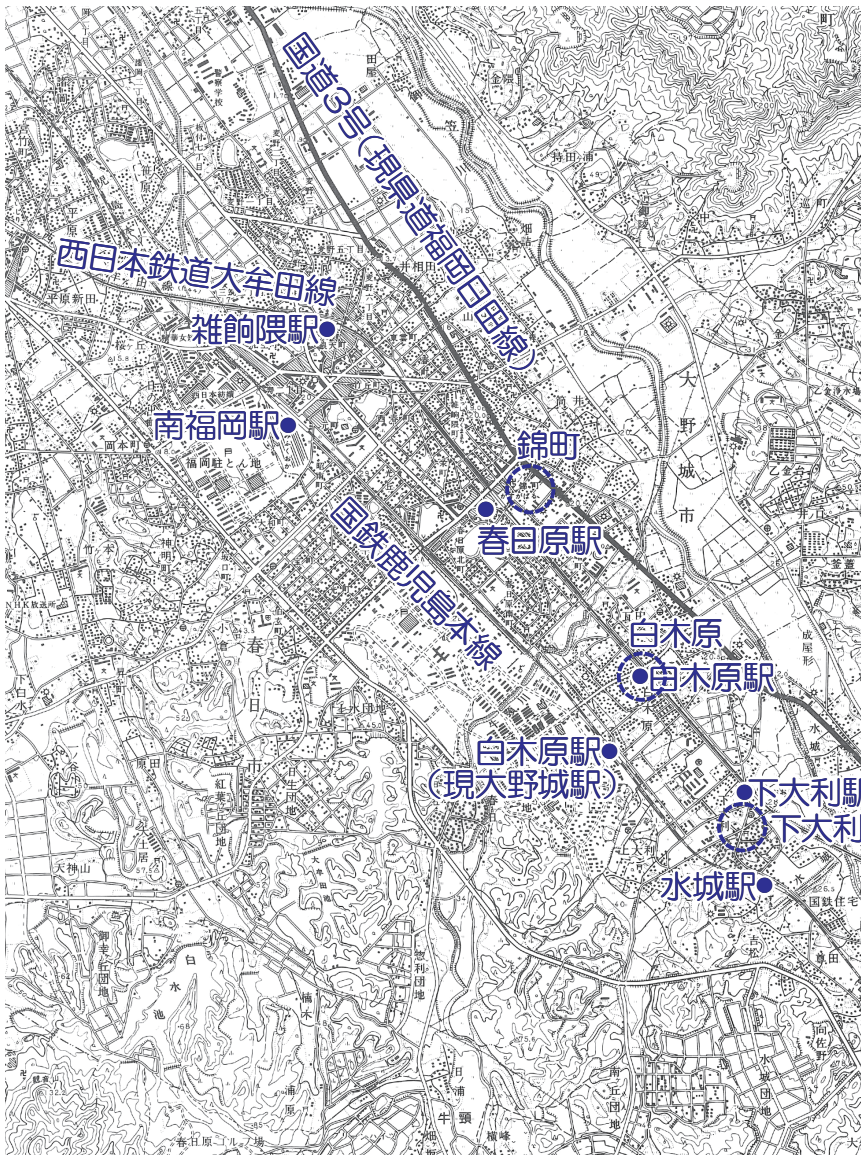
急激な人口の増加に伴い、必然的に生活用品、食料品などの個人商店が増加し、市内各所にスーパーが出店するとともに、人口が集中する錦町、白木原、下大利に商店街が自然自発的に誕生しています。

昭和44年（改測）47年（修）の旧版地図をみると、工場跡地等は住宅地として分譲され、国鉄鹿児島本線と西日本鉄道大牟田線の間も宅地化が進展している様子がわかります。国鉄鹿児島本線には白木原駅（現：大野城駅）も新設されています。

かつては農地に囲まれていた雑餉隈、白木原、下大利等の農村集落ですが、宅地化の進展に伴い新たな市街地の一部となっています。

本市では、人口が急激に増加した高度経済成長期に市街地の基盤が整えられるとともに、商店街のにぎわいも創出されています。

［昭和４７年］



（資料：国土地理院旧版地図）

[5] 各商店街の概況

(1) 錦町通り商店街

錦町通り商店街は、県道福岡日田線と西鉄春日原駅との間に位置し、県道福岡日田線から西鉄春日原駅に至る錦町通り沿いや錦町通りと交わる道路沿いに商店が集積しています。

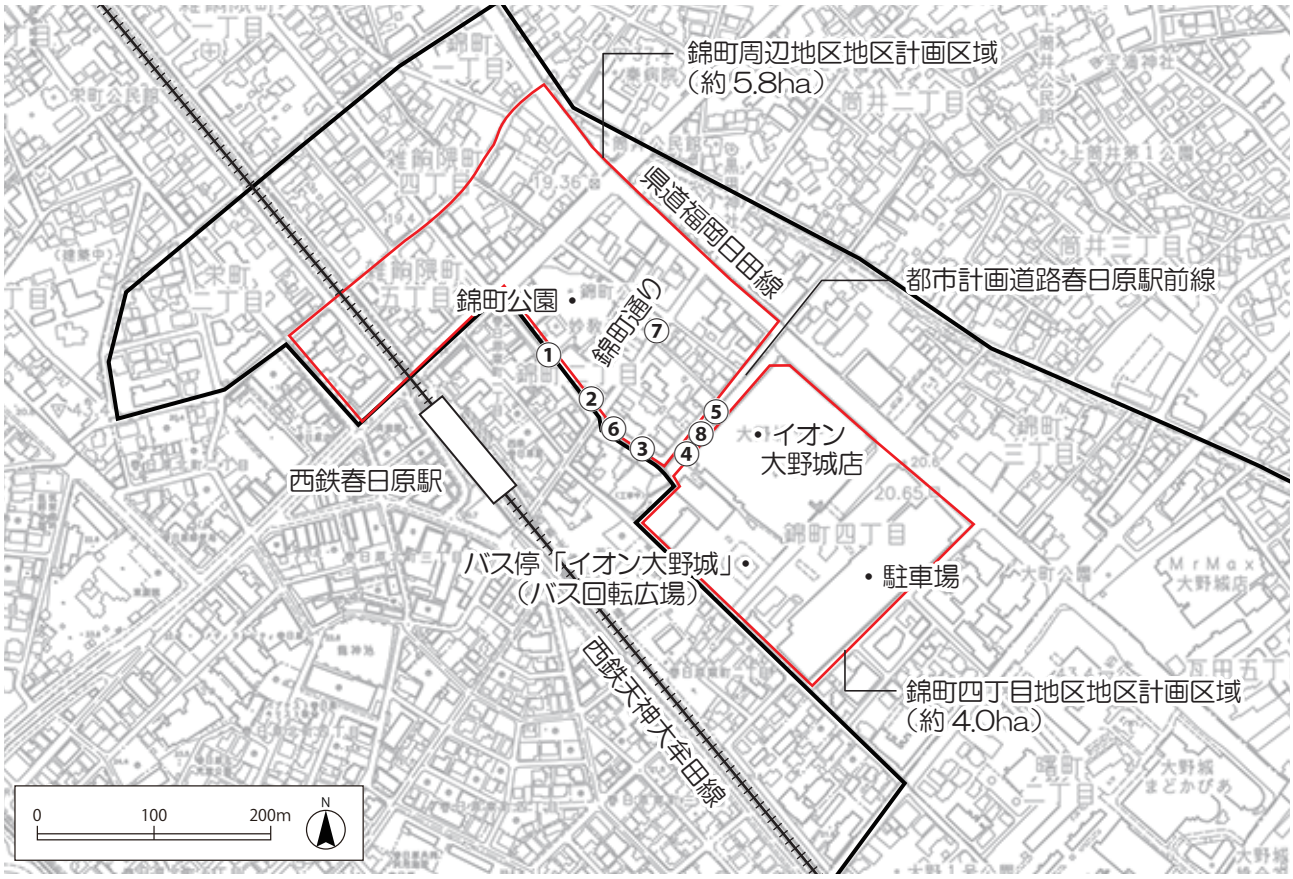
錦町通り商店会が結成され、商店街の活性化に向けて、「1コインデー」等の開催に取り組んでいます。

商店街に隣接してイオン大野城店が立地しています。イオン大野城店は、市内で最も大きなショッピングセンターです。店内には映画館が入り、大型の駐車場もあります。その南にはバス停「イオン大野城」とバス回転広場も位置しています。利用者は周辺地域に留まらず、市内外から多くの人々が訪れています。

商店街とその周辺は、「錦町周辺地区地区計画」と「大野城市錦町四丁目地区計画」により、風俗系用途の制限が図られています。

現在、イオン大野城店と商店街の間を通る都市計画道路春日原駅前線の整備が進められています。

図：錦町通り商店街



①食品や日用品等を扱う店舗が多い商店街

②西鉄春日原駅前から延びる通り

③春日市側（写真右）と向き合う店舗（写真左）

④整備が進む都市計画道路春日原駅前線と通り沿いの店舗

⑤大規模小売店舗と向き合う店舗

⑥空き店舗

⑦店舗のシャッターアート

⑧商店街の近隣に建つ高層マンション

(2) 白木原商店街

白木原商店街は、県道那珂川大野城線の沿道や西鉄白木原駅とJR大野城駅との間に商店が集積しています。

白木原商店会が結成され、商店街の活性化に向けて、各店自慢の一品を500円のワンコインで提供する「白木フェスティ原」等の開催に取り組んでいます。

白木原駅前広場と県道那珂川大野城線に接する箇所にはサニー白木原店が位置しています。駅前の身近な食品スーパーとして多くの人々に利用されています。

福岡県筑紫総合庁舎には「那珂県土整備事務所」、「筑紫県税事務所」、「筑紫保健福祉環境事務所」、「流域下水道事務所」が入居しています。日々、多くの人々が働き、多くの利用者が訪れる官庁施設です。

商店街の周囲には大野中学校や敷地内に「白木原公民館児童の遊び場」が設置される白木原公民館があり、子どもが集まる場になっています。この他、地縁神社境内も身近な憩いの場として親しまれています。

商店街とその周辺は、「白木原駅周辺地区地区計画」により、風俗系用途の制限が図られています。

現在、西鉄高架事業と都市計画道路白木原下大利線の整備が進められています。

図：白木原商店街

①食品や日用品等を扱う店舗が多い商店街

②県道那珂川大野城線沿いの店舗

③駅前広場に面するパン屋と駅前広場に隣接する商業施設

④西鉄白木原駅周辺に建ち並ぶマンション

⑤西鉄白木原駅（仮設）

⑥建て替えが予定されているマンション

⑦市民の憩いの場として活用される鎮守の杜（地祿神社）

⑧駅前広場に設置されたトレイルのサイン

(3) 下大利商店街

下大利商店街は、西鉄下大利駅の西口駅前広場を中心に商店が集積しています。

下大利商店会が結成され、商店街の活性化に向けて、「下大利商店街ハロウィンパーティー」、「花男祭」、「七夕祭り」等の開催に取り組んでいます。

商店街に隣接してイオン下大利店、いせやフーズクラブ下大利店が立地しています。地域の身近な食品スーパーとして多くの人々に利用されています。

西鉄下大利駅の東側には、UR都市機構の下大利団地が位置しています。下大利団地と西鉄下大利駅の間では「下大利駅東土地区画整理事業」が実施され、近年多くの高層マンションが建設されています。

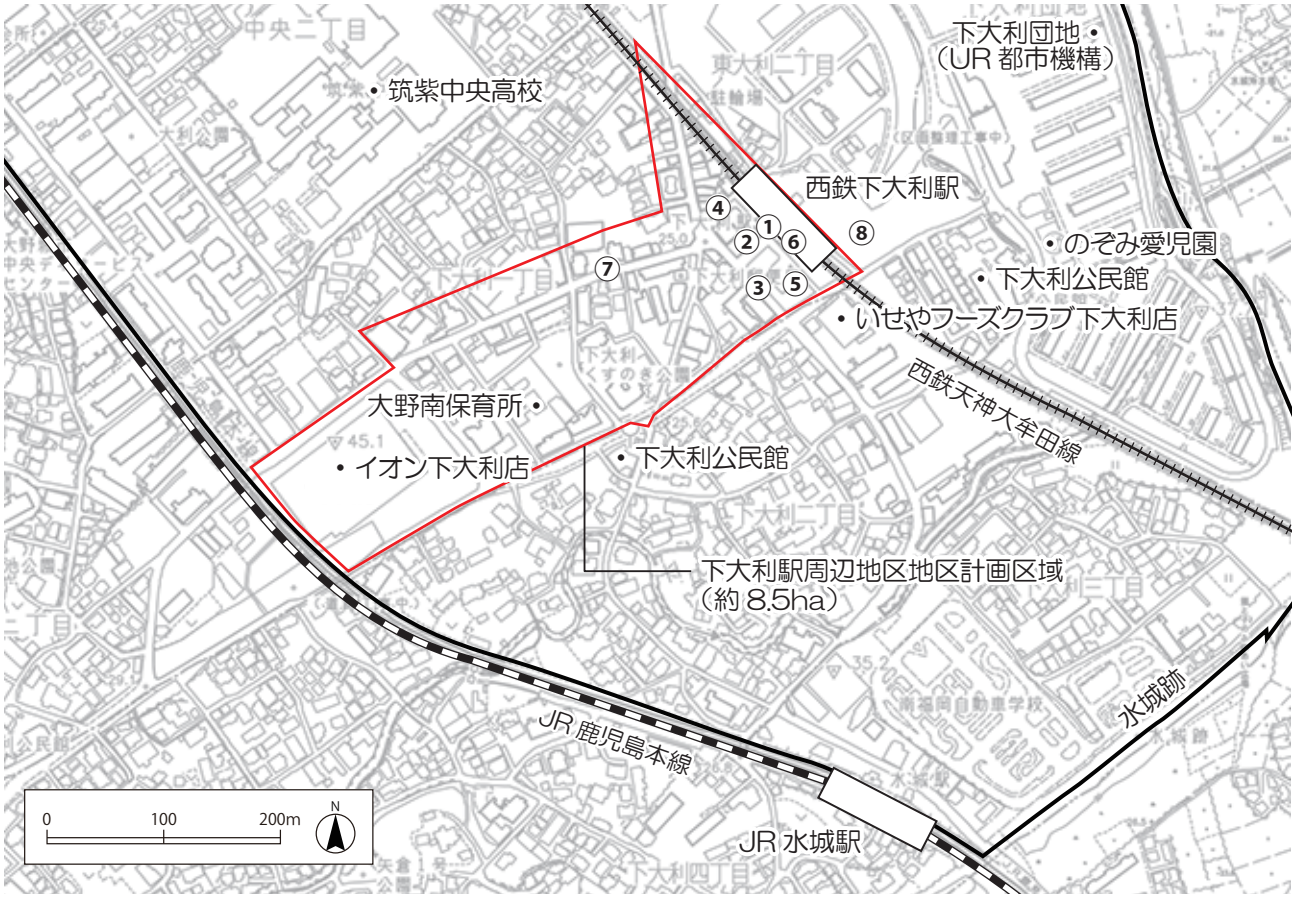
西鉄下大利駅の北側には、筑紫中央高校が位置し、西鉄下大利駅が最寄駅です。朝夕多くの高校生が登下校しています。

商店街とその周辺は、「下大利駅周辺地区地区計画」により、風俗系用途の制限が図られています。

現在、西鉄高架事業、西口駅前広場等の整備が進められています。

なお、西鉄下大利駅の南側には、国指定特別史跡「水城跡」が位置しています。西鉄下大利駅とJR水城駅が、その最寄駅となっています。

図：下大利商店街



①整備が進む高架（手前）と駅前広場（奥）

②駅前広場に面する店舗

③駅前広場に面する店舗

④居酒屋等が立地する駅周辺の飲食街

⑤建物が撤去され、整備が待たれる駅前広場の空地

⑥下大利駅（仮設）

⑦西鉄バスが通るバス通り

⑧下大利駅東側に立地するマンション群

[6] 市民意向

(1)「高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）」に関する意見募集

1）調査の概要

「高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）」の策定にあたって、同計画の最終的な取りまとめの前に市民意向を把握する意見募集を行いました。

場所：大野城まどかぴあ1階ロビー

期間：平成27年6月1日（月）～6月15日（月）

2）市民意向の分析

①子育て支援、高齢者支援の充実

●子育て支援、子育て環境

- 高架下にお店をつくったり、託児所を作って欲しい。
- 認可保育所を作って欲しい。
- 大野城市の子育て支援施設は、“幼児のみ”か“小学生以上”なので春日市の児童センターのように、幼児と小学生が遊べるところが欲しい。（30代主婦）
- 遊べるところが欲しい。（5歳）
- 下大利子育て中の人がのんびり遊べる場所とカフェを作って欲しい。
- 遊ぶ場所が欲しい。（7歳）
- アスレチックや遊園地など楽しめる所が欲しい。（8歳女の子）
- 遊ぶところが欲しい。
- 公園で「運動できるところ」と「そうじゃないところ」に分けて欲しい。（危ないから）
- 小さい子の為に柵が付いた砂場を増やして欲しい。（小学生）
- ママたちが赤ちゃんを連れて遊べる場所を作って欲しい。
- 雨でも子どもが遊べる場所が欲しい。（10代小学生）
- 子ども～高齢者まで家に一人でいたくない人の為に自由に気軽に一日過ごせる広場が欲しい。
- 安心して子どもと散歩や遊べる空間が欲しい。（20代男性）
- ボール遊びや自転車練習など、普通の公園では危ないと言われることができるスペースが欲しい。
- ゆっくり子どもと安全に遊べるところが欲しい。水遊び等がしたいです。（30代主婦）
- 雨が降ると子どもたちが外で遊べる場所がないので高架下に子どもたちが遊べる空間や公園など作ったら良いと思う。（40代女性）
- 公園案は慎重に考えて欲しい。福岡市の薬院にある高架下の公園はよく通るけれど、全く子どもが遊んでいない。デザインが悪いのではないかと思う。しかし反対ではないです。
- 無料で小学生が雨の日でものびのびと遊べるアスレチックを作って欲しい。（10歳女子）
- 動物と触れ合えるところが欲しい。（7歳）

●年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に身近な地域でデイサービスを受けられる場所の確保

・富山式デイサービス（※年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に身近な地域でデイサービスを受けられる場所）を作って、色んな世代のコミュニケーションの場として欲しい。アーケードなど（40代主婦）

●高齢者支援

・高齢者の方がほっとくつろげる場所を作って欲しい。

②交通対策

●駐輪場

・西鉄春日原駅近くに駐輪場が欲しい。（50代男性）

・西鉄春日原駅によってイオン側の自転車の駐輪場を高架下にして欲しい。（60代女性）

・無料駐輪場が欲しい。

・自転車置き場を増やして欲しい。（大学生）

●歩行者道・自転車道

・安全でお年寄りや小さい子どもが安心できる歩道が欲しい。（10代男性）

・夜でも安心安全に歩ける歩道、照明が欲しい。

・自転車や歩行者、高齢者、身体の不自由な方も安心して、足に負担をかけずに歩けるソフトな歩道の整備。

・道幅が狭いので安全な広い歩道を整備して欲しい。（中学生）

・コミュニティ道路（歩道を広くとった道路）があるとよいと思う。（中学生）

・安心して歩ける場所が欲しい。

・高架側道の歩道スペースを広くして、沿道利用者がゆっくり買い物等できるようになるとよい。（30代男性）

・自転車専用にして安全に走行できる道路の整備をして欲しい。

・JR大野城駅の待ち時間が長いので、歩道橋を作って欲しい。

●散策路の整備

・下大利団地、下大利3丁目と水城跡を歩いて回遊できるお散歩ルート（遊歩道）や公園が欲しい。

・土地と史跡の回遊できるコースを作って欲しい。

・下大利商店街と水城跡など回遊できるコースが欲しい。

・高架沿いの地面に「一1000M」など書いてウォーキングやマラソンのコースにして欲しい。

・西鉄春日原駅周辺をしっかりと考えて欲しい。人の流れ、安全性、商店街のお客の流れなど。

●その他

- まどかぴあのイベント時、駐車場から旧3号線になかなか出れず、困ります。瑞穂町辺り予備の駐車場があればいくらか車の流れが上手くいくのではと考えます。
- 団地を道路で2つに分けないで欲しい。分断道路反対です。
- 下大利団地の良い環境を守る。遊歩道は良いです。分断されるとだいなしです。
- 子どものためにも団地は良いと思う。

③文化振興の充実

●文化施設の充実

- 防音対策をしっかりした個人～少人数対応の管楽器などの練習ができる場所が欲しい。（コミュニティセンターの視聴覚室が借りられるところもあるが、閉め切っていても音漏れがして、学習スペースで勉強している人の迷惑になりそうだから）
- 西鉄春日原駅に小さくてもよいから劇場（200～300人規模）が欲しい。仕事帰りに映画を見たり、お芝居を見たり、疲れた心に栄養補給がしたい。ふれあい文化センターやまどかぴあではちょっと遠い。それに春日や大野城を文化の香る街にしたい。するとお店も自然とにぎわうと思う。
- レンタルスタジオが欲しい。（50代男性）
- 小学生が短期間で低料金で学べる習い事を作って欲しい。各コミュニティセンターであればもっとよい。
- スタジオ（バンドの練習ができる）が欲しい。格安で提供して高架下からいつの日か有名なミュージシャンを作る。
- 夏休み、冬休み等の長期休暇や雨天時に遊べる室内施設が欲しい。（施設内で飲食できるとなおよい。）（30代主婦）
- 春日市と連携して、西鉄春日原駅前に情報ステーションやイベント広場が欲しい。（行政や民間の情報発信基地）（60代男性）
- 行政や民間の情報発信基地のようなものに大賛成です。（春日市民）
- 高架下を音楽のある空間にして欲しい。（40代女性）
- 高架下の一区画に大野城の歴史や史跡の紹介が欲しい。
- ふるさと館やまどかぴあとの連携をして欲しい。（40代男性）

●学習スペースの充実

- 勉強できる場所が欲しい。（20代女性）
- 中高生、駅を利用する大人が気軽に使える自習室があるといいです。会員制（安価で）、ドリンクバーくらいあるとよい。
- 「気軽に使える自習室」に大賛成です。
- 水菜園ハウスが欲しい。JAと市がタイアップしてリーダー研修、栽培方法を研鑽し、若い人ご婦人部等が参加し、市の活性化を図る。

④物産販売の充実

- 西鉄ストア春日店を後置して欲しい。
- 西鉄ストアは絶対作って欲しいし、早くして欲しい。
- 軽トラックの朝市開催、JA・生産直売方式でして欲しい。

⑤カフェ等の充実

- 下大利におしゃれなカフェや飲食店が欲しい。（30代男性）
- くつろげるコーヒーショップが欲しい。（40代男性）
- 目や耳、体などが不自由な人も気軽に行ける店（カフェなど）が欲しい。（小学生）
- カフェが欲しい。（30代女性）
- 駅周辺でゆっくりできるカフェ（20代男性）・マルシェが欲しい。（30代女性）
- OpenCaféが欲しい。そして楽しい町、住みたい町にして欲しい。（30代主婦）
- 子連れで行ける飲食店（畳、キッズスペースなどがある）と散歩ができるところが欲しい。（30代主婦）
- カフェ、ワインバー等があればいい。できれば資格試験の勉強ができるスペースもあればよい。（30代男性会社員）
- 西鉄春日原駅の付近におしゃれな雑貨を集めた店が欲しい。有名な美味しいパン屋さんやカフェスペースも作って欲しい。他にもボンラパスのような店も入っていたらうれしいです。（30代主婦）
- 西鉄下大利駅の近くにカフェが欲しい。居酒屋ばかりでなく、子連れでも入りやすい飲食店が欲しい。（20代女性）
- 下大利駅のバス停は、バスの待ち時間が長い時に時間をつぶす店がないと感じる。

⑥起業や出店への支援

- いろんな事業ができるように土地を安く貸して欲しい。
- 財力の無い若者が色々な事業をする為に、安い賃貸あるいは安く土地を提供して欲しい。
- 安く土地を貸して欲しい。子ども向けの事業をはじめたい。
- 自分の店を出したいけどなかなか出せない人の為に手作りの店を出店できるブースを作って欲しい。（50代女性）

⑵「シビックゾーン基本構想」に関する意見募集

1）調査の概要

「シビックゾーン基本構想」の策定にあたって、市民ニーズを把握するため、一定期間を定め、意見募集を行いました。

場所：大野城まどかぴあ1階ロビー

期間：平成27年9月27日（日）～10月14日（水）

2）市民意向の分析

●子ども達の遊び場、居場所の確保

- 子どもが自由に遊べる場所（体育館のようなもの）公園では、治安が悪く遊べないから。
- 幼児が雨天の日でも遊べる場所を。（室内、遊具を沢山取り入れて欲しい。）
- 公園の管理が行き届いておらず破損したままの状態がある。
- 県警跡地には遊具がある公園を作るといいと思います。
- 子どもたちが安心してあそべるところがなくて困っています。のびのび遊ばせたい。
- お弁当を持ち寄って子どもと親が遊べる（集まれる）ような場所が欲しい。
- 児童館を作って欲しい。子どもが元気に遊べる場所。毎日あいている所を。
- 雨の日でも遊べる場所（幼児から中学生くらいまで）
- 青少年がゆっくりと友達と話せる場所。
- 囲いのある砂場がついている公園がもっとたくさんあるといいです。
- もうすこし、子どもの遊べるスペースをつくってください。
- 若者が集まる居場所。
- こどもたちが楽しくて元気に遊べるとこ。
- 幼児から小学生まで、一緒に遊べる施設があったら嬉しいです。
- 月に何度か（土日）幼児のイベントがある場所。
- 少年少女が汗を出せる、ダンス、うた、仲間作りができる場所。
- 中高生が居心地良くすごす「居場所」のようなところ。
- 中高生が勉強するスペースがあるといい。
- 子どもの仕事場体験を色々とふやして欲しい。
- 花火ができる場所。
- 公園がもっと欲しい。
- ゲームセンターが欲しい。
- まどかぴあや、プラザなどの施設に、どこでもいいから４才～１２才くらいまでの子が遊べる場所が欲しい。
- まどかぴあで小学生以上が遊べるところが欲しい。もしあったら、まどかぴあに来る人が楽しめて、いっぱい人が来ると思う。
- 子ども（10才）から1人で入れる入浴施設等。
- 遊園地と水族館。

・公園がいっぱい欲しい。
・動物園が欲しい。
・遊園地があったらいいな。
・遊園地が欲しい。

●交流の場づくり

・高齢者や幼児などのデイ（日帰り）セルフサービスのもの。
・シニアが友人作り出来る所。案外そういう人多い。
・まどかぴあは人が触れ合うところが少ないので、そういう場所を設置して欲しい。
・くつろぎの場所　親しみ易く、楽しい場所。
・いつでもどこでもくつろげる場所。
・ダンスなど、自由に市民が発表できる場が欲しい。
・高齢者の人が気軽に集えるところをたくさんつくって下さい。下大利高架の利用も。
・いつでもどこでもくつろげる場所　トランポリンができる場所が欲しい。
・高齢者がいつでも行くことができる施設をつくって欲しい。
・みどりの木陰とベンチ。
・まどかぴあ1Fにみんなが集まって気軽に語らえる場所、スペースがあったらいいな。
・まちのことが大好きな人が集まる場を
・まどかぴあにまち合い室を作ったら。
・自死者が少しずつ増えています。いじめなどでくるしんでいる人たちのふれあい空間を下さい。
・朝の時間に集まれる場所。
・外国人ともっと触れ合える広場が欲しい。
・外国の人との交流場所が欲しい。

●文化機能の充実

・まどかぴあ図書館をもっともっと「たのしい。本が好きになった」と思わせるような図書館にしてはどうですか。
・美術館があったらいいな。
・まどかぴあで勉強するところをつくって欲しい。図書館で勉強するスペースをつくって欲しい。
・学習室のような、まどかぴあで勉強する場所が欲しい。
・ラウンドコーナーで勉強ができるようにして欲しい。
・水族館が欲しい。
・まどかぴあに来た人が「また来たいな」と思えるようにまどかぴあにして欲しい。
・大人も自由に勉強できるスペース。
・音楽が聴ける場所。
・まどかぴあ図書館をはやく開館して欲しい。
・静かに本をよむ場所。

・私の夢は声優です。演技を学べるような場所（何か）が欲しい。
・マンガ好きの人 マンガ家志望の人が通える学校、若しくはカフェ。
・ピアノがいつでもひけるところ。
・マンガがある図書館があったらいい。
・いつでもグランドピアノをひくことが出来る所。

●スポーツ施設の充実
・市民プール（温水）を造ってください。高齢者にも必要です。
・まどかぴあで、スポーツができるところが欲しい。
・スポーツができる場所がいっぱい欲しい。
・スポーツができるコーナーを作ってください。
・いつでも使えるスポーツができる場所が欲しい。
・大野城市にフットサル場を。
・インラインスケート場が欲しい。

●防災対策
・防災などのセンターを作ったらどうか。河川の危険場所の防犯カメラ設置など。
・河川のハンランを考えると高い場所を作ると良いと思います。
・県警跡地を公園にする。災害時には避難場所になる。
・筒井4丁目に住んでいますがヒナン場所が公民館で大丈夫?心配です。特に水害。

●その他
・まどか号の車椅子の乗り降りしやすいバス停を増やして欲しい。
・観光地がもっとあったらいい。
・なんでもかんでもカタカナ語にしすぎ。シビックゾーンも日本語で表記して欲しい。
・市役所東側の道路の電線、電柱埋設と看板規制により景観の改善を。
・駐車場をすっきり。
・魚がいっぱいいるところがいい。
・お花畑が欲しい。
・定期的にプレゼンできる場所があると良いネ。

[7] 中心市街地活性化基本計画策定委員会の名簿

No	選任区分	所属団体等	氏名 選任区分別 五十音順
1	第 1 号 （学識）	「福岡県まちづくり専門家」登録講師 （有） プランドゥ　代表取締役	十時　裕
2	第 2 号 （商工会会長）	大野城市商工会	花田　稔之
3	第 3 号 （商工関係者）	錦町通り商店会	古賀　美里
4	第 5 号 （商工関係者）	下大利商店会	毛利　めぐみ
5	第 4 号 （商工関係者）	白木原商店会	山本　沙織
6	第 6 号 （住民）	北地区コミュニティ運営委員会	井手　容子
7	第 6 号 （住民）	中央地区コミュニティ運営委員会	金澤　美代子
8	第 7 号 （団体）	大野城市にぎわいづくり協議会	岡部　和子
9	第 7 号 （団体）	大野城市シニアクラブ連合会	柴田　順一
10	第 7 号 （団体）	特定非営利活動法人チャイルドケアセンター	吉田　まりえ

※敬称略

[8] 委員会の開催日時と主な議題

	開催日時	主な議題
第1回	平成 28 年 12 月 20 日（火） 10：00 ～ 12：30	●計画策定の背景と目的について ●計画の位置づけについて ●中心市街地活性化の現状と課題について ●中心市街地活性化の目標について
第2回	平成 29 年 2 月 9 日（木） 10：00 ～ 12：00	●中心市街地活性化の現状と課題について ●中心市街地活性化の目標について ●中心市街地活性化の方針について ●中心市街地活性化の取り組みについて
第3回	平成 29 年 3 月 22 日（水 ） 10 ：00 ～ 12 ：00	●計画の全体構成について ●中心市街地活性化の取り組みについて ●今後の展開について ・指標や体制について

大野城市中心市街地活性化基本計画

編集発行：大野城市建設環境部都市計画課　　福岡県大野城市曙町 2 丁目 2 番 1 号